



# 神戸製鋼グループ 環境・社会報告書

KOBELCO SUSTAINABILITY REPORT

# 2015



# KOBELCO

# TOP MESSAGE

[社長メッセージ]

## 神戸製鋼グループは、環境と社会に貢献するものづくりを通じて、次代への成長を図ります。

1905年の創業から110年。神戸製鋼グループは、多彩な分野のものづくりを通じて、くらしや産業・社会を支えてきました。そしていま、神戸製鋼グループの独創的な製品と技術は、地球環境や社会が抱える困難な課題の解決に貢献しています。ものづくりを通じた環境・社会貢献により、新たな成長を図る神戸製鋼グループ。その中長期の経営ビジョンとCSR活動について、(株)神戸製鋼所社長・川崎博也がお話します。

### 素材・機械を中心とした幅広い領域で、環境・社会に貢献する事業活動を進めます。

神戸製鋼グループには、鉄鋼、溶接、アルミ・銅など素材系の事業、産業・建設機械、エンジニアリング、環境ソリューションなど機械系の事業を中心に、電力卸供給、不動産など幅広い事業分野があります。こうした事業から生まれる製品・技術により、神戸製鋼グループはくらしや産業の基盤を担っています。

また、グループ内には環境負荷の低減やエネルギーの安定供給など、環境や社会が直面する課題の解決につながる製品・技術が豊富に存在します。こうしたものづくりを強化することで、地球環境や社会に貢献しながら、安定した経営とさらなる成長を目指してまいります。

### 環境保全につながる技術開発で次代への成長を加速します。

神戸製鋼グループは、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」に基づき、次代への成長戦略を推進しています。「KOBELCO VISION “G”」は、第1ステージ

(2010年度～2012年度)で構築した基礎の上に、土台を築いていく期間である第2ステージ(2013年度～2015年度)の最終年度に入りました。

「KOBELCO VISION “G”」の第2ステージでは、地球環境の保全に直結する製品や技術の事業化が次々と推進されています。たとえばCO<sub>2</sub>排出量の低減につながる自動車燃費規制に対応し、中国では車体を軽量化する鉄鋼製品(高張力鋼板=ハイテン)の現地企業との合弁会社や、アルミパネル材製造拠点の設立を進めています。

さらに、鉄とアルミ、溶接を組み合わせることで強度と軽量化を両立させるマルチマテリアル化技術により、自動車の軽量化を加速し、燃費向上に貢献していきます。

### 水素ステーションや燃料電池車の技術で、水素社会の実現に貢献します。

走行時にCO<sub>2</sub>を排出しない次世代自動車として注目が集まる燃料電池車(FCV)にも、私たちの技術が役立っています。燃料電池車の本格普及に必要な水素供給インフラについて、超高压技術を駆使した水素ガスの

## 神戸製鋼グループ 企業理念

信頼される技術、製品、サービスを提供します

社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます

たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

神戸製鋼グループは、皆様の大きなご支援のもと、「技術と技能の研鑽に努め、製品やサービスの提供を通じて、社会のニーズに応えること」、「一人ひとりを互いに尊重しあいながらもグループの和を意識し、同じゴールに向かって一丸となって努力すること」により、社会の発展や働く人々の幸福を実現すべく活動してきました。また昨今の企業を取り巻く環境の厳しい変化の中では、「チャレンジ精神」を持ち、変化に対して迅速に、かつ的確に対応することが一層重要になってきていると考えています。

上記の企業理念には、このような思いが込められています。引き続き、この企業理念を全グループ社員が共有し、神戸製鋼グループが社会と共に発展することを目指していきます。

圧縮と冷却、貯蔵などの機能を集約し、コストダウンとコンパクト化を実現した水素ステーションユニットを開発しました。

また、トヨタ自動車(株)が発売した燃料電池車「MIRAI」に神戸製鋼のチタン材やアルミ材が採用されています。水素社会のいち早い実現に向け、神戸製鋼グループは技術力をフルに発揮してまいります。

### 地域に溶け込む企業市民を目指し、KOBELCO GREEN PROJECTを推進しています。

事業活動を通じた環境・社会貢献の他にも、神戸製鋼グループが各地に展開する拠点では、地域に根ざした企業市民として社会に貢献しています。

兵庫県や大阪府の森林ではKOBELCO GREEN PROJECTとして従業員による「森林整備活動」を展開しています。また、小・中・高校生から森をテーマにした童話を募集し、絵本化する「KOBELCO森の童話大賞」をスタートし、今年で3回目を迎えました。

各地の事業所では、近隣の清掃や地域と一体化したイベントの開催、小中学校や児童施設への出前授業の展開など、地域に愛される企業グループを目指す活動を続けています。

### 「安全・防災」「環境への配慮」「コンプライアンス」を社員一人ひとりに徹底します。

今年、阪神・淡路大震災の発生から20年目を迎えました。あの震災では、神戸製鋼グループも甚大な被害を受けました。そこから生まれた「安全・防災」の教訓が今、全社に息づいています。また「安全・防災」に加え、「環境への配慮」「コンプライアンス」は事業経営の基盤であり、これらを全社員に徹底してまいります。社員一人ひとりが、自らの課題として実践することで、神戸製鋼グループはステークホルダーの皆様の信頼に応える企業体と

して成長していきます。

本報告書を通じて、環境・社会に貢献する神戸製鋼グループの活動の一端にふれていただければ幸いです。



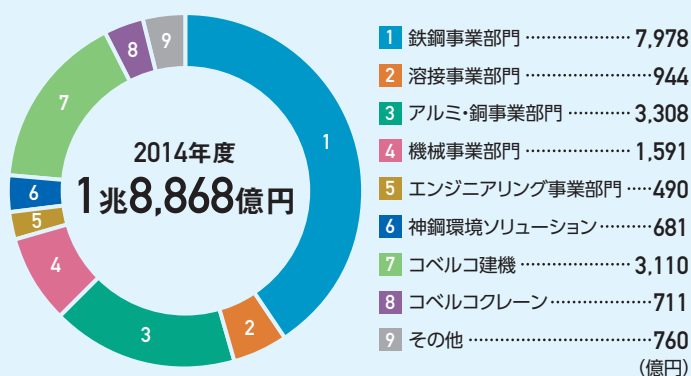
株式会社 神戸製鋼所  
代表取締役社長

川崎博也

### 神戸製鋼グループの概要 [2015年3月31日現在]

会社名	株式会社神戸製鋼所
英文社名	Kobe Steel, Ltd.
グループブランド	<b>KOBELCO</b>
創立	1905年9月1日
設立	1911年6月28日
社長	川崎 博也
資本金	2,509億3,003万3,900円
売上高	連結：1兆8,868億円 単体：1兆281億円
従業員数	連結：36,420名 単体：10,609名(出向者を除く)
連結子会社および持分法適用関連会社	210社

### ▶グループ事業別売上高(連結)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高などの消去額707億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,868億円となります。

# 神戸製鋼グループの環境・社会貢献活動を、 3つの視点から紹介します。

## 2015年度版の編集方針

本報告書は、CSR委員会下部組織の報告書作成部会が、各部門との議論を通じて、ステークホルダーの皆様にとって関心の高い事項や、事業活動としての重要性(マテリアリティ)を考慮し、3つの編集の視点から報告内容を選択して企画・構成しました。

コンプライアンスは、神戸製鋼グループが企業としての社会的責任を果たすための出発点です。コンプライアンスに基づく、公正で健全な企業活動について報告します。



▲ セミナーを通じたコンプライアンスの徹底

### コンプライアンスの 徹底



### 事業活動を通じた 環境への貢献

生産工程における環境配慮、製品・技術・サービスを通じたCO<sub>2</sub>排出量の削減など、地球環境への貢献という社会との“共通価値”を創造する多彩な活動を報告します。



▲ 自動車の燃費を改善する高張力鋼板やアルミニウム合金の提供

### ステークホルダーとの つながりづくり

株主・投資家様、お客様・お取引先様、地域社会の皆様、社員、海外の現地社会など、多様なステークホルダーとのつながりを深めるための活動を報告します。



▲ 宮城県巨理町でラグビー交流会に参加

本報告書は、「GRIガイドライン第4版(G4)」「ISO26000 社会的責任に対する手引」を参考にすると共に、環境報告については「環境報告ガイドライン2012年版」を、また防災については2005年8月1日に公表された防災に関するPR文書(中央防災会議企業評価・業務継続ワーキンググループ)を参考に作成しました。

## ガイドライン対照表



[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/2015/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2015/)

## 報告対象期間

本報告書は、2015年度版として2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の、神戸製鋼グループの環境および社会に対する活動実績に基づいて作成しました(一部、対象期間外の内容を含みます)。環境への取り組みや社会貢献に関するの基本姿勢と、これまでの、そして現在、さらに将来の活動についても述べています。

## 報告対象組織

原則として、(株)神戸製鋼所および国内外グループ会社の活動を報告対象としています。

※環境データの集計対象は、当社ホームページに掲載しています。



[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/2015/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2015/)

## 主要な環境パフォーマンス一覧

神戸製鋼グループの主要な環境パフォーマンス一覧は、当社ホームページに掲載しています。



[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/2015/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2015/)



ECOWAY

神戸製鋼グループは、「環境」イメージの浸透と従業員の「環境」マインドの醸成を狙いとして、環境シンボルマークを設定しています。

フリーハンドの「青々と生い茂る木の葉」がナチュラルで優しいイメージを表現し、矢印と「ECOWAY」という言葉を組み合わせて「環境先進企業グループへの道を一歩ずつ確実に進んでいく企業姿勢」を表しています。

# CONTENTS

神戸製鋼グループ 環境・社会報告書2015

社長メッセージ	1
神戸製鋼グループの概要	2
編集方針/目次	3

## 【特集】阪神・淡路大震災から20年

あの時むすんだステークホルダーとの絆が、神戸製鋼グループの“現在”につながっています。

コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

神戸製鋼グループの事業とCSR	11
コンプライアンスの強化・徹底	13

## 環境報告

3つのVISIONIに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

環境経営基本方針と6つの実施事項	15
2014年度の活動ハイライト	16
環境マネジメント	
環境中長期目標とその取り組み	17
環境活動クローズアップ① 水素社会に貢献するKOBELCO	19
環境活動クローズアップ② 銅のバリューチェーン	21
マテリアルバランス	23
あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底	
地球温暖化対策	25
資源循環の促進	28
化学物質の適正管理	30
環境負荷の低減	31
製品・技術・サービスでの環境への貢献	
製品を通じたCO <sub>2</sub> 排出量削減	32
素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献	33
社外からの表彰	35
研究開発での環境への貢献	36
環境関連情報の開示	37
環境会計	38
全員参加による取り組みの展開	38
リスク管理の徹底	39
海外事業所におけるリスク管理活動	40

## 社会性報告

多彩なコミュニケーションや社会貢献活動により、ステークホルダーとのつながりづくりを進めます。

ステークホルダーとの関わり	41
2014年度の活動ハイライト	42
社会貢献活動クローズアップ スポーツを通じた社会貢献活動	43
優れた製品・サービスの提供	45
株主・投資家の皆様との関わり	47
社会との共生	49
環境活動を通じた貢献(KOBELCO GREEN PROJECT)	52
海外での社会貢献	54
社員が働きやすい職場環境	55
防災の取り組み	59

各事業所の環境保全への取り組み	61
読者の皆様からの評価	65
第三者コメント	66

〈特集〉

# 阪神・淡路大

あの時むすんだ  
ステークホルダーとの絆が、  
神戸製鋼グループの“現在”に  
つながっています。



お客様のために

世界中の自動車生産を、  
けって止めない。

P. 7

震災時 自動車用弁ばね用線材の供給確保

震災～現在 大規模地震を想定した  
「BCP (事業継続計画)」の策定

地域のために

くろがねの  
応援隊。

P. 8

震災時 ラグビー部をはじめとする神戸製鋼の  
各スポーツ部による巡回パトロール

震災～現在 市民の応援を受けたラグビー部の活動  
東日本大震災への復興支援活動

# 震災から20年

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、神戸市に本拠を持つ神戸製鋼グループにも甚大な被害をもたらしました。震度7の激震により高炉や建物、製造ラインが被災し、電気や水の供給も停止する中、従業員たちは自分たちにできることを探しました。お客様のために、被災した地域のために力をふりしぼり、ステークホルダーとの“信頼”という絆を結んだのです。大震災の中で、神戸製鋼グループはどう活動したのか。震災の教訓をどのように活かしているか。阪神・淡路大震災から20年目に報告します。



従業員のために

進化した「安全・防災」を  
目指して。

P. 9

震災時

神戸製鉄所で約400名の無事につながった「安全・防災」の備え

震災～現在

大規模地震を想定した「BCP(事業継続計画)」の策定

社会のために

神戸と共に立ち上がった、  
新電力プロジェクト。

P. 10

震災時

地域への電力供給の安定化に貢献するIPP(電力卸供給事業)の立ち上げ

震災～現在

発電所で発生する熱エネルギーの供給による地域の省エネルギー・環境保全への貢献や、地域交流施設の展開

お客様のために

# 世界中の自動車生産を、けっして止めない。

震災中、部品供給のサプライチェーンを守るために。神戸製鋼は、極秘の製造ノウハウを高炉各社に公開し、代替生産を依頼した。

世界シェアの半分を占める、自動車用弁ばね用線材ラインが被災。

それは、世界中の自動車生産がストップするかもしれない緊迫した事態でした。1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、兵庫県下にある神戸製鋼の主力拠点を襲いました。神戸本社は全壊し、神戸製鉄所では高炉の操業がストップ、生産設備も壊滅的な被害を受けました。

神戸製鉄所で生産していた線材・棒鋼製品のうち、自動車用弁ばね用の線材は当時世界シェアの過半を占めていました。その生産ラインの被災は、世界の自動車部品のサプライチェーンそのものの危機だったのです。

自動車用弁ばね用線材の製造ノウハウを同業他社に公開。

自動車用弁ばね用線材の供給を守ることが、お客様である世界の自動車メーカーに対する責任でした。神戸製鋼は、高炉各社に製造ノウハウを公開し、弁ばね用線材の代替生産を依頼。また、原料岸壁の一部が陥没して貨物を陸揚げするアンローダーが破損した加古川製鉄所では、他の鉄鋼メーカーからアンローダーを譲っていただくなど、他社からの支援を受け早期の復旧を目指したのです。

「他社が代替生産した弁ばね用線材は、一定量は神戸製鋼には戻らないと覚悟していた」当時の線材部門

の幹部はそう振り返ります。しかし、震災から1年後には、自動車用弁ばね用線材の生産量はほぼ100%震災前のレベルに戻りました。代替生産に力を貸してくれた同業他社に改めて感謝したいと思います。



自動車用弁ばね

お客様の信頼に応えるため、大規模な災害に備えるBCPを推進中。

阪神・淡路大震災を契機に、神戸製鋼は以前から取り組んでいたBCP（事業継続計画）の策定をより高度化しました。これは、大規模災害時にも重要な事業を中断させない、もし中断しても可能な限り短い時間で復旧させるため、「従業員の生命・安全の確保」「お客様への製品・サービスの供給の確保」を基本方針に事業のバックアップ体制を構築するものです。

たとえば、有事の際には速やかに災害総合対策本部を設置し、被災事業所の支援に当たる一方、社内回線や携帯電話などが使用できない場合を想定し、社内事業所・本社・支社に衛星電話や防災無線、災害時優先電話を導入しています。また、ホストコンピュータがダウンした際に、事業所相互でリアルタイムにバックアップする対策を講じています。

阪神・淡路大震災から20年。あの日の教訓は、災害に負けずにお客様の信頼に応える、たくましい事業体質を育んでいます。



倒壊した神戸製鉄所・第7線材工場



加古川製鉄所原料岸壁に設置されるアンローダー





1995年に日本選手権7連覇を達成したラグビー部

地域のために

# くろがねの 応援隊。

自らも被災しながら、  
地域のために力を尽くした神戸製鋼ラグビー部。  
その支援活動は、  
東日本大震災の被災地へとつながっていく。

## 被災地に安心を届けた、 「くろがね応援隊」の 巡回パトロール。

1995年1月15日の日本選手権7連覇達成から、約38時間後。初めて体験する激震が、神戸製鋼ラグビー部の選手たちを襲いました。V7という偉業を成し遂げたばかりのラグビー部員48名は、東京に残っていた数名を除き被災。神戸市内の社宅や自宅の一部が倒壊するなど、避難生活を余儀なくされる部員も少なくありませんでした。

「ワン・フォー・オール。オール・フォー・ワン」——一人はみんなのために。みんなは一人のために。ラグビーのチームプレーの精神で、ラグビー部員たちは立ち上がりました。野球部やバレー部\*などの部員と合同で自警団を結成。「くろがね応援隊」と称して、被害がひどい寮や社宅の周辺を中心に、オレンジ色のジャケットとヘルメット姿で24時間体制の巡回パトロールを行ったのです。この活動は、さまざまな不安と闘っていた地域の皆さんから大変喜んでいただきました。

\*野球部・バレー部は現在は休部

## 神鋼病院は、 地域のライフラインになった。

その時、神鋼病院\*は戦場の病院のようでした。震災発生直後からケガ人を受け入れる一方、入院患者を守るため電気や食事、トイレなど山積みされた難問に挑んでいたのです。神戸製鋼は、技術者を非常用発電機の復旧に向けて派遣したり、グループに届いた救援物資を優先して送るなど、地域の生命線として活動する神鋼病院を懸命に支援しました。

震災発生から2週間後、神鋼病院ではボランティアとして被災地域に医師を派遣。病院内から地域へ、被災した皆さんを支援する活動が広がりました。また、昼は会社で復旧作業を行い、夜はボランティアとして周辺地域の復旧に尽力する従業員も大勢いました。

\*当時は神戸製鋼が運営。1998年より医療法人社団神鋼会が運営。2015年4月より社会医療法人化

## あの時、 地域からももらった勇気を、 いま東北に届けたい。

自らも被災しながら、地域への貢献を目指した神戸製鋼グループの従業員

員たち。震災後のシーズンで8連覇を目指したラグビー部には、市民から多くの激励の言葉がかけられました。惜しくもV8は逃しましたが、被害を受けながらも声援をくれた市民に勇気もらったと、当時を知るチーム関係者は語ります。

そして2011年の東日本大震災。神戸製鋼ラグビー部は、2012年6月の釜石市での被災地支援活動や、同年9月に開催した新日鉄釜石OBチームとの「V7チャリティマッチ」を開催する一方、ファンクラブ年会費の一部、試合会場で実施した募金活動を東日本大震災義援金として寄贈。あの時もらった勇気を、東北へと運んでいます。



神戸製鋼ラグビー部による東日本大震災の復興支援活動

従業員のために

# 進化した「安全・防災」を目指して。

震度7の激震の中、「安全・防災」の備えと現場の適切な判断力が、約400名の無事につながった。そして今、大規模な災害や事故に備える体制は日々進歩している。

## 約400名が救われた、神戸製鉄所の“奇跡”。

1995年1月17日5時46分、震度7の激震に襲われた神戸製鉄所には、約400名の従業員がいました。4号転炉に溶銑を装入する作業中だった者、棒鋼工場フォークリフトに乗っていた者、高温の鉄を搬送していた者…。一人ひとりの従業員が生命の危険にさらされました。大きなケガもなく全員が無事だったのは、当時“奇跡”と呼ばれました。

それは、確かに幸運でしたが、けっして運だけではありませんでした。神戸製鉄所をはじめとする神戸製鋼の生産現場では、事故や地震など非常時を想定した対策が各所でとられていました。たとえば、溶銑など高温溶融物への対応や、緊急時の電源確保など、日頃からの「安全・防災」の備え

と、現場を知り尽くした従業員たちの適切な判断力により、神戸製鉄所は被害を最小限に抑えることができたのです。

## 従業員の熱い思いが、75日間で高炉再開を可能にした。

地震発生と同時に、神戸製鉄所の3号高炉は緊急停止。2号高炉も大きな被害を受け、当初は復旧まで半年はかかると予測されていました。一日も早く高炉再開を成し遂げたい。神戸製鋼は震災直後に災害対策本部を設置し、神戸製鉄所の速やかな復興に取り組みました。

熟練の従業員たちは、高炉再開にも大きな役割を果たしました。地震で図面が失われた中、現場に精通し、的確な判断ができる従業員がたくさんいたのです。冷却系統など所内の設備を知り尽くした技術者たちの懸

命な作業と、従業員一人ひとりの強い意思により、震災発生から75日間で高炉に再び火をともしことができました。

## グループをあげて、より高度な「安全・防災」を追求。

あれから20年、大規模な事故や災害から従業員の生命を守るために、神戸製鋼グループでは「安全・防災」の備えを行ってきました。神戸製鋼では、全社耐震対策指針を定め、震度6でも機能を損なうようなダメージを受けない(倒壊せず修復可能)ことを基準に人が常駐する建物の耐震診断や補強を実施。職場の安全対策として地震が起きた際のリスクを洗い出し、コイルの転がり防止などの対策をとっています。大規模な津波を想定した津波対応指針も策定しました。

また、交通機関が不通になった場合の通勤経路の確認を目的に「コベルコ1.17ウォーク」(神戸本社)と帰宅訓練(神戸・東京本社をはじめ4ヵ所)を実施。グループ内では、神戸製鋼グループ防災会議を毎年開催し、主要な事業所の防災調査を行い、その調査を通じて防災教育や人材育成を図っています。今後も、より高度な「安全・防災」を目指しています。



神戸製鉄所3号高炉に火入れする亀高社長(当時)



神戸製鉄所3号高炉への送風開始ボタンを押す光武所長(当時)

# 神戸と共に 立ち上がった、 新電力プロジェクト。

これからも神戸製鋼は、神戸と運命を共にする。  
そんな決意から、神戸の電力需要の約70%をカバーする、  
IPP（電力卸供給）プロジェクトは始動した。



復興後の神戸の街並み



神鋼神戸発電所

## 神戸製鋼グループが 発電所を建設する、 IPP（電力卸供給）事業。

1990年代前半、電力卸売事業自由化の流れと共に、神戸製鋼は新事業として、神戸製鉄所に隣接した発電所建設によるIPP事業を検討していました。しかし、街中に発電所を建設するプロジェクトには慎重論もあり、事業化の見通しは不透明でした。

## 神戸への電力供給を守れ！ 震災が、IPP事業を後押しした。

そんな時に襲った阪神・淡路大震災。地域が大きな被害を受ける中、電力の安定供給も大きな課題となりました。神戸のライフラインを守るために、神戸製鋼は検討中のIPPの事業化を決定し、地域への安定した電力供給への貢献を目指したのです。

震災の渦中でのIPP事業推進は、地域に対する神戸製鋼の決意の表れでした。当時の亀高社長は、新聞のインタビューに答えこう語っています。「神戸製鋼は、神戸から動くつもりはない。あくまで運命を共にする」——地域との運命共同体として、地域と共に立ち上がるために、IPP事業はスタートしました。こうした神戸製鋼の決意に対して地元からは「震災で電気の大切さを再認識した」という声もあり、さまざまな応援やサポートをいただいたのです。

## 電力供給から地域交流へ。 IPP事業の地域貢献がひろがる。

地域への電力の安定供給を目指して誕生した神鋼神戸発電所は、2002年に1号機が始動。2004年には2号機が運転を開始し、神戸市のピーク時の電力需要の約70%をまかなうことができるようになりました。神鋼神戸発電所は、

神戸市の電力供給システムの多重化により電力自給率を向上させ、災害に強い都市づくりの一端を担っています。

地域社会と共に歩む神鋼神戸発電所の役割は、電力供給にとどまりません。発電所で発生する熱エネルギーを供給することにより、地域の省エネルギー、環境保全にも役立っています。さらに、神鋼神戸発電所に隣接してさまざまな地域交流施設を提供。子どもたちが遊びながら科学や技術のおもしろさ、不思議さを体感できる灘浜サイエンススクエア、健康温浴施設である灘浜ガーデンバーデン、テニスコートや人工芝グラウンドを備え一般開放している灘浜スポーツゾーンを設け、地域の方々が集い、楽しみ、潤い、安らぐことのできる場として広くご利用いただいています。神戸製鋼はIPP事業を通じ、さまざまな形で地元・神戸に根づき、今後も市民の皆様の生活に貢献したいと考えています。

# 神戸製鋼グループの事業とCSR

神戸製鋼グループは、企業としての社会的責任(CSR)を果たすことをグループ経営の重要な施策と位置付け、具体的な行動指針として「企業倫理綱領」を制定しています。

特に、ものづくりを担うメーカーとして、環境に配慮した生産活動や製品開発を重視し、環境と社会に貢献しながら持続的に発展する企業グループを目指します。

## 持続可能な社会へ



「企業倫理綱領」は、法令・社会的規範などを遵守し、より良い会社になるための理念と行動指針を示しており、「企業倫理規範」「企業行動基準」、およびその「実施要領」によって構成されます。

「企業倫理規範」は、神戸製鋼がさまざまな企業活動を行う上で、会社および役員・社員が遵守すべき7つの規範を示しています。「コンプライアンスの強化・徹底」を基本に、環境への貢献と、顧客、取引先、従業員、地域社会など多様なステークホルダーとの関わりを通じて、企業としての社会的責任を果たす基盤となるものです。「企業倫理規範」を日々の業務の中で実践するために、とりわけ重要な行動の基準については、その内容をさらに詳しく解説した運用マニュアルを作成し、従業員一人ひとりが実践に努めています。

神戸製鋼グループは、全ての企業活動を「企業倫理規範」「企業行動基準」に則って行うことで、より良い環境や社会に貢献していきます。

### 優れた製品・サービスの提供

安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分に配慮し、優れた製品・サービスの提供を通じて社会に貢献する。

### 環境への貢献

地球環境の保全と豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

### ステークホルダーとの関係強化

ステークホルダーの立場を尊重する。顧客、取引先、社員、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係維持に努める。

### 社員が働きやすい職場環境

社員の人格・個性・多様性を尊重し、ゆとりのある豊かな職場環境を実現する。

### 企業倫理規範

### 海外の現地社会への貢献

海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に寄与する。

### コンプライアンスの強化・徹底

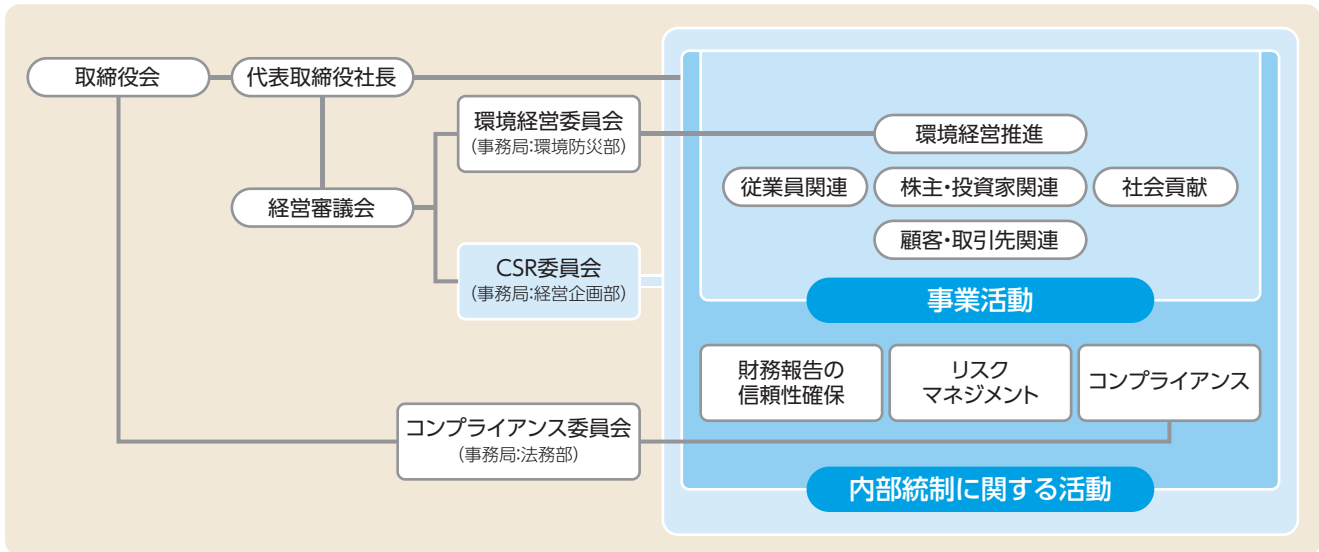
法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行う。

### 地域社会との共生

地域社会に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。

# CSR推進体制

推進体制図



神戸製鋼グループのCSRに関する基本方針の決定およびその活動を集約する機関として、2006年より「CSR委員会」を設置しています。

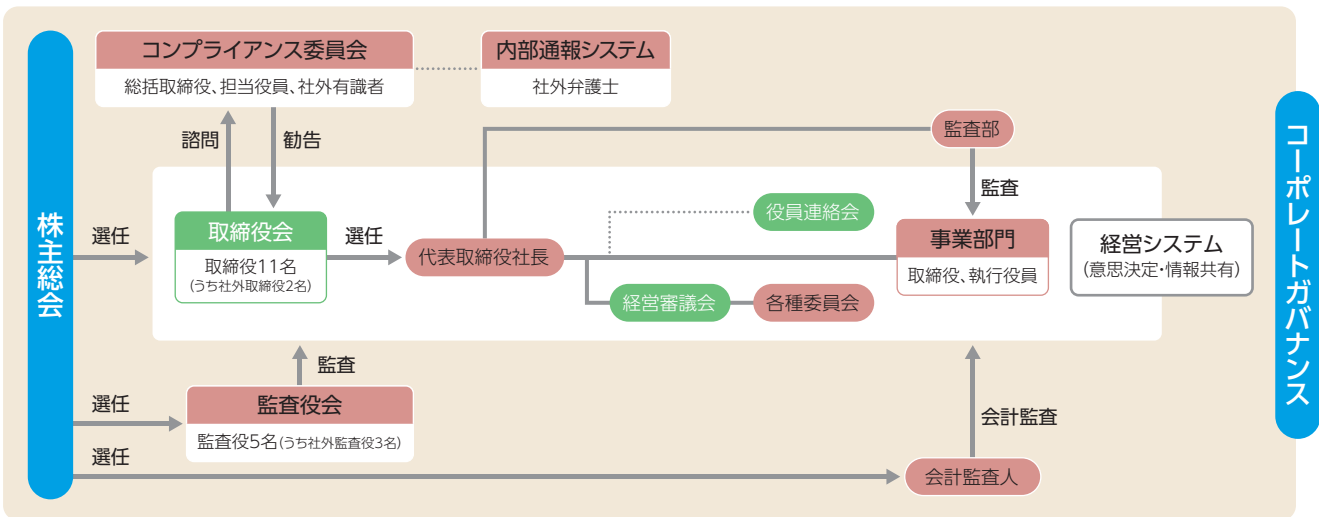
また、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員

会」を設置しており、重要事項に関する審議・提言・進捗確認を行っています。

CSR委員会は、これらのCSRに関する活動を取りまとめ、「神戸製鋼グループ 環境・社会報告書」として発行しています。

# コーポレートガバナンスの強化と充実

コーポレートガバナンス体制



神戸製鋼は、経営の意思決定と日常業務の執行は密接不可分と認識しています。したがって、業務執行の中核は株主および取引先などの関係者に対し法的責任を負う取締役が担うべきであると考え、主要な事業部門は取締役が業務執行を統轄しています。

現行の取締役会は、経営トップ、本社部門の重要な役割を担う者、経営に重要な影響を与える事業部門の長、またはこれに準ずる者、および経営の透明性・公平性を確保し業務執行の監督機能を強化する観点から招聘した社外取締役2名を含む11名で構成しています。

また、神戸製鋼は、執行役員制度を採用しています。執行役員

は、取締役会により選任され、取締役から委嘱された業務を執行する重要な役職であると位置付けています。取締役から執行役員への一定の権限委譲により、経営の機動性の確保を行っています。

このような経営体制のもと、神戸製鋼は、会社法で独任機関として強い監査・監督権限を保障されている監査役制度を採用し、加えて、社外監査役3名を含む5名の監査役を置くことで経営監査機能の一層の強化と企業統治の実効性を高めています。また、内部監査については、独立した監査組織として監査部を設け、全社的な業務執行に関する監査を行っています。

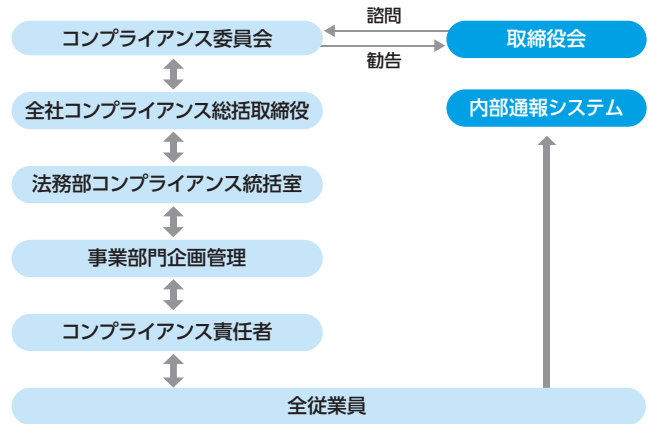
# コンプライアンスの強化・徹底

神戸製鋼は、コンプライアンスを企業存立の大前提であると考えます。これからも経営陣が先頭に立ち、コンプライアンスの定着のための諸施策を推進していくことにより、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化を持った企業グループを目指します。

## コンプライアンス体制

神戸製鋼は、取締役会の諮問機関として「コンプライアンス委員会」を設置しています。社内委員2名に対し、公正中立な立場の社外委員が5名と過半数を占める同委員会では、コンプライアンス活動計画の立案および進捗状況の確認、「内部通報システム」への通報事案に関する審議などを行っています。

また、「全社コンプライアンス総括取締役」「全社コンプライアンス担当役員」、専門部署としての「法務部コンプライアンス統括室」を設置し、事業部門の企画管理担当部署や各部署に設置する「コンプライアンス責任者」と連携しながら取り組みを行っています。



## コンプライアンス教育

神戸製鋼は、役員およびグループ企業の経営幹部を対象とした「コンプライアンストップセミナー」をはじめ、各階層別研修にコンプライアンスに関する内容を織り込み、社員がキャリアの節目ごとに幅広く研修を受ける機会を設けています。特にコンプライアンス責任者に対しては、毎年研修を受講することを要請しています。また、法令教育e-ラーニングを毎年実施し、全社員がコンプライアンスへの理解度を確保する機会としています。



▲ コンプライアンストップセミナー

## コンプライアンス・マニュアルの整備

神戸製鋼は、「企業倫理綱領」の「企業行動基準」に記載された各項目について、より詳しく説明した「社員のための行動手引き」を作成し、全社的なコンプライアンス・マニュアルとして社員に配布しています。このマニュアルは、後述のリスク管理活動で全社が共有する「共通リスク」の項目と連動しており、リスク管理活動の基本マニュアルにもなるものです。



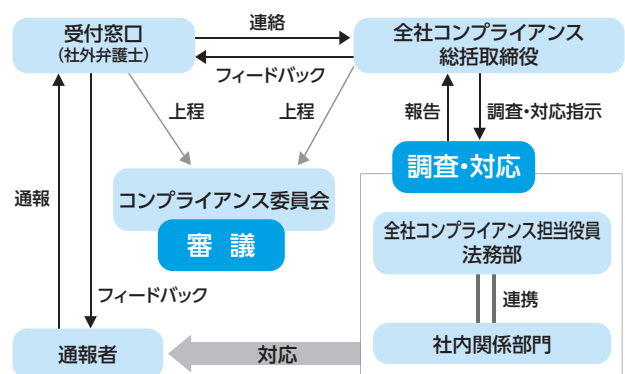
さらに、独占禁止法、下請法、個人情報保護法、安全保障貿易管理などの個別の法令マニュアルも整備し、社員が業務の中で疑問に思ったことを参照しやすい形で整理しています。

### 各種詳細マニュアル

- 独占禁止法遵守マニュアル
- 安全保障貿易管理イントラネット
- 下請法遵守マニュアル
- 企業対象暴力対策マニュアル
- 知的財産情報イントラネット
- 公務員との付き合い方マニュアル
- 個人情報管理マニュアル
- セクシュアルハラスメント防止マニュアル
- 企業秘密管理マニュアル

## 内部通報システム

法令・倫理などのコンプライアンス違反によるリスクの顕在化・拡大を未然に防止し、また早期に問題を把握し、対策を講じるためのしくみとして、「内部通報システム」を設置しています。これは、社内において法令に違反するような不正行為を発見した場合、中立的な立場にある弁護士会推薦の弁護士（社外弁護士）を受付窓口として通報できるようにしたものです。通報内容はコンプライアンス委員会で審議され、適切な対応につなげるしくみとしています。また、グループ各社にも展開しています。

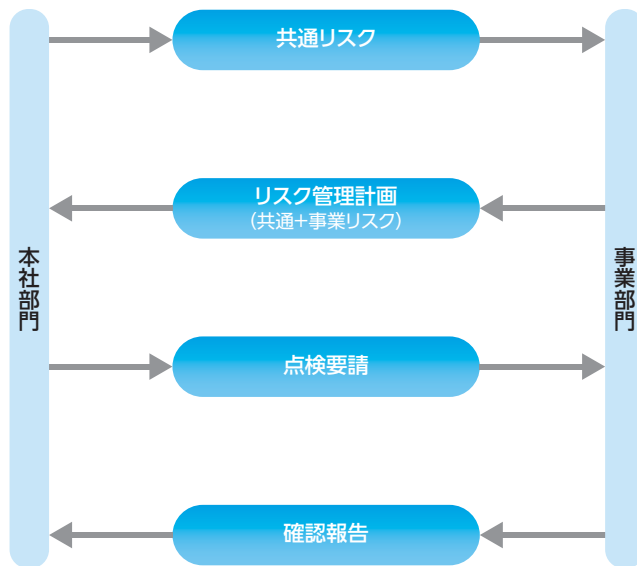


## リスク管理活動

神戸製鋼グループは、自らの部署のリスクを、自らが点検し、改善につなげていくという「リスク管理活動」に取り組んでいます。

この活動は、本社スタッフ部門が、法令や社会の変化を踏まえた上で発信した全社の「共通リスク」に基づいて、各部署が独自の「事業リスク」も加えて、「リスク管理計画」を策定し、事業の中で実行していくというものです。また、年度末には、一年間の活動結果を経営トップも含めた事業部門、部署の責任者が点検・確認して、次年度以降の取り組みにつなげています。

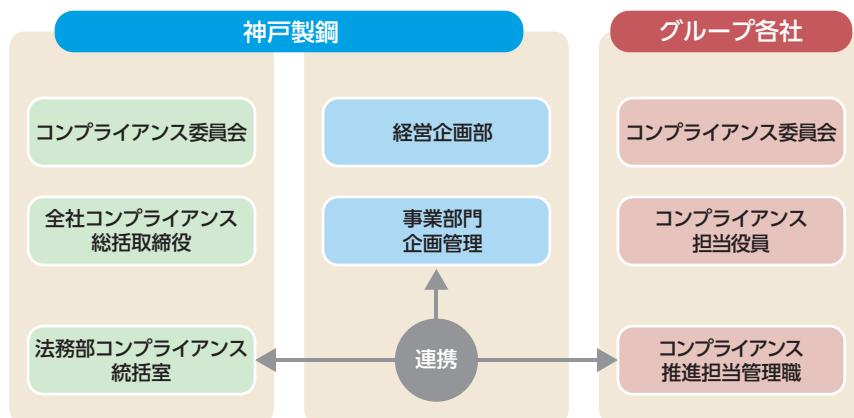
すなわち、各事業部門の中で、コンプライアンスも含めたリスク管理のPDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルが回るしくみとし、この取り組みを継続することで、それぞれの事業の中に、コンプライアンスに対する「感度」が高い組織文化が定着することを目指しています。



## グループでの取り組み

神戸製鋼グループは、グループ各社において、コンプライアンス委員会などの設置、「企業倫理綱領」の制定に加え、内部通報システムを導入しています。各社には「コンプライアンス担当役員」と「コンプライアンス推進担当管理職」を設置し、神戸製鋼と連携しながら各社での取り組みを進めています。

また、グループ会社においても、神戸製鋼と同様に、リスク管理活動に取り組んでいます。



## コンプライアンスに対する高い「感度」を持った企業グループを目指します。

全社コンプライアンスの総括 代表取締役副社長 梅原 尚人

神戸製鋼グループでは、法令や社会規範の遵守なくして企業の存立はあり得ないとの認識の下、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つと位置付け、その徹底に取り組んでおります。

従来から取り組んできた活動に加え、国内グループ会社では、各社のコンプライアンス責任者の方々を通じたコンプライアンス意識のさらなる向上を目指す取り組みや、海外現地法人におけるコンプライアンス活動の展開も積極的に進めていく考えです。

こうした取り組みをこれからも継続し、コンプライアンスに対する「感度」の高い組織文化の醸成を図り、ステークホルダーの皆様の期待に応えていける企業グループを目指してまいります。



# 環境報告

## 3つのVISIONに基づく環境経営で、「環境先進企業グループ」を目指します。

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

6つの実施事項を検討・提言する機関として「環境経営委員会」を設置し、グループの全従業員が参画する環境経営で「環境先進企業グループ」を目指します。

### グループ環境経営推進体制



### 環境経営基本方針

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

#### VISION. 1

環境に配慮した  
生産活動

#### VISION. 2

製品・技術・サービス  
での環境への貢献

#### VISION. 3

社会との  
共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

## グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上 (グループの環境力向上)

### 6つの実施事項

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>1</b> あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球温暖化対策……………P25～27</li> <li>● 資源循環の促進……………P28～29</li> <li>● 化学物質の適正管理……………P30</li> <li>● 環境負荷の低減……………P31</li> </ul> | <p><b>3</b> 環境関連情報の開示……………P37</p> <p><b>4</b> 社会との共生・協調……………P52～53</p> <p><b>5</b> 全員参加による取り組みの展開……………P38</p> <p><b>6</b> リスク管理の徹底……………P39～40</p> |
| <p><b>2</b> 製品・技術・サービスでの環境への貢献 ……P32～36</p>  |   |

### 神戸製鋼グループは、 環境経営を着実かつ地道に推進します。

環境経営委員会委員長（執行役員） **山本 浩司**

神戸製鋼グループは、環境経営は企業経営の基盤であるとの認識のもと、「環境に配慮した生産活動」、「製品・技術・サービスでの環境への貢献」、「社会との共生・協調」を三本柱とした環境経営基本方針を定め、国内外においてグループ環境経営を実践してきました。

当社のビジネスフィールドは世界中に拡大しており、今後もそれぞれの国や地域社会から信頼される企業グループであるべく、引き続き着実かつ地道に環境経営を推進してまいります。





# ECO HIGHLIGHTS

2014年度の活動ハイライト

## 1 あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

2基目のガスタービン・コンバインド  
サイクル・システム発電設備が稼働



## 2 製品・技術・サービスでの環境への貢献

神鋼物流が「省エネ大賞  
省エネルギーセンター会長賞」を受賞

## 3 環境関連情報の開示

「国際フロンティア産業メッセ  
2014」に出展



## 4 社会との共生・協調

第2回 KOBELCO森の童話大賞



## 6 リスク管理の徹底

海外グループ会社の現地環境調査を実施



## 5 全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループ  
環境会議を開催

P.38

# 環境中長期目標とその取り組み

神戸製鋼グループは、環境経営基本方針に基づいた「6つの実施事項」について、2013-2015年度「中期環境経営計画」を策定し、環境に配慮した事業活動を推進しています。そして、環境経営委員会を軸にPDCAによるスパイラルアップを図りながら、神戸製鋼グループとして着実に取り組んでいます。

実施項目	長期方針	中期での目標
<b>1</b> あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底	地球温暖化対策	■徹底した省エネルギー活動に取り組み、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	資源循環の促進	■原料・副原料の使用量適正化、再資源化・新規リサイクル技術および用途の開発などを進め、業界ごとの自主行動計画を達成する。
	化学物質の適正管理	■グループ全体で継続して化学物質を適正管理する。将来リスクの可能性のある化学物質（ジクロロメタン、鉛等）の削減・代替活動に取り組む。
	環境負荷の低減	■きめ細かな操業管理、設備管理を継続し、ばい煙などの環境負荷低減に取り組む。
<b>2</b> 製品・技術・サービスでの環境への貢献	全ての製品開発・技術開発において、環境に配慮し、環境調和型製品や新たなビジネスを創出する。	■環境に資する高機能製品の拡販に努めると共に、バイナリー発電などによる再生可能エネルギー機器や水素社会に対応する機器などの開発・販売を推進し、低炭素社会への取り組みを強化する。
<b>3</b> 環境関連情報の開示	環境関連情報を積極的に開示し、利害関係者とのコミュニケーションを図る。	■情報開示を継続し、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図る。
<b>4</b> 社会との共生・協調	環境の側面から社会との共生・協調を図る。	■森林整備活動、子どもたちへの環境教育を進めると共に、新たな貢献活動として「KOBELCO森の童話大賞」などを含むKOBELCO GREEN PROJECTに取り組む。
<b>5</b> 全員参加による取り組みの展開	神戸製鋼グループの全社員が、継続して環境マインドの向上に努める。	■環境教育（階層別教育、eラーニング）による全従業員の意識・知識・気付き能力の向上を図る。また、環境家計簿（コベルコ エコライフ ノート）の普及参加を継続して促進する。
<b>6</b> リスク管理の徹底	リスク低減に向け、常に組織的、計画的に取り組む。	■グループ全体でマネジメントシステムを維持整備すると共に、環境監査、環境確認調査等を実施するなど、事業所における法令遵守のためのしきみを確立していく。 ■海外においても、現地環境調査を継続し、海外グループ会社の環境管理レベルの向上を図っていく。

自己評価 ○:計画通りに進捗 △:課題あり ×:計画未達

2014年度の実績		2015年度の取り組み	掲載ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ガスタービン設置工事など省エネルギーに関する設備投資案件を着実に実行すると共に、操業改善など草の根的な省エネルギー活動を推進した。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■(一社)日本経済団体連合会策定の低炭素社会実行計画達成に向け、引き続き省エネルギー活動に取り組んでいく。</li> </ul>	25
<ul style="list-style-type: none"> <li>■廃棄物削減に向けた取り組みを進めた結果、各事業部門で2015年自主行動計画目標を達成した。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各業界自主管理目標を達成すると共にさらなる削減を図る。</li> <li>■「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」改正に対応した適切な処理を行うしくみを構築し、確実に運用していく。</li> </ul>	28
<ul style="list-style-type: none"> <li>■PCBや石綿を含有する機材の適正な管理、取扱方法について周知した。</li> <li>■ジクロロメタン、鉛などの化学物質について削減に向けた取り組みを継続して実施した。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境監査や「神戸製鋼グループ環境会議」においてグループ会社も含め化学物質の適正な管理について周知徹底を図る。</li> <li>■化学物質の削減・代替活動を継続して取り組む。</li> </ul>	30
<ul style="list-style-type: none"> <li>■加古川製鉄所では、粉じん対策に継続して取り組んだものの、降下ばいじん量(製鉄所影響値)が2014年5月は3.52t/km<sup>2</sup>/月と、自主管理目標値の3t/km<sup>2</sup>/月を超過した。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■加古川製鉄所において再発防止策を徹底する。</li> <li>■引き続き、きめ細かな操業管理・設備管理を継続し、環境負荷低減に取り組む。</li> </ul>	31
<ul style="list-style-type: none"> <li>■従来比約50%設置面積を縮小したパッケージ型水素ステーションユニット「HyAC mini」の販売を開始した。</li> <li>■神戸市FCV導入促進協議会への参加など、環境ビジネスへの取り組み強化を図った。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自治体の燃料電池車など水素関連技術導入に向けた諸活動に積極的に参加するなど、低炭素社会への貢献に取り組む。</li> <li>■次期中期計画に向け、エネルギー・低炭素技術分野における新たなビジネスチャンスとなる芽を探索する。</li> </ul>	19・32
<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境・社会報告書、ホームページ、環境モニターなどにより環境情報を公開した。また、各種展示会に出展し、当社グループの環境関連製品・技術の紹介を行った。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■引き続き、適切な情報開示を行っていく。</li> </ul>	37
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回「KOBELCO森の童話大賞」は、第1回目よりも多くの団体の後援・協力を得て、応募総数は438件と増加した。第1回同様金賞2作品は絵本化し、兵庫県をはじめとする学校・図書館などに約1,800セットを寄贈した。</li> <li>■兵庫県内2カ所、大阪府内1カ所で定期的に森林整備活動を行った。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「KOBELCO森の童話大賞」の幅広い認知を図り、より多くの子どもたちに参加していただけるようPR活動を展開していく。</li> <li>■森林整備活動の実施、児童館出前エコ教室への参画を継続する。</li> </ul>	52
<ul style="list-style-type: none"> <li>■全社階層別教育・e-ラーニングを行い、法令遵守意識・リスクへの気付き能力向上を図った。</li> <li>■環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)への参加を奨励し、従業員の家庭における環境意識啓発を図った。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■階層別教育・グループ会社などへの環境教育を継続し、環境意識の啓発を行う。</li> <li>■引き続き、環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)への参加を奨励し、環境意識啓発を図る。</li> </ul>	38
<ul style="list-style-type: none"> <li>■「神戸製鋼グループ環境会議」で法令改正状況を周知する一方、環境監査を16事業所で行い、環境関連法令の遵守状況を確認した。</li> <li>■中国での環境リスク調査を行うと共に、2015年4月より環境担当者を中国に常駐化することを決定した。また、中国や東南アジアで、環境セミナーを開催した。</li> </ul>	<p>評価</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境法令教育の充実など支援を行い、リスク管理体制のレベルアップ・強化を図る。</li> <li>■中国での環境管理体制を構築し、環境リスクの把握と是正を図る。また、引き続き、海外グループ会社に、環境セミナーの開催を継続する。</li> </ul>	39

## 環境活動クローズアップ①

2015年は「水素元年」と呼ばれ、水素エネルギーの利用拡大が期待されています。

# 水素社会に貢献する KOBELCO

神戸製鋼グループは、水素ステーション向けに、機械・エンジニアリング分野で蓄積した超高压技術を活かした圧縮機など主要機器を開発し、パッケージ型ユニットとして商品化しています。

素材分野でも、2014年12月にトヨタ自動車(株)から発売された燃料電池車(FCV)※「MIRAI」に材料を提供し、来たるべき水素社会への貢献を目指しています。

※ 燃料電池車(FCV):水素と空気中の酸素を化学反応させ、発電して走行する自動車。

## コストもサイズもダウンしたパッケージ型 水素ステーションユニットの開発

(ハイック・ミニ)  
**HyAC mini**  
設置面積:50%  
(分散設置との比較)



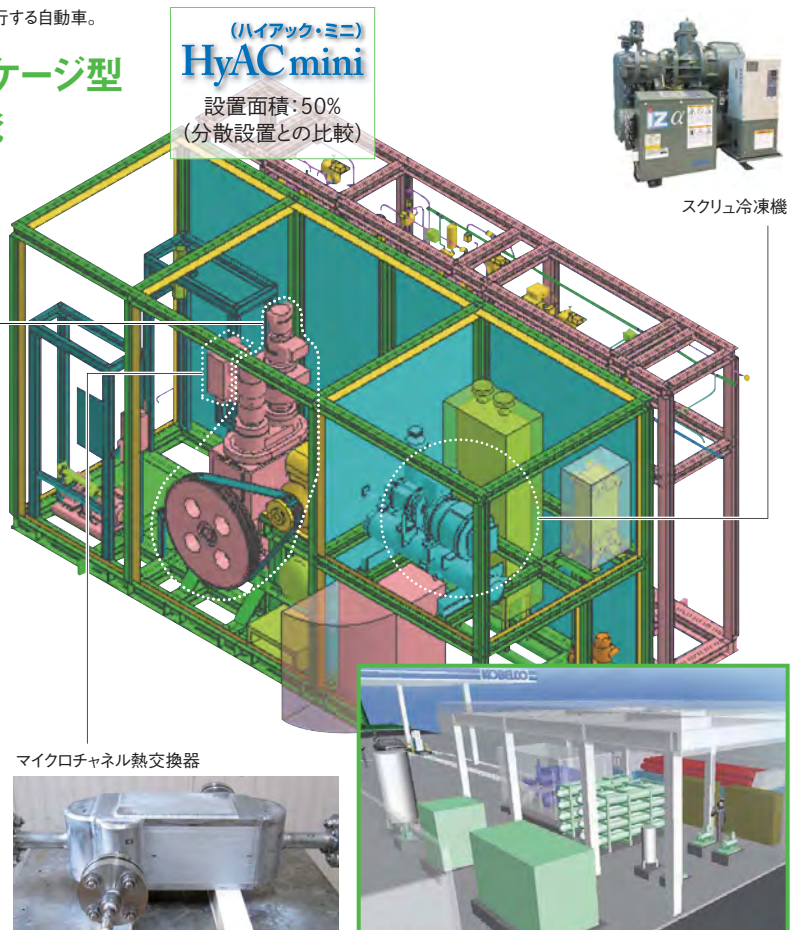
レシプロ圧縮機

神戸製鋼は、水素ステーションに必要とされる主要機器の一部を集約することで、大幅なコストダウンとコンパクト化(当社比約50%削減)を可能にしたパッケージ型水素ステーションユニット「HyAC mini」を開発・商品化しました。

水素ステーションには、高压水素圧縮機、3分という短時間に水素を充填するためにガスを事前冷却する冷凍機、高压に対応した熱交換器、圧縮した水素ガスを貯蔵しておく蓄圧器※などが必要です。

「HyAC mini」は、ガソリンスタンドなどへの水素ステーションの併設という省スペース化のニーズにも対応したもので、2015年度上期には、1号機を納入する予定です。

※ 蓄圧器は購入品。



マイクロチャネル熱交換器



水素ステーションのイメージ図

**本格的な普及が期待される、  
水素ステーションなどの水素インフラ整備に貢献します。**

専務執行役員 機械事業部門圧縮機事業部長 **大濱 敬織**

神戸製鋼グループでは、水素ステーション用高压水素圧縮機、マイクロチャネル熱交換器、冷凍機などの主要機器および超高压部材用素材を製造しており、加えて、水素充填シミュレーション技術を用いての水素ステーション全体の建設も手掛けています。これらハード、ソフトを活用して、今後本格的な普及が期待される燃料電池車(FCV)用の水素ステーションや水素社会を実現するインフラ整備に貢献してまいります。



## 川崎社長が 燃料電池車の納車式に列席



「MIRAI」の前に整列される安倍首相や川崎社長(前列左端)などの列席者

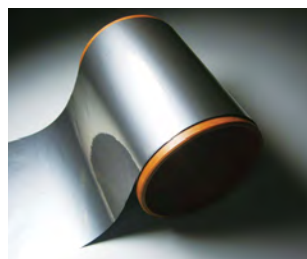
2015年1月15日、首相官邸で「燃料電池自動車市販第1号車納車式」が行われ、トヨタ自動車(株)、JX日鉱日石エネルギー(株)、岩谷産業(株)の代表者と共に神戸製鋼の川崎博也社長が、水素ステーション用高圧ガス関係の機器メーカーの代表として列席しました。

このたび、首相官邸と経済産業省、環境省、国土交通省に公用車として納められたのは、トヨタ自動車(株)が開発した燃料電池車「MIRAI」。安倍晋三首相は、「加速がよく、静かなこのクルマに試乗し、水素社会の幕開けを実感した」と感想を述べられました。

## 神戸製鋼の素材が「MIRAI」に採用

「MIRAI」には、神戸製鋼の素材が採用されています。特殊チタン圧延材は、燃料電池車の基幹部品である燃料電池スタックのセパレーターに適用されました。セパレーターには、耐食性や表面導電性、成形性といった性能が求められます。神戸製鋼は、材質・表面制御技術および圧延材製造技術により、最適な材料の商品化に成功しました。

また、神戸製鋼のアルミ鍛造部品も採用されています。適用部位は、燃料となる水素を貯蔵する高圧水素タンクの口金です。神戸製鋼の優れた鍛造・加工技術を活かし、口金に求められる高い要求仕様・品質を満たすアルミ鍛造部品の生産技術・供給体制を構築しました。



特殊チタン圧延材



高圧水素タンク口金

## 水素ステーション用高圧ガス配管として 神鋼特殊鋼管のステンレスパイプが採用

神鋼特殊鋼管(株)は、水素ステーション用の高圧ガス配管として、特別仕様を満足するシームレスステンレスパイプを、岩谷産業(株)や神戸製鋼グループの製品向けに提供しています。

## グループ会社の動き

水素ステーションの普及に向けて、神戸製鋼グループの各社も技術・商品開発を進めています。

### 神鋼環境ソリューション

#### CO<sub>2</sub>フリー水素の製造への取り組みを推進

神鋼環境ソリューション(株)は、純水から高純度の水素ガスを発生させる装置(商品名:HHOG)を製造・販売しており、国内外で130基以上の納入実績があります。

今後は、本装置による再生可能エネルギーを利用したCO<sub>2</sub>フリー水素の製造の取り組みの推進や水素ステーションとの組み合わせなどにより、水素社会の実現に貢献していきます。



水素ガス発生装置(商品名:HHOG)

### 神鋼エンジニアリング&メンテナンス

#### 佐藤社長が商用水素ステーション開所式に列席

2015年3月19日、埼玉県春日部市に商用水素ステーション(JX日鉱日石エネルギー(株)Dr.Driveセルフ春日部中央SS併設)が開所し、(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス佐藤社長が列席しました。

神鋼エンジニアリング&メンテナンスは、最適な水素充填のためのシミュレーション技術やコンパクト化、低コスト化のための、水素ステーションのエンジニアリング技術を有しており、今回、水素ステーションの設計・建設を担当することで、インフラ整備に貢献しています。



商用水素ステーション開所式  
(右端が神鋼エンジニアリング&メンテナンス・佐藤社長)

## 環境活動クローズアップ②

あらゆるプロセスで、  
“環境負荷の低減”という価値を創出します。

# 銅の バリューチェーン

製造から製品の使用段階まで。

あらゆるプロセスで、神戸製鋼グループは  
環境負荷を低減する努力を続けています。

銅分野では、主に電気製品のエネルギー原単位低減に役立つ  
製品開発を通じて、環境負荷低減に貢献しています。

\*鉄鋼やアルミなどでも、使用する原料・素材の特性に合わせたバリューチェーンを  
構築しています。

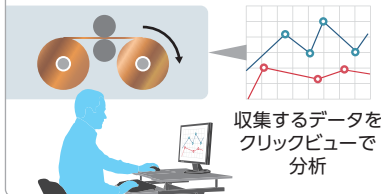
## 製造

**生産設備のハイテク化が進展。  
最先端の稼働状況分析ソフトを導入し、  
徹底した省エネルギー生産を行っています。**

神戸製鋼の長府製造所銅板工場では、米クリックテック社製分析ソフト『クリックビュー』を生産設備に導入し、設備の稼働状況、ライン速度、使用電力などのデータのリアルタイム管理を実現しました。生産品目ごとや作業員ごとのライン速度を常に把握することができ、生産性と電力原単位の改善に寄与しています。2014年度は、前年比10%以上のエネルギー原単位改善を達成しています。



圧延設備のデータを分析して、  
生産性を向上させている



グループ会社においても、現場改善を中心とした地道な省エネルギー活動に取り組んでいます。設備の効率的な稼働や製造条件の見直しにより、製品の品質を維持しながらエネルギー原単位を改善させる活動を推進中です。

## 高い導電性から、産業のハイテク化に欠かせない銅。 自動車などの高性能化に貢献しています。

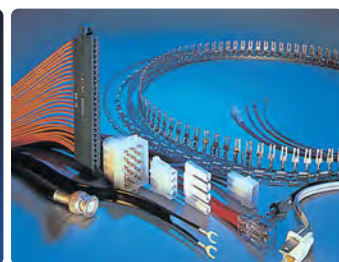
自動車の高性能化・低燃費化に伴い、電装品の使用量は年々増加しています。神戸製鋼の製品は、高い信頼性・耐久性が求められる電装品の端子材として使用されています。

銅管分野では、高い熱伝導性を活用した多彩な製品開発を通じ、エアコンなど空調設備の熱交換性能向上やコンパクト化に貢献しています。

### 製品



▲ 端子・コネクタ



▲ ワイヤーハーネス用コネクタ



▲ エアコン熱交換器用銅管

### 物流

#### 省エネルギーに配慮した 製品出荷を心がけています。

お客様の立地条件に応じた出荷ルートの見直しなど、きめ細やかな配慮により、輸送に係るエネルギーの削減に努めています。

### 管理

#### あらゆるものを再利用。 ゼロエミッションを継続しています。

神戸製鋼の長府製造所では、製造過程で発生する廃棄物の再利用を徹底しています。2005年にはゼロエミッションを達成し、山口県より「山口県エコ・ファクトリー」として認定を受けました。今日まで10年以上継続してゼロエミッションを達成中です。



# マテリアルバランス

神戸製鋼グループは、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営を展開しています。その一環として、エネルギー効率の向上と、副生ガスや排熱、水、資源などの有効利用、副産物の再資源化に継続的に取り組んでいます。

## 神戸製鋼における資源・エネルギーの利用状況

### 鉄鋼事業部門

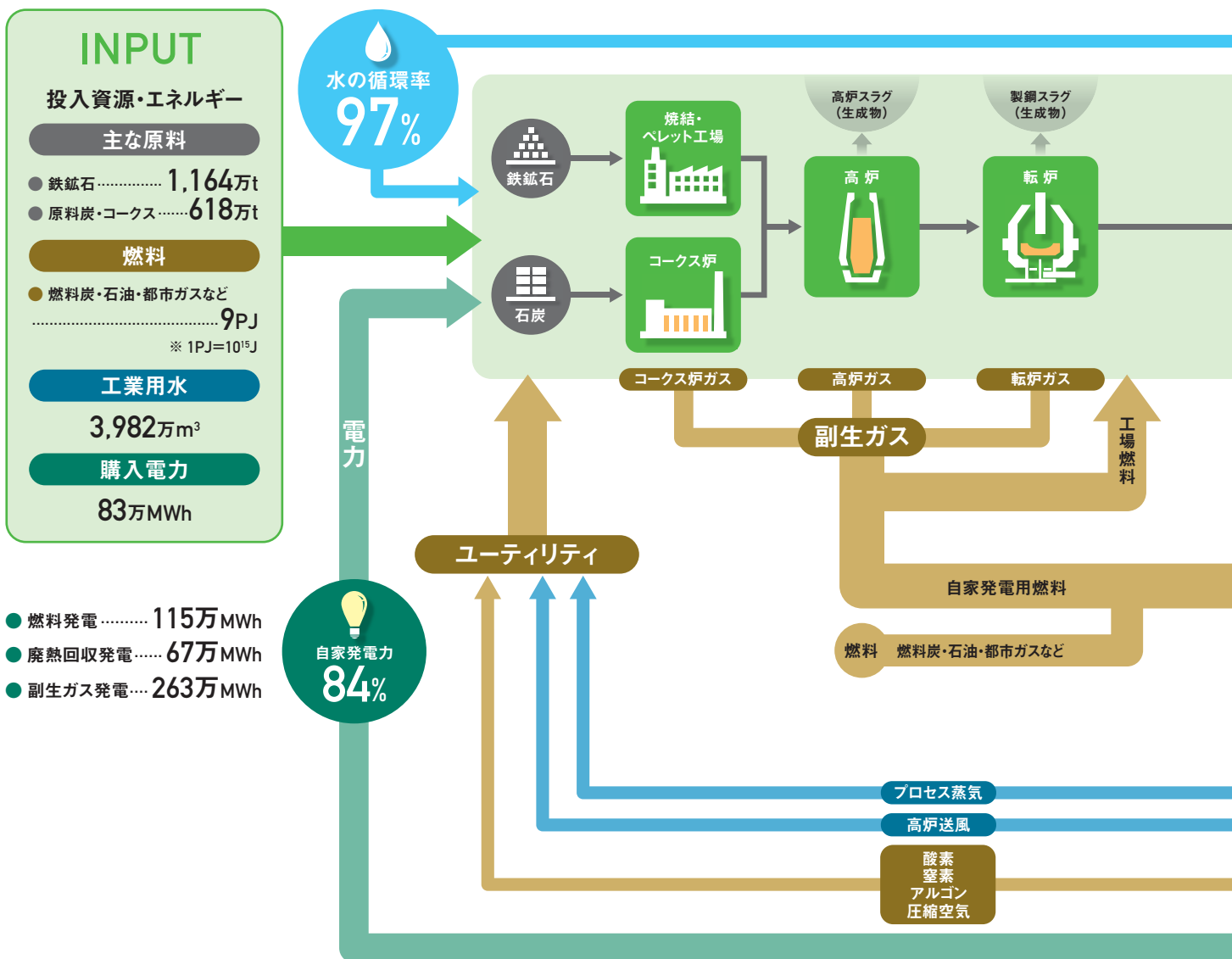
神戸製鋼のエネルギー使用総量の95%を占める鉄鋼事業部門は、2014年度に1,164万トンの鉄鉱石と618万トンの原料炭・コークス、9PJ\*の石炭、石油、都市ガスなどの燃料および83万MWhの購入電力を使用しました。生産工程で生成するコークス炉ガス、高炉ガス、転炉ガスなどの副生ガスを鋼材加熱用の燃料や自家発電所の燃料などとして、ほぼ全量を有効に活用しています。さらに、廃熱を利用した発電を積極的に実施しており、副生ガスによる発電と合わせて、生産工程で使用する電力の60%以上をエネルギー回収による発電でまかなっています。

また、生産工程から生成する鉄鋼スラグ\*と、ダスト、スラッジなどの副産物については、社内で原料として再利用する他、セメント用資材や路盤材にするなど有効活用を図っており、副産物の98%をリサイクルしています。

今後も、資源やエネルギーの効率的な利用およびその技術開発を進めるなど、あらゆる面で環境に配慮したものづくりを進めていきます。

\* 1PJ=10<sup>15</sup>J  
 \* 鉄鋼スラグ:鉄鋼精錬の際に溶融した鉄鉄などから分離・回収する生成物。高炉スラグや製鋼スラグなど。

鉄鋼事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2014年度)





## 溶接事業部門

溶接事業部門は、金属製の線材やフープ、溶剤、水ガラスなどを原料として、溶接に使用する溶接棒や溶接ワイヤを生産しています。2014年度は、藤沢、茨木、西条、福知山の各工場合計で、18万トンの原料と、エネルギーとして6.5万MWhの電力や0.2PJの都市ガスなどの燃料を使用して、17万トンの製品を生産しました。結果として1.8万トンの副産物が発生しましたが、そのうち98%をリサイクルしています。

### ●溶接事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2014年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
線材、フープ、溶剤、水ガラスなど	18万t	溶接棒、溶接ワイヤなど	17万t
エネルギー		副産物	
購入電力	6.5万MWh	発生量	1.8万t
都市ガスなど	0.2PJ	リサイクル率	98%

## アルミ・銅事業部門

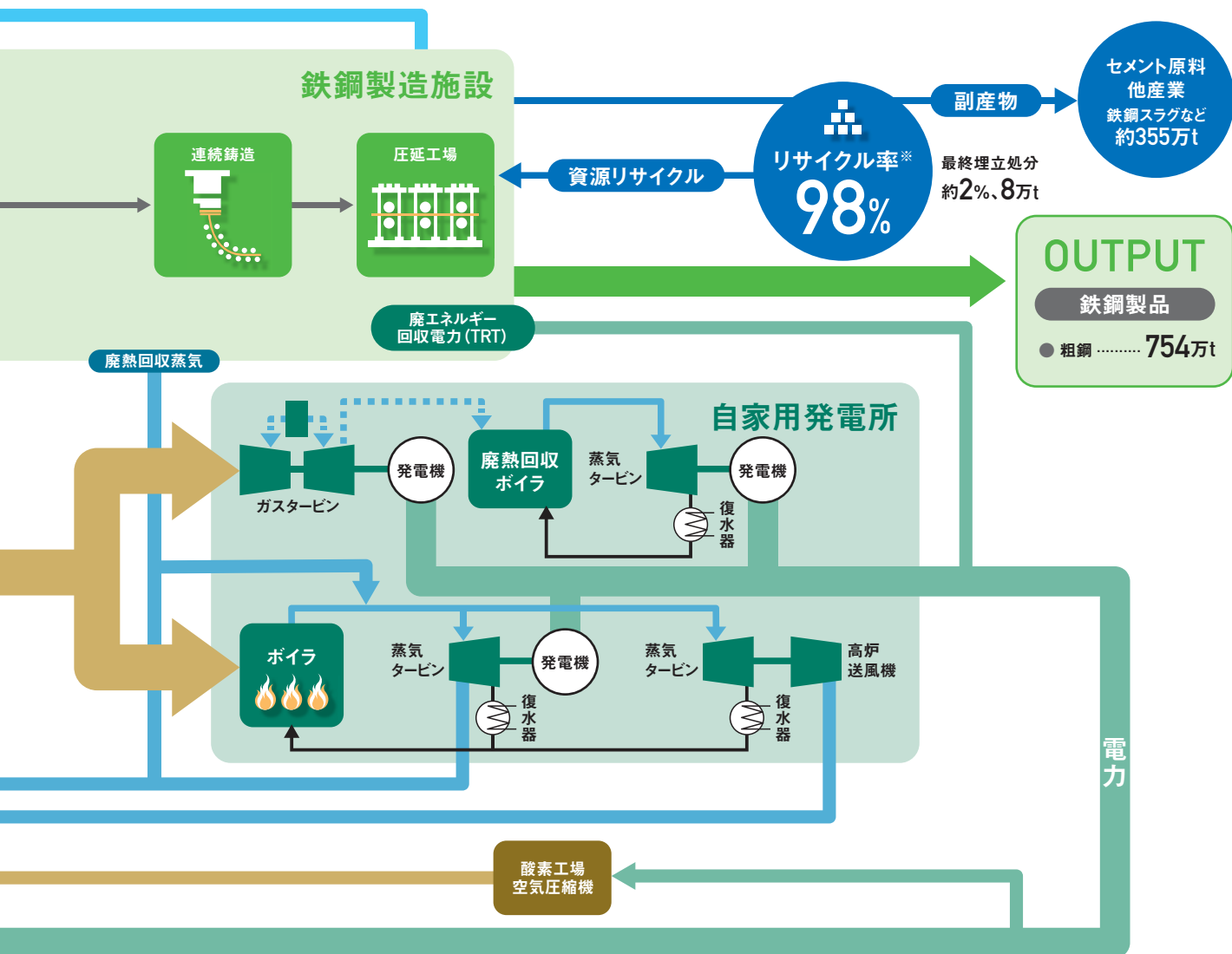
アルミ・銅事業部門は、アルミ、銅の地金やスクラップなどを原料として、各種アルミ製品および銅製品を生産しています。2014年度は、43万トンの原料と、エネルギーとして49万MWhの電力や3.5PJの都市ガスなどの燃料を使用して、39万トンの製品を生産しました。

溶解・ castingに伴う鉱さいや集じんダスト、排水スラッジなど、2.8万トンの副産物が発生しましたが、97%をリサイクルしています。

### ●アルミ・銅事業部門における資源・エネルギーの利用状況(2014年度)

INPUT		OUTPUT	
原料		製品	
アルミ地金、銅地金など	43万t	アルミ製品、銅製品	39万t
エネルギー		副産物	
購入電力	49万MWh	発生量	2.8万t
都市ガスなど	3.5PJ	リサイクル率	97%

※ リサイクル率:発生量のうち、最終埋立処分以外の処理を行った量の比率



# 地球温暖化対策

神戸製鋼グループは、地球温暖化問題に対応して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進し、温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

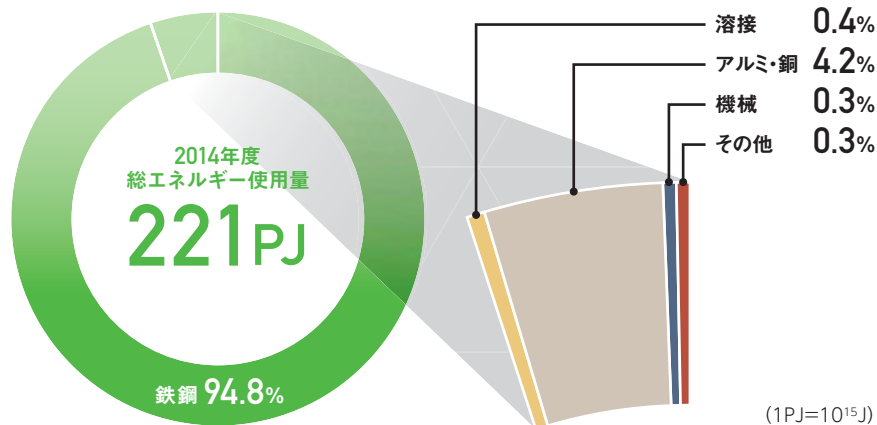
## 生産工程における省エネルギー

神戸製鋼グループは、2014年度、グループ全体で221PJのエネルギーを使用しました(原油換算571万kl)。

そのうち、約95%が鉄鋼関連事業、約4%がアルミ・銅関連事業で使用されています。

生産性改善・燃料管理改善や、高効率設備導入、排熱回収などによる省エネルギーに継続して取り組んでいます。

事業部門別エネルギー使用量(グループ会社含む)



## 鉄鋼事業部門(神戸製鋼)

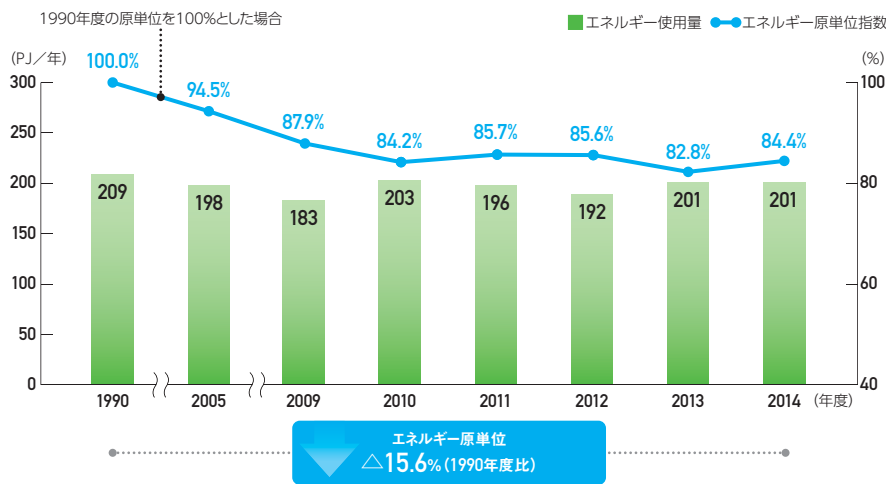
鉄鋼事業部門では、2014年度、エネルギー使用量は前年比で0.1%、CO<sub>2</sub>排出量は0.1%増加しました。粗鋼1トンあたりのエネルギー原単位は1990年度比で15.6%、CO<sub>2</sub>排出量は2.3%、CO<sub>2</sub>排出原単位は14.3%改善しました。

加古川製鉄所では、自家用発電所の高効率ガスタービン2号機が完成し、ガスタービン2基による効率の高い運転を行っています。(P27参照)

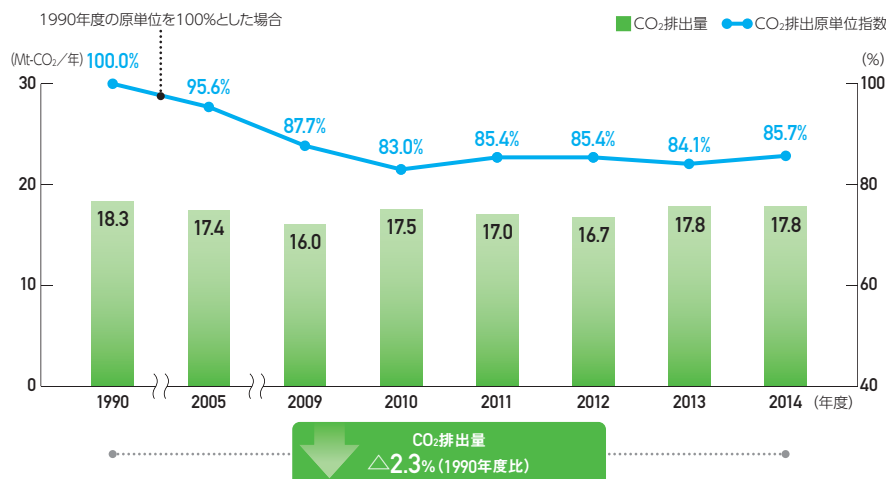
また、各事業所において、排熱回収設備の更新や、空気圧縮機の設置による省エネルギー対策を実施しています。

今後も、業界目標である「低炭素社会実行計画」の達成に向けて、省エネルギー対策、環境負荷の低減を進めていきます。

鉄鋼事業部門(神戸製鋼) ● エネルギー使用量・エネルギー原単位指数の推移(試算値)



鉄鋼事業部門(神戸製鋼) ● CO<sub>2</sub>排出量・CO<sub>2</sub>排出原単位指数の推移(試算値)

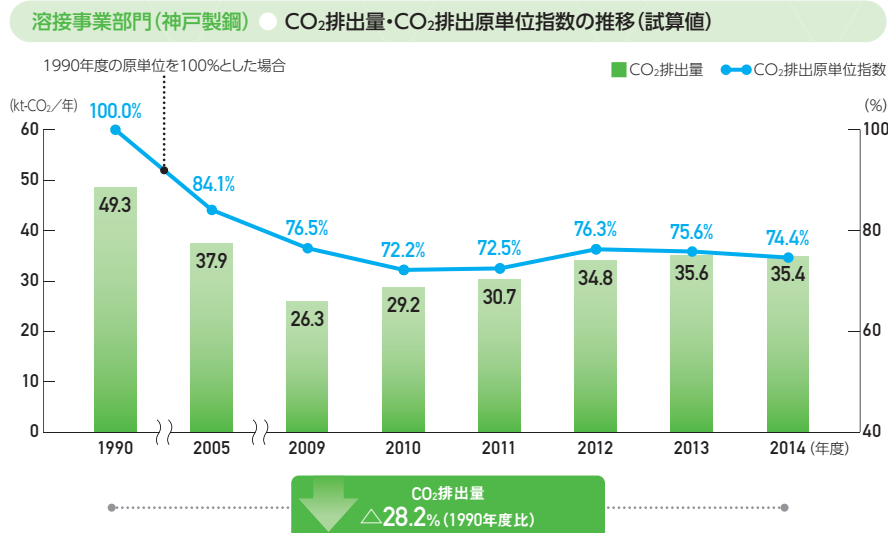


注) コークス製造を含む鉄鋼事業部門合計での試算値。2014年度の購入電力の排出係数は未公表のため、2013年度実績を使用。

## 溶接事業部門(神戸製鋼)

溶接事業部門では、生産性改善、設備の高効率化やエネルギーロス低減の取り組みなどの効果で、CO<sub>2</sub>排出量の低減を図っています。2014年度は福知山工場にて生産設備にインバータを導入するなどの改善を図りました。

2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は1990年度比で28.2%低減、製品1トン当たりのCO<sub>2</sub>排出原単位も25.6%改善しています。

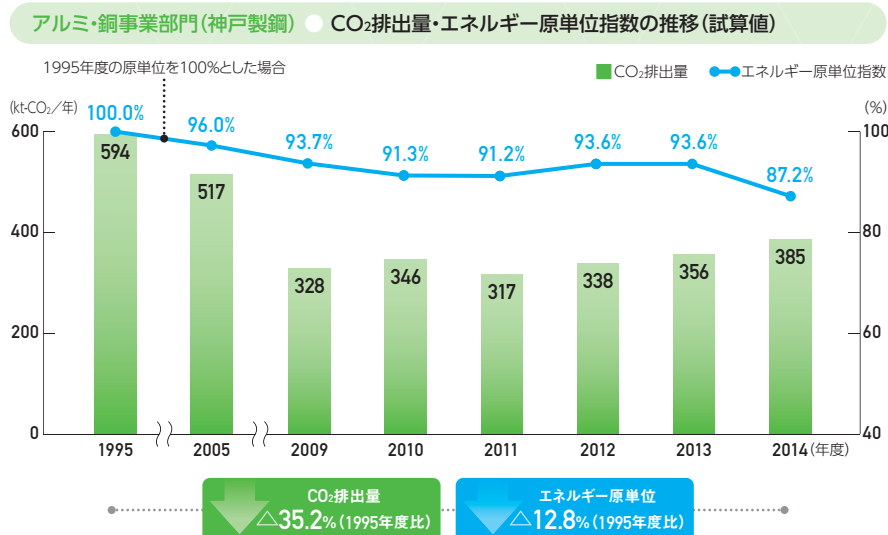


注) 2011年より、KOBエウエルディングワイヤ(株)が、神戸製鋼 福知山工場となったため、合算して集計。

## アルミ・銅事業部門(神戸製鋼)

アルミ・銅事業部門では、石油系燃料から天然ガスへの燃料転換を順次実施し、合わせて設備集約、効率化を図っています。2014年度は、真岡製造所において、熱延工程のファン、ポンプのインバータ化工事を実施しました。

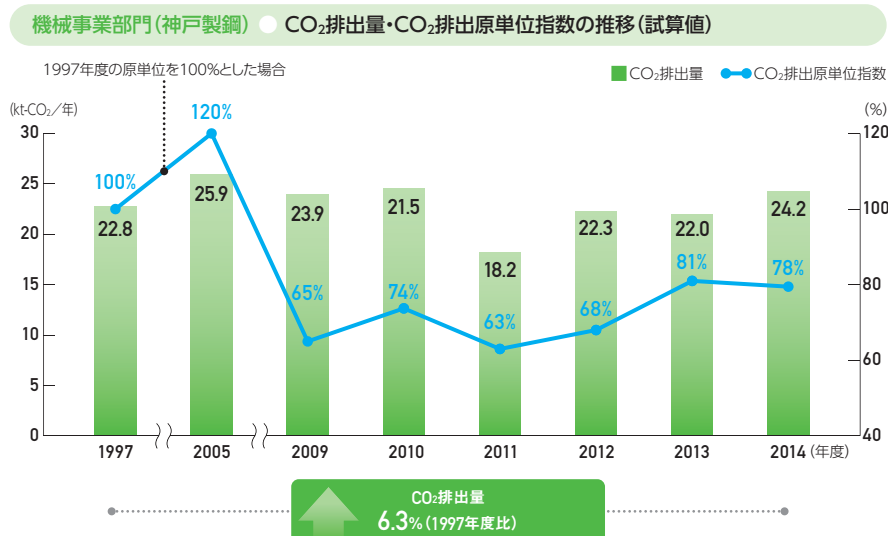
2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は1995年度比で35.2%、エネルギー原単位は12.8%低減しています。



## 機械事業部門(神戸製鋼)

機械事業部門では、省エネルギー型圧縮機やヒートポンプ、石油精製向け圧力容器などの需要が拡大する中、設備の高効率化、生産性改善によるエネルギー効率の改善を図っています。

2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は1997年度比で6.3%増加しましたが、CO<sub>2</sub>排出原単位は22%改善しています。



## 加古川製鉄所の取り組み

### 2基目のガスタービン・コンバインドサイクル・システム発電設備が営業運転

加古川製鉄所は、同所で2基目となるガスタービン・コンバインドサイクル・システム(以下GTCC)の導入を進めていましたが、2014年末に工事が完了し、このほど営業運転を開始しました。

同所では、老朽化した自家発電所ボイラの全面的な更新を目的として5缶のガス焼きボイラと1缶の石炭焼きボイラを順次解体撤去し、2缶のボイラ(ガス焼き)と2基のGTCCに置き換える工事を2009年より進めてきました。

今回の全面的な更新工事により、発電効率向上によるコストダウンに加えて、石炭焼きボイラの廃却効果も含め、年間41万トンのCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。

GTCCは、省エネルギー・CO<sub>2</sub>排出量削減やコストダウン効果が大きい高効率発電設備ですが、当初計画では、その燃料としてベースとなる高炉ガスに、補助的にコークス炉ガスやLPGを添加した一定以上の発熱量を有する燃料が必要となることから、製鉄所全体のエネルギーバランスを勘案し、1基のみの導入を予定していました。その後、燃焼装置の性

能改善や燃焼制御・監視技術の向上などにより、発熱量が低い燃料でもGTCCの安定的な稼働が可能となり、2基目となるGTCCを導入しました。

今後も、このようなエネルギー効率向上などによる環境負荷低減の取り組みを推進していきます。



▲ 新たに運転を開始した2基目のGTCC(外観写真)

## 物流分野における省エネルギー

神戸製鋼グループでは、原料から製品納入に至るまで、最適で迅速な物流による省エネルギーを目指しています。トラックから鉄道、船舶を利用した輸送へのモーダルシフトの拡大、輸送時の積載効率改善、車両大型化による輸送効率改善や、回航時の利用拡大などを進めています。

また、最新の技術を採用した鋼材輸送船の導入、輸送車両の軽量化など燃費改善にも取り組んでいます。

## グループ会社の取り組み

神戸製鋼グループ各社においても、生産工程、物流における省エネルギーを推進しています。記載事項の他にも、不要時の消灯、空調設備の温度管理など、幅広い取り組みを実施しています。

### ● 取り組み事例

会社名	事業所所在地	取り組み事例
(株)セラテック	岡山県備前市	乾燥炉冷却帯の余熱活用、真空ポンプなどのインバータ化
(株)テザックワイヤロープ	大阪府貝塚市	ボイラー更新による省エネルギー
日本エアロフォージ(株)	岡山県倉敷市	トップランナー品の変圧器導入、油圧回路の台数制御
神鋼特殊鋼管(株)	山口県下関市	加熱設備へのセラミック輻射体導入
神鋼ノース(株)	茨城県かすみがうら市	トランスの更新による消費電力削減
神鋼ファブテック(株)	山口県下関市	エネルギー可視化による運転最適化、大型炉の熱診断、高効率トランスへの更新
神鋼メタルプロダクツ(株)	福岡県北九州市	予熱炉耐火物更新による省エネルギー、温度制御方法変更による熱ロス低減
神鋼造機(株)	岐阜県大垣市	鋳造シミュレーションソフト活用による歩留り向上、浸炭シミュレーションソフト活用による稼働率向上
(株)コベルコ科研	兵庫県尼崎市	油圧設定適正化による省エネルギー、断熱材使用による空調電力低減
コベルコ建機(株)	広島県広島市	中央監視システム活用による省エネルギー、工場照明のLED化推進
(株)神鋼環境ソリューション	兵庫県加古郡	焼成炉の燃焼調整による省エネルギー
神鋼機器工業(株)	鳥取県倉吉市	焼鈍炉*排熱の温水利用
ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)	兵庫県神戸市	空調設定温度の切替、休憩時の天井水銀灯消灯、グリーンカーテン(ゴーヤの栽培)など
(株)ツインフーズ	千葉県市川市	照明器具のLED化、冷凍機用ファンのインバータ化
神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司	中国浙江省平湖市	照明のLEDへの順次切り替え
神鋼新確弾簧鋼線(佛山)有限公司	中国広東省佛山市	工場棟の省エネルギー設計(天井採光、暑熱対策)、熱処理集中生産による省エネルギーなど
Kobelco Welding Asia Pacific PTE. LTD.	シンガポール	高効率照明の導入

\* 焼鈍炉材料特性改善のために熱処理を行う炉

その他の取り組みは、ホームページをご覧ください。



[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/2015/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2015/)

# 資源循環の促進

神戸製鋼グループは、限りある資源を有効に活用するために、生産工程・オフィス活動事業所において廃棄物の発生の抑制に取り組んでいます。

製造工程から得られる副産物などの付加価値を高めたり、新規利用用途の開発により、積極的にリサイクルを進めています。また、出荷する製品の梱包仕様の見直し(簡素化)、梱包材料の軽量化をグループ全体で進めることにより、製品輸送工程からの廃棄物発生量を抑制しています。

オフィス業務では、会議資料の電子化・IT化などをグループ全体で積極的に進めることにより、紙資源使用量の削減を進めています。

## 廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

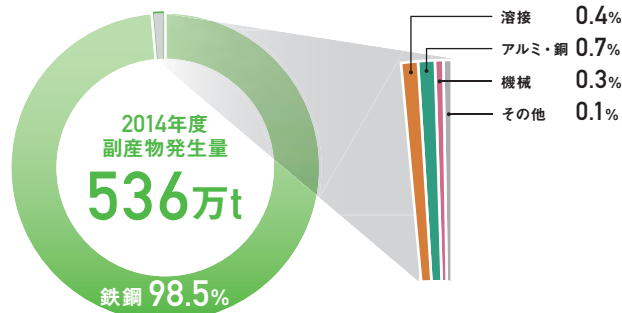
神戸製鋼グループでは、海外グループ会社を含め2014年度に総計536万トンの副産物が発生し、そのうち98.5%が鉄鋼関連事業によるものでした。製鉄所では、製鉄工程から副次的に得られる鉄鋼スラグ\*やダストの再資源化・高付加価値化を進めてきました。2014年度は、神戸製鋼全体で97.3%、神戸製鋼グループ全体(含海外グループ会社)で97.9%を再資源化しています。

また、原料・副原料の使用量の適正化を図ることにより、発生量そのものを削減する根本的な対策を積極的に進めています。

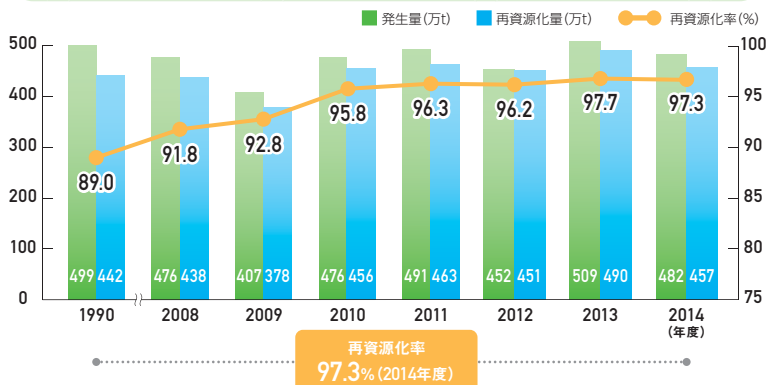
神戸製鋼グループ(含海外グループ会社)では、11万トンを最終埋立処分しました。今後も引き続き、廃棄物発生量の抑制、再資源化や新規リサイクル技術の開発および高付加価値化を通じて、最終埋立処分量の削減を進め、2015年度の各業界での自主行動計画目標(最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標)の達成を目指します。

\* 鉄鋼スラグ:鉄鋼精錬の際に溶融した鉄銑などから分離回収する生成物

事業部門別発生量(国内・海外グループ会社含む)



発生量および再資源化量と再資源化率の推移(神戸製鋼)



## リサイクル活動の取り組み

各事業部門・各事業所ごとに、廃棄物の最終埋立処分量の削減を目的としたアクションプログラムを策定し、発生量削減・再利用やリサイクル技術開発・新規用途開発などを通じたさらなる高付加価値化を目指しています。

### 鉄鋼事業部門(国内、海外グループ会社含む)

#### ● 発生物のリサイクル

神戸製鉄所、加古川製鉄所、高砂製作所では、鉄鋼スラグおよびダスト類のリサイクル技術の開発、新規リサイクル用途の開発を継続的に進めており、その結果、2014年度の最終埋立処分量は、約8万トンとなりました。

加古川製鉄所では、新溶銑予備処理設備稼働により、製鋼スラグ\*の発生原単位を改善することができました。

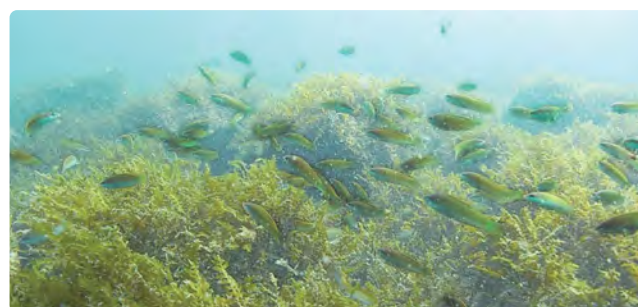
2014年度、加古川製鉄所と神戸製鉄所から、高炉スラグ\*が247万トン、製鋼スラグが108万トン副次的に生成されました。

鉄鋼スラグの新規リサイクル用途開発の一環として、兵庫県淡路島において、約1,000トン規模のスラグ石材を用いた潜堤\*を設置し、港湾資材としての有効性と海域環境安全性の

評価・実証試験を、2014年度から3年間の予定で開始しました。現段階では、アカモク(海藻)の繁茂および魚類の生息が確認されています。

\* 高炉スラグ、製鋼スラグ:鉄鋼スラグに分類される生成物で、それぞれ高炉、製鋼工程から生成する。

\* 潜堤:波浪の破壊力から海岸を守るために海面下に設けられる構造物。



▲ スラグ潜堤に繁茂する海藻と回遊する魚類(淡路島岩屋港)

## アルミ・銅事業部門(国内、海外グループ会社含む)

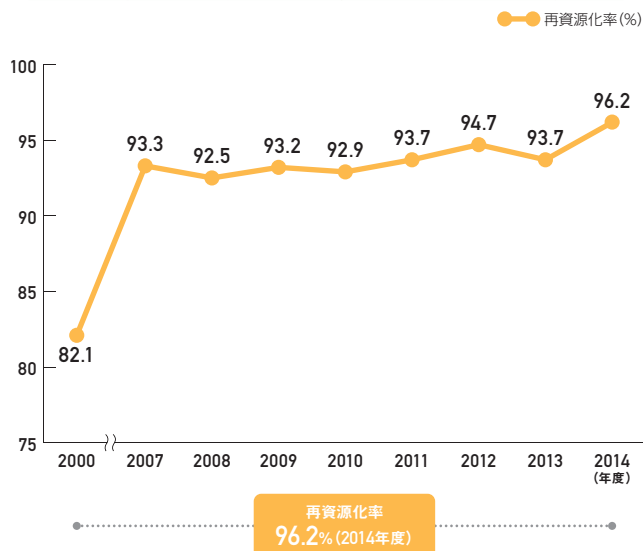
アルミ・銅事業部門では、各事業所における先進的な廃棄物抑制対策の取り組みを抽出し、事業所間で水平展開を図ることで事業部門全体の資源循環率を高めることを目的とした活動を進めています。

真岡製造所でのアーク炉灰リサイクル活用、長府製造所での銅分回収率の向上、大安工場排水処理設備での廃アルカリの有効活用などを図っています。神鋼アルミ線材(株)で

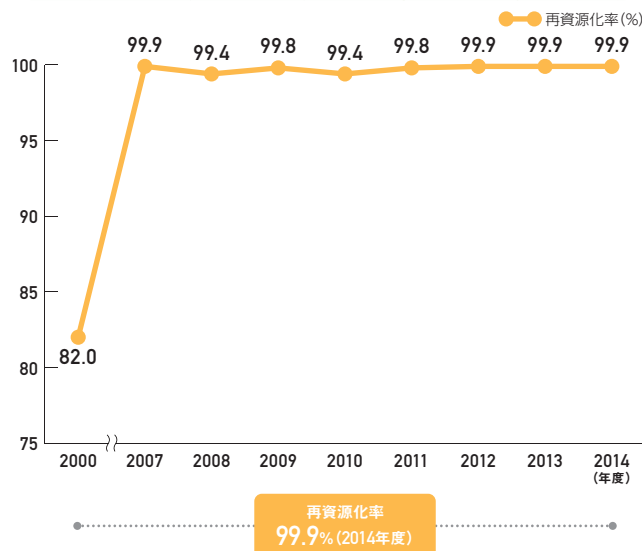
は、使用済油脂の再生使用を推進することにより、廃油脂の発生量の抑制を図っています。また、長府製造所では、ゼロエミッション維持のための積極的な対策を継続しており、その結果、再資源化率99.9%を達成しています。

Kobe Precision Technology Sdn. Bhd.(マレーシア)では、生産効率改善および異物混入防止対策を強化することにより、アルミ含有廃棄物発生量の削減を図っています。

再資源化率の推移(真岡製造所)



再資源化率の推移(長府製造所)



## 溶接事業部門(国内、海外グループ会社含む)

溶接事業部門では、事業所ごとに削減対象とする廃棄物およびその目標値を設定して、各種の対策を推進しています。そのノウハウについては、定期的開催する会議を通じて、事業部門内での情報共有を進めています。

茨木工場では、塗油装置の改善により、廃油発生量の削減を図ると共に、藤沢工場、西条工場では、研磨砂・廃フラックスの

リサイクル活用(セメント原料、路盤材化など)を進めています。また、福知山工場では、廃塩酸・廃油の再利用を進めています。

KOBELCO Welding of Europe B.V.(オランダ)では、潤滑剤のリサイクル活用、環境負荷に配慮した材料を採用したスプール・製品容器への移行により廃棄物発生量の削減を進めています。

## 機械事業部門(国内、海外グループ会社含む)

機械事業部門では、これまで実施してきた各種の対策を確実に定着させることにより、再資源化率を高いレベルで維持しています。

非汎用圧縮機などの産業機械を生産する高砂機械センターでは、廃棄物発生量削減(発生源対策)、リサイクル対策の導入などを積極的に進めています。また、汎用圧縮機を生

産する播磨工場では、製品梱包材の通い箱化などのリサイクル対策の定着により、最終埋立処分量ゼロを維持しています。

KOBELCO Compressors Manufacturing Indiana, Inc.(アメリカ インディアナ州)では、機械加工設備での冷却剤および切削液の再利用を進めることにより、廃棄物発生量の抑制を図っています。

### TOPICS

#### コベルコ科研(株)での廃棄物発生量削減対策

材料分析、環境分析、ターゲット素材の製造などを行うコベルコ科研(株)では、業務の中の小さな改善・工夫を積み重ねることにより、廃棄物の発生量の削減を図っています。具体的には、使用済ミクロトームナイフ(顕微鏡用試料調整刃)の研磨・再利用、試料調整

治具の洗浄・再利用、購入試薬の大ロット化による廃容器発生量削減など、日常業務の中の小さな改善・工夫を重ねています。加えて、社内事業所での情報共有を積極的に進め、全社横断的に展開することにより、結果として大きな効果を引き出しています。

# 化学物質の適正管理

神戸製鋼グループは、国内外の基準に合わせた化学物質の適正管理の徹底、有害化学物質使用量の削減、安全性の高い物質への切り替えなどに取り組んでいます。

## 化学物質管理の徹底

「神戸製鋼グループ 有害化学物質管理方針」を定め、化学物質管理の徹底を図っています。

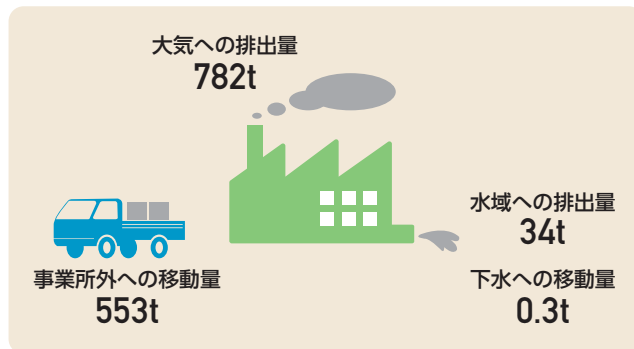
「指定化学物質に係る管理シート」により、化学物質ごとに使用方法、管理方法を明確にして、PRTR法<sup>※1</sup>に関する移動・排出量の集計に活用すると共に、使用量の削減、排出量の抑制に向けた活動に取り組んでいます。

PRTR法に基づく、神戸製鋼グループ各事業所(国内)の届出予定値の合計は、取り扱い物質51種類、排出量<sup>※2</sup>2816トン、移動量<sup>※3</sup>553トンでした。詳細は、ホームページに掲載しています。



[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/2015](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2015)

### ●神戸製鋼グループでの排出量／移動量



※1 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)

「特定化学物質の環境への排出量等および管理の改善の促進に関する法律」

※2 排出量は、大気・水域への排出量の合計

※3 移動量は、事業所外・下水への移動量の合計

## 化学物質規制への対応

化学物質規制については、規制強化の動きが日本国内はもとより世界的に進められています。神戸製鋼グループは、これらの法令について適切な対応を実施しています。

また、下記の表に示すように、化学物質排出削減活動をグ

ループ内で継続的に実施すると共に、関連法令に適切に対応するため、関連部署と情報共有や意見交換などを行っています。

### ●化学物質の排出削減活動の取り組み事例

事業所名/会社名	事業所所在地	取り組み事例
加古川製鉄所	兵庫県加古川市	工場にシンナー再生装置を設置し、シンナー購入量を削減
西条工場	広島県東広島市	溶接棒識別色(棒端色)塗料を有機溶剤含有量が少ないものに変更し、有機溶剤使用量を削減
播磨工場	兵庫県加古郡	防錆剤をPRTR非該当品に変更
神戸総合技術研究所	兵庫県神戸市	試験用の一部有機溶剤をエタノールに変更
神鋼メタルプロダクツ(株)	福岡県北九州市	洗浄液を塩素系有機溶剤からPRTR非該当品に代替
神鋼リードミック(株)	福岡県北九州市	剥離液の不純物の除去により長寿命化し廃棄量を削減
(株)コベルコ科研	兵庫県神戸市	試験片作成用にPRTR非該当物質を混ぜ、化学物質の使用量を削減
(株)神鋼環境ソリューション	兵庫県加古郡	洗浄用薬品をPRTR非該当物質に代替

## 廃PCB電気機器の管理

PCB(ポリ塩化ビフェニル)が含まれる使用済みのトランス、コンデンサなどについては、「PCB廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、専用の保管場所で管理しています。

また、処理を委託する際に現場立会を行うなどの管理ルールを関係者に教育し、さらに本社環境防災部による環境監査においても管理状況を確認しています。

# 環境負荷の低減

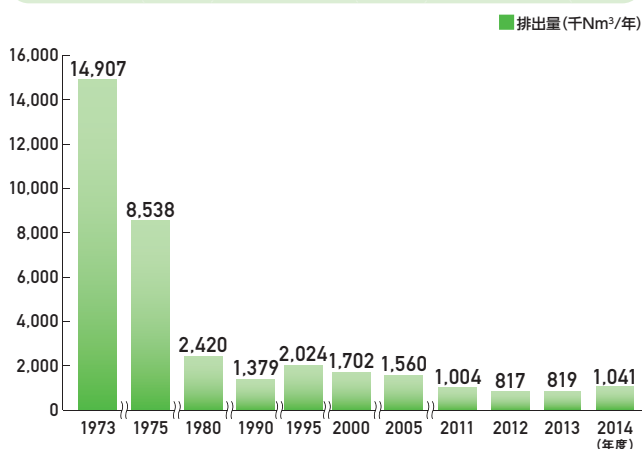
神戸製鋼グループは「環境に配慮した生産活動」を環境経営基本方針の一つとして位置付け、継続的な生産工程の改善、設備更新や効率の良い最新設備の導入、環境負荷物質の除害設備の導入など、あらゆる面で環境に配慮したもののづくりを徹底し、大気、水域などへの環境負荷の低減に努めてきました。引き続き、グループ会社も含めて、さらなる低減に取り組んでいきます。

## 大気汚染対策

### ばい煙の排出状況

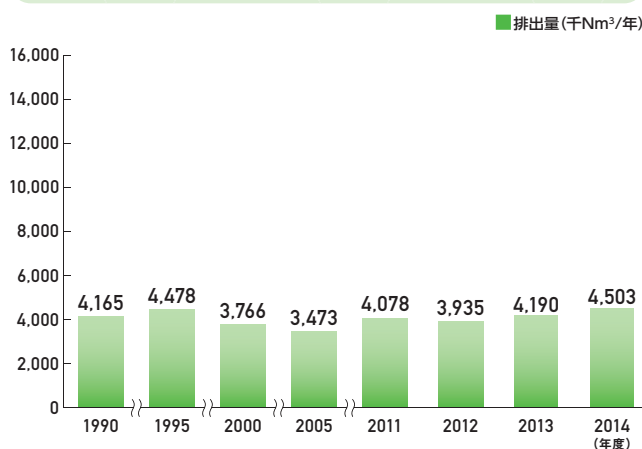
生産工程などで発生するSOx(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより、発生を抑制すると共に、脱硫などの排ガス対策を行ってきました。

SOx排出量の推移(神戸製鋼)



一方、NOx(窒素酸化物)については、低NOx燃焼技術の導入や省エネルギー対策により排出量の低減を推進してきました。

NOx排出量の推移(神戸製鋼)

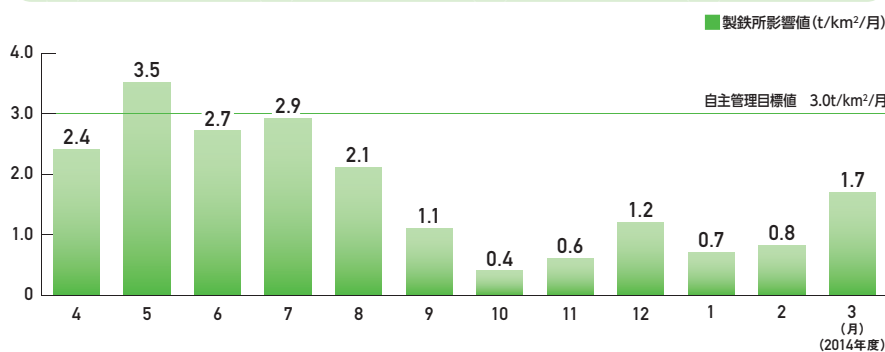


### 加古川製鉄所における粉じん対策

加古川製鉄所では、近隣3カ所の降下ばいじんに係る製鉄所影響値を3t/km²/月以下とする自主管理目標値を定め、種々の対策を講じてきました。

2014年度は、5月に1カ所で目標値未達成となりました。これまで実施してきた対策と合わせ、強風時での散水強化を図り、6月以降は目標値を達成しています。

製鉄所影響値の推移(加古川神鋼ビル)

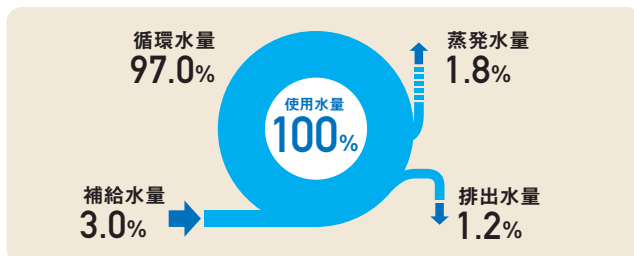


## 水質汚濁対策

神戸製鋼グループは、生産工程の改善や再生水の利用によって水使用量を削減しています。また、生産工程からの排水はその特性に適した処理システムで浄化し、公共水域への水質汚濁物質の負荷量を低減しています。

製鉄所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で使用する“水のリサイクルシステム”を整えており、加古川製鉄所における水のリサイクル率は97%に達しています。

### ●水のリサイクル状況 排出量削減の取り組み(加古川製鉄所)



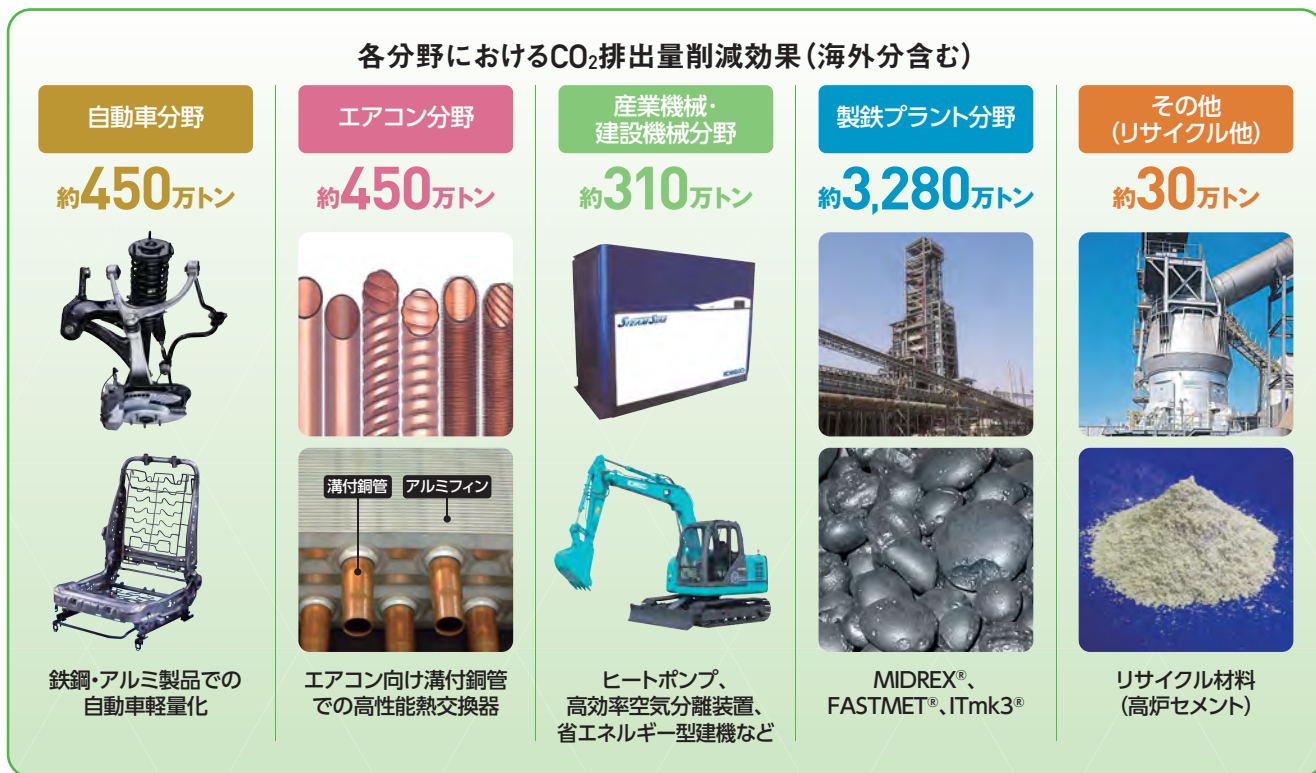


# 製品・技術・サービスでの環境への貢献

神戸製鋼グループは、鉄鋼、アルミなどの素材分野や機械、エンジニアリング分野など幅広い分野で、これまでに蓄積した生産技術、エンジニアリング技術やノウハウを活かし、環境に配慮した製品・技術・サービスを提供することで、環境に貢献しています。

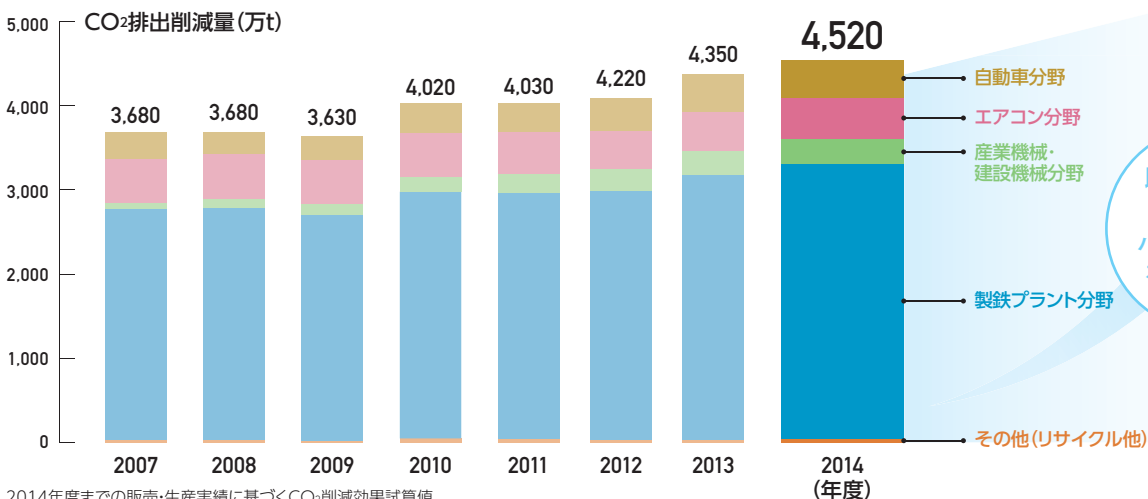
## 製品を通じたCO<sub>2</sub>排出量削減

神戸製鋼グループは、オンリーワンの技術や製品を通じて、社会のさまざまな分野でCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。



2014年度における神戸製鋼グループ製品によるCO<sub>2</sub>排出量削減効果(海外分含む)

# 約4,520万トン



## 素材、機械、エンジニアリング分野での環境への貢献

神戸製鋼グループは、省エネルギーや再生可能エネルギーをはじめ、環境保全に役立つさまざまな製品や技術を提供しています。環境に貢献するものづくりが、KOBELCOの使命です。

### 資源の有効活用

#### ● 加古川製鉄所で新溶銑処理設備の稼働開始

神戸製鋼は、鋼材事業のオンリーワン製品のさらなる拡販に向けた生産体制の整備、コスト競争力強化を目的に、加古川製鉄所にて新溶銑処理工場の建設を推進。2014年4月に稼働を開始しました。

溶銑処理とは、溶銑中の硫黄やりんといった不純物を除去するプロセスです。当社のオンリーワン製品である特殊鋼線材・条鋼、自動車用ハイテン鋼板およびエネルギー向け厚板は高い清浄度が要求されることから、これらを製造するためには、溶銑処理が必須のプロセスです。新溶銑処理設備は、機械攪拌式脱硫設備(以下KR)2基および脱りん炉1基を有し、既存設備と合わせてほぼ全量溶銑処理が可能となり、オンリーワン製品の生産能

力をより一層高めるための基盤が整いました。

今回の新溶銑処理設備では、脱硫処理をKR、脱りん処理を脱りん炉で実施することにより、それぞれの反応効率が向上し、副原料の使用量削減と鉄歩留の改善が達成できます。



▲ 新溶銑処理工場



▲ 機械攪拌式脱硫設備 (KR)

### 鉄道車両の軽量化

#### ● 日立製作所が受注した英国車両向けアルミ押出材を提供

神戸製鋼は、(株)日立製作所のグループ会社である日立レールヨーロッパが受注した英国都市間高速鉄道計画 (IEP: Intercity Express Programme) 向け鉄道車両構体用のアルミ押出材のほぼ全量を受注し、日立笠戸事業所向けに納入を開始しました。

当社のアルミ押出材は、山口県下関市の長府製造所で製造しておりさまざまな形状の製造に対応可能です。当社は、これからもアルミ押出材がさまざまな鉄道車両に採用されることで、車両全体の軽量化に貢献すると共に、車両メーカー殿と共同で安全性や静粛性を確保できる押出材の開発・供給を進め、鉄道車両の効率化に貢献していきます。



▲ 車体横体形状イメージ  
(株)日立製作所提供

▲ アルミ押出材

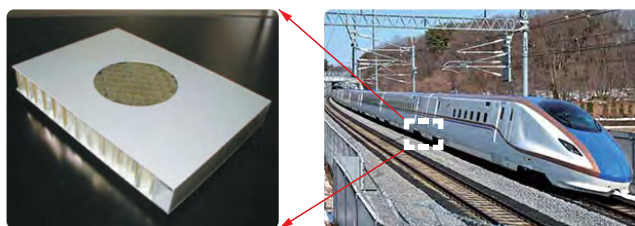
#### ● 北陸新幹線に「アルミハニカムパネル」が採用

神鋼ノース(株)ではアルミ表面板と芯材となるハニカム(蜂の巣)構造のアルミコア材を圧着した「アルミハニカムパネル」を製造しています。

このパネル構造は無数に連続した六角形コアの集合体で、体積の97%が気体層のため軽量で高強度・高剛性なのが特徴です。同じ剛性で比べると重量は通常のアルミパネルの約5分の1、鋼板の約10分の1程度です。

ハニカムパネルは、幅広い分野で使用され、年々需要が増加しています。北陸新幹線で走り始めた新型のE7系・W7系新

幹線車両にも神鋼ノースの「アルミハニカムパネル」が床材として採用されています。



▲ アルミハニカムパネル

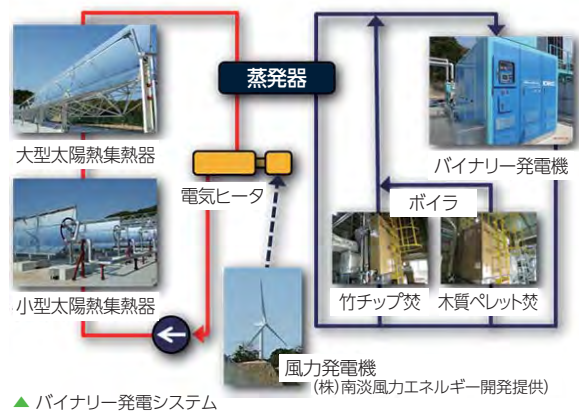
▲ E7系新幹線

## 再生可能エネルギーの利用拡大

### ● 複合バイナリー発電設備が稼働

(株)東芝と神戸製鋼は、環境省の補助事業として建設を進めていた風力・太陽熱・バイオマスを熱源とするバイナリー発電システムの実験設備を完成させ、現在実証試験中です。今回稼働を開始したシステムは、再生可能エネルギーである風力・太陽熱・バイオマス熱エネルギー源として組み合わせ、沸点の低い熱媒体を加熱し、蒸発させて生成する蒸気でタービンを回すことにより発電します。

神戸製鋼は、太陽熱集熱装置と木質バイオマスボイラで生成した蒸気を熱源とするバイナリー発電システムの開発を担当します。(株)東芝と神戸製鋼は、本実証設備で得た技術をもとに、地域に密着した電気・熱エネルギー供給設備の開発を進め、災害時を考慮した地産地消のエネルギー源として活用するなど、再生可能エネルギーの利用拡大に貢献します。



## 船舶から排出されるCO<sub>2</sub>を削減

### ● 「船用バイナリー発電システム」の開発に着手

神戸製鋼と旭海運(株)は、このほど共同で「船用バイナリー発電システム」の開発に着手しました。2015年度中に開発を完了し、2016年度中の実船搭載を目指します。

このシステムは、従来大部分が利用されていなかった船舶のエンジンから排出される熱を熱源としてバイナリー発電機で発電し、その電力を船舶の動力の補助電源などに活用するものです。このエネルギーの有効活用により、使用燃料およびCO<sub>2</sub>排出量を年間2.6～2.9%程度削減できるものと想定しています。

本開発に際して、神戸製鋼は新たに船用バイナリー発電機を開発。旭海運(株)は自社が保有する神戸製鋼向け大型石炭専用船「旭丸」にこの新規開発されたバイナリー発電機を搭載し、システム全体の構築を担当します。



▲ 「旭丸」の写真(旭海運(株)提供)

## 低排出ガス・低騒音・低燃費を追求

### ● 安全性と作業領域の広さを誇る、ハイパワーのホイールクレーンを発売

コベルコクレーン(株)は、ラフテレーンホイールクレーン「PANTHER700(型式RK700-2)」(最大つり上げ荷重70トン)を2015年3月5日より国内向けに販売を開始しました。

今回販売する「PANTHER700」は、安全性と作業領域の広さを誇る、ハイパワータイプのホイールクレーンです。高所での優れた安全性と、省スペースでの作業を可能とし、低排出ガス・低騒音・低燃費も追求しました。コベルコクレーンは、お客様のニーズに応えるべく、クローラクレーンと共に、ホイールクレーンの強化を進めます。



▲ PANTHER700

## ユーグレナ(微細藻類)の生産性向上

### ● 閉鎖型の培養槽を設置し、食品/化粧品などの商品化検討を開始

神鋼環境ソリューション(株)は、閉鎖型の培養槽1m<sup>3</sup>を設置し、従属栄養培養\*方式によるユーグレナ\*の培養を本格的に開始しました。これにより、ユーグレナ由来のバイオマスなどのサンプルをキログラム単位で提供する体制が整い、食品/化粧品、化成品などの商品化検討を開始します。

ユーグレナの培養方法は一般的に光合成培養と従属栄養培養がありますが、閉鎖型の培養槽における従属栄養培養は、

光合成培養と比較すると、単位面積当たりのバイオマス獲得量が数百倍程度となると共に、気候など外部環境(日光、気温等)に影響されない安定した培養を継続することが可能です。

今後は、培養方法についてさらなる改良を進めると共に1m<sup>3</sup>培養槽の培養実績を積み重ねていきます。

\* 従属栄養培養:生育に必要な炭素を有機化合物の形で生物に与える培養方法  
\* ユーグレナ:光合成を行う植物的性質と「すじりもじり」運動をする動物的性質を兼ね備えたユニークな生物

## 社外からの表彰

神戸製鋼グループの環境に配慮した製品・技術・サービスは、社外からも高い評価を得ています。

### 機関車アイドリングストップシステムが「省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞」を受賞

神戸物流(株)は、2014年度省エネ大賞の省エネ事例部門において、「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。(一財)省エネルギーセンターが主催する同賞は、省エネルギーに関する取り組みについて、優れた成果を表彰するものです。

神戸物流では、神戸製鋼加古川製鉄所の構内鉄道輸送を24時間365日体制で行っていますが、機関車のエンジンが常に稼働し、停止させることなく運用されていることに着目し、業界で初めて機関車アイドリングストップシステムの開発・実用化に成功しました。

その結果、省エネルギー化(軽油393kℓ)とCO<sub>2</sub>排出量1,029トン/年の削減という、大きな成果を上げることができました。詳細については下記をご参照ください。



▲ 省エネ大賞 表彰式

<http://www.kobelco-logis.co.jp/news/detail/?id=65>



### アルミ箔エコキューオンが「優秀環境装置表彰 日本産業機械工業会会長賞」を受賞

神戸製鋼と神鋼建材工業(株)は、(一社)日本産業機械工業会主催の「第40回優秀環境装置表彰 日本産業機械工業会会長賞」を受賞しました。本賞は、環境保全技術の研究・開発、並びに優秀な環境装置の普及促進を目的に、優秀環境装置を表彰するものです。

「アルミ箔エコキューオン」は、多数の微細孔を有するアルミ板・箔を用いた微細多孔吸音構造を有する全金属製吸音パネルであり、グラスウールなどを用いた従来の吸音パネルと同等以上の吸音性能を実現しました。さらに、耐水性やリサイクル性、耐食性にも優れています。本製品は、道路騒音対策を中心に、鉄道や工場などでも多数の採用実績があります。詳細については、下記をご参照ください。



▲ 優秀環境装置表彰 表彰式

<http://www.shinkokenzai.co.jp/news/post-3746/>



### ブルメタル™<sup>こうせいさぼうしわくすいせい</sup>(鋼製砂防牛柵水制)が「第1回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2015 優秀賞」を受賞

神戸製鋼は、(一社)レジリエンスジャパン推進協議会主催の「第1回ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2015 優秀賞」を受賞しました。本賞は、強靱な国・地域・人・産業づくりに資する活動・技術開発・製品開発に取り組んでいる企業や団体を対象とし、その取り組みを発掘・評価・表彰するものです。

「ブルメタル™(鋼製砂防牛柵水制)」は、土石流による河岸侵食防止、流向制御などの防災・減災を目的に開発された鋼製で小型の砂防構造物です。

基礎梁を地盤内に埋め込む程度でよく、自重で安定する構造です。そのためコンクリート基礎が不要であり、施工期間の短縮が可能で、災害時の緊急対策工事にも利用できます。詳細は下記をご参照ください。



▲ ブルメタル™(鋼製砂防牛柵水制)設置例

[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/awards/2015/1191129\\_14569.html](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/awards/2015/1191129_14569.html)



#### ● その他の受賞実績

受賞対象	主催団体	表彰名
神戸物流(株) 機関車アイドリングストップシステム	(一社)日本物流団体連合会	第15回物流環境大賞 物流環境負荷軽減技術開発賞
グリッドネット™ (小礫対応格子形-2000C 砂防えん堤)	(一社)レジリエンスジャパン 推進協議会	第1回ジャパン・レジリエンス・アワード (強靱化大賞)2015 優良賞

## 研究開発での環境への貢献

### CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献する素材技術の開発

CO<sub>2</sub>排出量削減のため、「強く」「軽く」「熱に耐える」革新的材料の創出とその普及が期待されています。

神戸製鋼では、自動車や航空機からのCO<sub>2</sub>排出量削減を可能にする材料、その接合技術、構造設計技術の研究開発に取り組んでいます。当社グループの強みである高張力鋼板（ハイテン）、チタン合金、アルミ合金など、多様な素材のそれぞれの特長を最大限活用する技術を開発することで環境負荷低減に貢献していきます。

この分野では、独自に進める研究開発のほか、国家プロジェ

クトとして、「革新的新構造材料等研究開発」\*と「戦略的イノベーション創造プログラム-革新的構造材料」\*に参画しています。

今後も神戸製鋼は、材料メーカーとしてユーザー企業などとの協働、産学連携の下に、実用化や産業技術基盤強化を図っていきます。

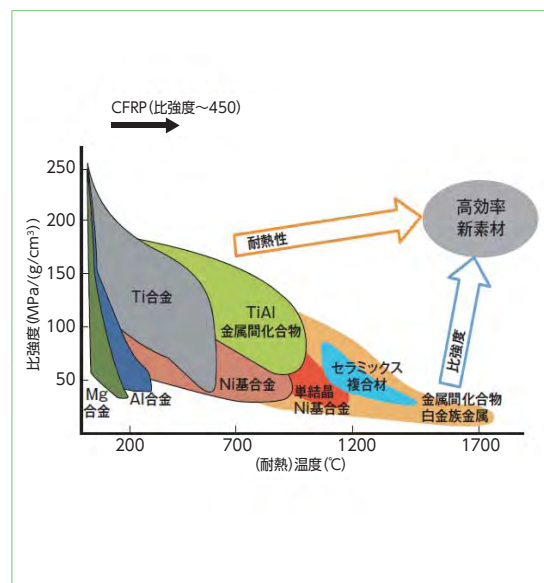
\* 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の委託事業として新構造材料技術研究組合 (ISMA) が推進するプロジェクト

\* 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の委託事業である、戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) の研究課題

マルチマテリアル化を実現するために、高強度ハイテン鋼同士、鋼板/軽金属、金属/樹脂などをつなぐ接合技術(点接合・連続接合)を開発

●高耐久・長寿命ツールによる高強度材料の摩擦攪拌(点・連続)接合技術の開発  
●熱履歴制御による中高炭素鋼の接合技術(抵抗スポット・レーザ、FSW)の開発  
●異材接合技術(抵抗スポット、FSW、レーザ、接着)の開発

「革新的新構造材料等研究開発」の狙い  
(新構造材料技術研究組合提供)



「戦略的イノベーション創造プログラム-革新的構造材料」の狙い  
(国立研究開発法人 科学技術振興機構提供)

### 橋梁の塗装塗り替え回数減少による環境負荷低減

#### ● 橋梁用ロングライフ塗装用鋼板(エコビュー®)の開発

神戸製鋼は、普通鋼に比べて塗装塗り替え周期を1.5倍に長期化できる橋梁用鋼板「エコビュー®」を開発しました。10年間の暴露実験の結果において、普通鋼に比べて「エコビュー®」は効果的な腐食抑制機能\*を有することが確かめられています。「エコビュー®」の活用によって、鋼橋の耐久性向上のみならず、使用期間中の塗装塗り替え回数減少による環境負荷低減にも寄与します。

「エコビュー®」は、すでに国内15カ所(2015年4月現在の)の橋梁に採用されています。また、国土交通省のNETIS\*にも登録されており、今後のさらなる普及が期待されています。

\* 塗装キズ部などの塗膜弱点部から発生する腐食の進行を抑制する機能  
\* NETIS[新技術情報提供システム(New Technology Information System)]国土交通省が公共工事等で活用する新技術をまとめたデータベース。新技術の情報を一般に提供し活用を推進するためのもの。



▲ 代表的採用事例:奈良県南阪奈道路 當麻第二橋(鋼上工)

# 環境関連情報の開示

神戸製鋼グループは、環境経営に関わる活動をステークホルダーの皆様へ正しくお伝えするために、環境情報を積極的に公開しています。事業所においては、地域の皆様との対話を定期的実施するなど、環境コミュニケーションにも取り組んでいます。

## 環境・社会報告書の発行

神戸製鋼は、環境報告書の第1号を1999年に発行して以来、毎年環境への取り組みを紹介しています。2006年からは社会性の取り組み内容と共に「環境・社会報告書」として発行しています。今後も神戸製鋼グループの環境経営に関わる活動の成果を広くお伝えできるように努めていきます。より詳しい環境データや取り組み事例、過去の報告書は、ホームページをご覧ください。



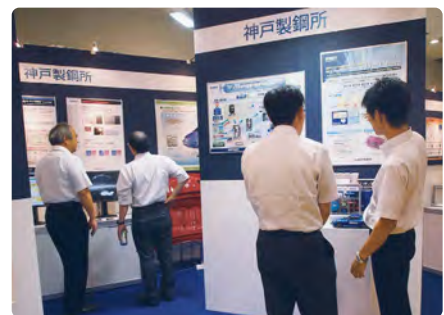
[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/kaiji/report/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/)

## 展示会への参加

神戸製鋼グループは、展示会への出展などを通じて環境に貢献する製品・技術・サービスを紹介しています。

2014年度は、「国際フロンティア産業メッセ2014」や「メッセナゴヤ2014」、「第11回国際水素・燃料電池展(FC EXPO2015)」などに出席しました。

「国際フロンティア産業メッセ2014」は、神戸国際展示場で2014年9月4～5日に開催されました。鉄鋼スラグを利用した「鋼製藻場魚礁」、高機能抗菌めっき技術「ケニファイン」、燃費向上やCO<sub>2</sub>排出量削減を実現する「自動車軽量化技術」、自然環境に優しく越波を抑制する「フレア護岸」、水素ステーション関連機器などを出展しました。



▲ 国際フロンティア産業メッセ2014

## 公開モニターによる環境情報の開示

加古川製鉄所および神戸製鉄所では、製鉄所のばい煙排出量などの環境情報を、各地に設置したモニターを通じてリアルタイムで公開しています。

加古川製鉄所環境情報 公開モニター設置場所	加古川市役所、播磨町役場 別府および尾上の地元町内会の公民館
神戸製鉄所環境情報 公開モニター設置場所	灘浜サイエンススクエア 灘浜ガーデンバーデン

## 地域社会とのコミュニケーション

環境保全の取り組みをご理解いただくために、加古川製鉄所、神戸製鉄所にて地域の皆様への現地説明会を実施し、合計118名の方に参加いただきました。

また、環境に関するお問い合わせ窓口として、加古川製鉄所と神戸製鉄所に環境フリーダイヤルを開設しています。今後も皆様の一つひとつのご意見に耳を傾けていきます。

# 環境会計

神戸製鋼グループは、環境保全活動に継続的に取り組んでいます。環境保全活動に関わる費用と効果を把握し、ステークホルダーの皆様にご理解を深めていただくため、情報を開示しています。

## 環境関連投資と環境保全効果

神戸製鋼では、環境負荷低減のために環境対策設備の新設や維持管理に継続して投資を行い、さまざまな面から環境対策を進めています。環境保全活動を進めるため、2014年度は以下のような取り組みを実施し、約121億円を投資しました。

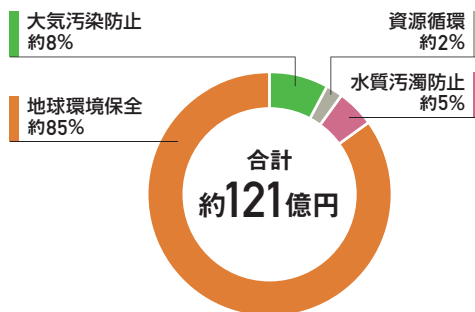
- 高効率発電設備(ガスタービン・コンバインドサイクル)の導入(加古川製鉄所)
- 排ガス処理設備の導入(大安工場)

また、2014年度の費用額の合計は約317億円で、その内訳は大気汚染防止に約32%、水質汚濁防止に約15%、資源循環に約33%となっています。また、製品・技術・サービスでの環境への貢献として、環境調和型製鉄プロセス技術開発など、製品・技術開発に総費用額の約12%にあたる約39億円を投じています。

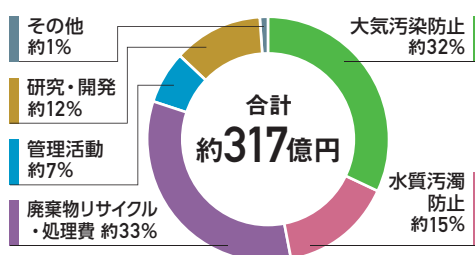
効果の詳細については、P25～27「地球温暖化対策」、P28～29「資源循環の促進」、P32～36「製品・技術・サービスでの環境への貢献」をご覧ください。

今後も、設備更新をはじめ、環境保全に関わる活動を継続的に実施していきます。

2014年度 投資額の内訳



2014年度 費用額の内訳



## 全員参加による取り組みの展開

神戸製鋼グループの全従業員が、環境に関する意識を高め、常に環境に配慮した行動が行えるよう、環境教育・学習を継続して実施すると共に、環境家計簿(コベルコ エコライフ ノート)やエコオフィス活動などの取り組みを推進しています。

## 環境意識の向上

### 神戸製鋼グループ環境会議

神戸製鋼グループは、環境情報の共有化、環境への取り組みの横展開などを図ることを目的に、毎年「神戸製鋼グループ環境会議」を開催しています。2014年度はグループ会社29社を含め104名が参加し、各事業所での環境負荷低減などの有益な活動事例や失敗事例の発表、法令改正内容の確認などを行いました。

グループ全体で環境への取り組み強化を図ると共に、環境意識の向上に努めていきます。



▲ 神戸製鋼グループ環境会議

### 環境教育・学習

神戸製鋼は、2006年度から環境教育・学習を階層別(事業所の職制ごと)の教育に織り込み、継続的に実施しています。また、イントラネットを利用したe-ラーニングを定期的に行い、従業員の環境意識向上と環境法令の周知徹底を図っています。

### 環境関連資格取得の推進

環境管理の取り組み強化や環境意識の向上を図るべく、公害防止管理者やエネルギー管理士など事業所ごとに必要な資格取得を推進しています。

#### 環境関連有資格者数(神戸製鋼)

資格	有資格者数	資格	有資格者数
公害防止管理者(大気)	243	公害防止管理者(ダイオキシン類)	54
公害防止管理者(水質)	176	公害防止主任管理者	6
公害防止管理者(騒音・振動)	197	エネルギー管理士	166
公害防止管理者(粉じん)	54	環境計量士	15

# リスク管理の徹底

神戸製鋼グループは、事業活動に伴う環境リスクを把握し、リスク低減活動を実施すると共に、日常の管理手順を定め、適切な管理を実施しています。また、環境監査などの活動を通じて、法令遵守の徹底や環境管理の強化に継続して取り組んでいます。

## 環境管理の向上

神戸製鋼の事業所については、ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入し、事業所内で内部監査を実施すると共に、外部の認証機関による審査を受けています。また、社内規程に基づき、本社による書面および現地監査を実施することにより環境管理レベルの向上を図っています。

グループ会社についても、書面による調査を実施しています。また、環境リスクの大きい事業所には環境マネジメントシステムを導入し、自主的な環境活動を実施すると共に、神戸製鋼による現地調査も実施しています。

現地監査には社外のコンサルタントにも参画いただき、客観的かつ正確な監査に努めています。

現地監査用の確認項目リストは、事業所別に作成しており、監査前に事業所にて自己評価を実施することで、管理状況の把握に役立てたり、現地監査を効率よく実施しています。



▲ 環境監査にて、原料ヤードの粉じん対策の確認  
(加古川製鉄所)

## 環境リスクへの対応

神戸製鋼グループの対応として、毎年実施している書面による監査の範囲を2014年度から広げています。適宜、内容を見直し、今後も継続して実施します。

また、2015年度は環境法令教育の充実を図り、さらなるリスク管理レベルの向上を図ります。

## 緊急事態対応訓練

各事業所にて、環境リスクを抽出し、リスク低減を図ると共に緊急事態対応の訓練を定期的に行っています。

訓練後は、反省会などで課題を抽出し、PDCAサイクルを回しています。



▲ フォークリフトからの油漏えいを想定した訓練  
(神鋼建材工業(株))

## 2014年度の行政による指示・指導

神戸製鋼およびグループ会社において、環境法令について重大な違反はありませんでしたが、関係行政から指示や指導を受けました。指示・指導事項については適切に対応しました。

### ● 行政による指示・指導件数

	大気	水質	その他
神戸製鋼	0	1	0
グループ会社	1	2	0

### ● 行政による指示・指導の事例

- ・ 届出が必要な環境関連設備の届出漏れが判明し、届出書を提出し、従業員へ再教育を実施しました。
- ・ 行政の排水立入検査において、pHが規制値を超過しており、改善指示を受けました。使用洗剤を変更すると共に、中和設備の導入を予定しています。
- ・ 行政のばい煙自主記録確認の立入において、届出値を超過しており、必要に応じて修理するなどの指導を受けました。修理時期の検討を進めています。



## 海外事業所におけるリスク管理活動

神戸製鋼グループは、グループの環境経営基本方針に則り、世界各地に広がるグループ事業所での環境管理の徹底を図っています。

### 海外グループ会社の現地環境調査を実施

神戸製鋼グループでは、国内の事業所・グループ会社と同様に海外グループ会社においても、将来的には日本国内に準じた環境管理体制を整備していきます。そのために、2009年度より世界各地の製造拠点を対象として神戸製鋼が主体となった「現地環境調査」などを行い、現地の環境管理状況を確認しています。

2014年度は中国において生産拠点となっているグループ会社1社について、環境管理状況の実態把握と問題点の抽出を現地調査で行い、その結果をもとに必要な是正措置を行いました。2015年度も、海外事業所の現地調査を継続して実施します。



▲ 薬液タンクの確認(中国)



### 海外拠点との情報共有・連携

世界中のグループ会社においても環境管理を推進するため、海外拠点に対してもさまざまな支援を行っています。多くのグループ生産拠点を有するアメリカでは、生産拠点の環境管理業務を支援するため、アメリカにおける統括会社であるKobe Steel USA, Inc.(KSU)に環境担当者を配置しています。

KSU環境担当者は現地環境調査等を行うと共に、EHS (Environment, Health & Safety)ミーティングを開催して生産拠点の環境担当者との情報共有を行っています。

また、近年生産拠点が増加した中国においてもアメリカと同様に、2015年4月から統括会社である神鋼投資有限公司に環境担当者を配置しています。その他地域においても、定期的な情報共有体制を構築し、コミュニケーションを図っています。今後もこのような活動を継続し、環境リスクの低減に努めていきます。また、2014年度からは海外赴任予定者に対し、環境リスクに対する感性を養成し、現地法令の理解、赴任後のフォローを円滑に進めることを目的とした環境赴任前教育を実施しています。



▲ EHSミーティング(KSU)

## TOPICS

### 海外事業所での従業員教育・訓練

#### ●全従業員に定期的な環境教育を実施(中国 浙江省)

神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司(以下、KSP)は、中国浙江省で特殊鋼線材の二次加工製品の製造・販売を目的に2007年に設立されました。KSPでは、環境管理意識を高めるためさまざまな取り組みを行っています。特に教育に力を入れており、新入社員教育に加え、3ヵ月ごとに全従業員を対象とした環境教育を行っています。

さらに環境レベルを高めるため、2015年2月に環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しました。



▲ 教育中の写真(KSP)

#### ●緊急時の水質汚染防止教育を実施(アメリカ カリフォルニア州)

プロセスガス用圧縮機システムなどの設計・製造・販売を目的に設立されたKobelco Compressors America, INC.(以下、KCA)では、緊急時においても水質汚染を防止することを目的に、定期的に教育・訓練を実施しています。

また、KCAでは全マネージャーが参加する工場の安全パトロールを2014年より実施しており、この中に環境関連のチェック項目を盛り込むことで事務所、工場双方の環境意識向上を図っています。



▲ 緊急時対応方法の教育(KCA)

# 社会性報告

多様なコミュニケーションや社会貢献活動により、  
ステークホルダーとのつながりづくりを進めます。

## ステークホルダーとの関わり

お客様・お取引先様、株主・投資家様、社会の皆様、一人ひとりの社員…。

多様なステークホルダーと“信頼”というつながりをつくること、  
神戸製鋼グループの社会的責任に対する基本姿勢です。

それぞれのステークホルダーの立場を尊重し、さまざまなご意見・ご指摘に応え、

身近な企業市民としてふれあい、地域社会に貢献する活動を続けることで、

企業としての社会的責任を果たしていきます。

神戸製鋼グループは、ステークホルダーの皆様と、共に生き、共に発展する企業体を目指します。

### お客様・ お取引先様

P45~46

優れた製品・サービスの提供を通じて、お客様やお取引先様の期待と信頼にお応えします。

### 株主様・ 投資家様

P47~48

経営の透明性を高め、グループ全体での企業価値向上を図ることで、健全で良好な関係づくりに努めます。

### 地域社会の 皆様

P49~53

地域に息づく良き企業市民の一人として、各地の事業所を起点に、環境保全活動を支援し、地域社会とふれあい、貢献する活動を続けます。

# KOBELCO

### 海外の 現地社会

P54

海外の文化や慣習を尊重し、その国の企業の一つとして現地社会の発展に貢献する活動を目指します。

### 社員

P55~58

社員の人格・個性や人権を尊重し、多様な人材がのびのびと活躍できる職場環境づくりを進めます。

# HIGHLIGHTS ON SOCIETY

2014年度の活動ハイライト

●お客様・お取引先様

ものづくり力を強化する  
「ものづくり  
推進リーダ会議」

P.45

●地域社会の皆様

スポーツを通じた  
社会貢献



P.44

●社員

ダイバーシティ・  
女性活躍推進の取り組み

P.55



●株主様・投資家様

株主の皆様の  
事業所見学会を実施

P.48

●海外の現地社会

マレーシアで洪水被災地の  
洗浄清掃活動をサポート



P.54



## 社会貢献活動クローズアップ

スポーツを通じた社会への貢献は、  
神戸製鋼グループならではの活動です。

高校ラグビーへの特別協賛活動

# KOBELCO CUP 2014

神戸製鋼グループが特別協賛する  
「KOBELCO CUP」が10周年を迎えました。  
リオデジャネイロ、そして東京オリンピックに向け、  
男女高校生ラグビーの育成・強化をサポートします。

## 次世代ジャパンを育成する、 “もうひとつの花園”。

神戸製鋼グループが特別協賛する「KOBELCO CUP2014」(第10回全国合同チームラグビーフットボール大会) [第4回全国高等学校女子7人制フットボール大会]が、2014年7月31日～8月3日、長野県の菅平サニアパークで開催されました。“もうひとつの花園”ともいわれ、これまでに大会経験者から多くの日本代表や、各年代代表が生まれています。

「KOBELCO CUP」は2005年に北海道夕張市で第1回を行い、2008年の第4回から開催地を菅平へ移しました。試合形式は当初から、全国を9ブロックに分けたブロック対抗戦。未来の日本代表を目指す強豪校から選抜される「17歳以下(U17)の部」と、部員不足により単独では“花園”に出場できない選手たちが編成される「18歳以下(U18)の部」があります。



## 大会サポート役として、 神戸製鋼ラグビー部も参加。

「KOBELCO CUP」では、全国から選抜されたU17、U18の選手たちが競い合い、レベルの高い試合を通じて技能向上を図ります。

大会のサポート役として、神戸製鋼ラグビー部コベルコスティールズの部員や、OB「クラシックスティールズ」も参加。次代を担う高校ラグビー選手たちの気迫に、指導にも熱が入りました。



## リオデジャネイロに向け、 女子7人制ラグビーも支援します。

「KOBELCO CUP」には、2011年から「女子7人制の部」も加わりました。男女7人制ラグビーが正式種目となる2016年のリオデジャネイロオリンピック、2020年の東京オリンピックに向け、さらなるレベルアップを支援していきます。

10年にわたって「KOBELCO CUP」に特別協賛してきた神戸製鋼グループは、高校生選手の育成を通じて、これからも日本ラグビー界に貢献します。



## 多様なスポーツの支援活動

スポーツの支援を通して、地域の交流や子どもたちの健全な育成に貢献しています。

### 灘浜スポーツゾーン

#### スポーツを通じた地域交流を促進

神戸製鋼ラグビー部の拠点に併設された「灘浜スポーツゾーン」では、人工芝グラウンドとテニスコートを整備し、地域の皆様に一般開放しています。

人工芝グラウンドは、ラグビーやサッカー、アメリカンフットボールの他、グラウンドゴルフにも利用できるよう用具の一部を貸し出しており、近隣の学校やラグビー・サッカーのクラブチームなど、スポーツを愛する人々の交流の場として役立っています。



#### 新スポーツ「スペースボール」体験を拡げます

「スペースボール」は、神戸製鋼が支援するスポーツNPO法人「SCIX」が考案したもので、ラグビーやサッカーのように「スペース（空間）」を活かしてボールをつないでいくことで、子どもたちの身体能力や状況判断力などを養うことができるスポーツです。神戸製鋼ならではの財産であるラグビーに関わる人材や設備を活用し、近隣の小学生を「灘浜スポーツゾーン」に招いて、「スペースボール」を指導しています。



### 神戸製鋼ラグビー部

## 「コベルコスティールーズ」の活動

ファンの声援に応えトップリーグで熱戦を繰り広げながら、さまざまな社会貢献に取り組んでいます。

**Kobelco Steelers®**  
KOBELCO STEEL RUGBY CLUB



#### 12年前から続く、「日本せきずい基金」への寄付活動

神戸製鋼ラグビー部は、2014年8月18日、NPO法人「日本せきずい基金」に対し、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動、2014年7月6日に実施した「コベルコラグビーフェスティバル2014」における収益金の、合計232,921円を寄付しました。

せきずい損傷はラグビー選手にとっておこりやすいケガであり、ラグビー部は12年前から同基金への寄付を行っています。



#### 宮城県亘理町で、タグラグビー交流会に参加

2014年10月31日・11月1日、宮城県亘理町でのタグラグビー交流会に佐藤、濱島、田邊の3選手が参加しました。

1日目は亘理小学校を訪問し、3年生のタグラグビーの授業に参加。子どもたちはプロの選手のプレーに驚きの様子でした。2日目は、亘理小学校グラウンドで行われたタグラグビー交流会に参加。計10チーム・150名が参加し、持てる力を存分に発揮していました。



#### 東日本大震災への復興支援活動を継続

2014年10月9日、神戸製鋼ラグビー部は、2013-2014シーズンのファンクラブ会員年会費の一部、「神戸製鋼コベルコスティールーズ自動販売機」の売上金の一部、昨シーズンの試合会場で実施した募金活動の合計2,005,651円を、日本赤十字社兵庫県支部を通じて東日本大震災義援金として寄付しました。

東日本大震災をけっして忘れず、これからも被災地の復興支援活動を続けていきます。



# 優れた製品・サービスの提供

神戸製鋼グループの企業理念の一つ「信頼される技術、製品、サービスの提供」を実践するため、「ものづくり力」強化のためのさまざまな取り組みを通して、国内外のお客様・お取引先様に信頼され、満足される「優れた製品・サービス」を提供していきます。

## ものづくり推進部の活動

ものづくり推進部は、神戸製鋼グループのものづくり力強化に向け、「情報共有」「シナジー発揮」「人材育成」などに取り組んできました。

現在、「品質力の強化」「調達力の強化」「省エネルギー」などの課題にも取り組み、神戸製鋼グループ全体のものづくり力の強化により、信頼される製品、サービスの提供に努めています。

## 神戸製鋼グループ内での連携強化

各工場の代表者が参加する『ものづくり推進リーダ会議』を通じて、全社施策に関わる意見交換や優れた事例の情報共有を図ると共に、個別の要素技術に関わる専門技術者同士の交

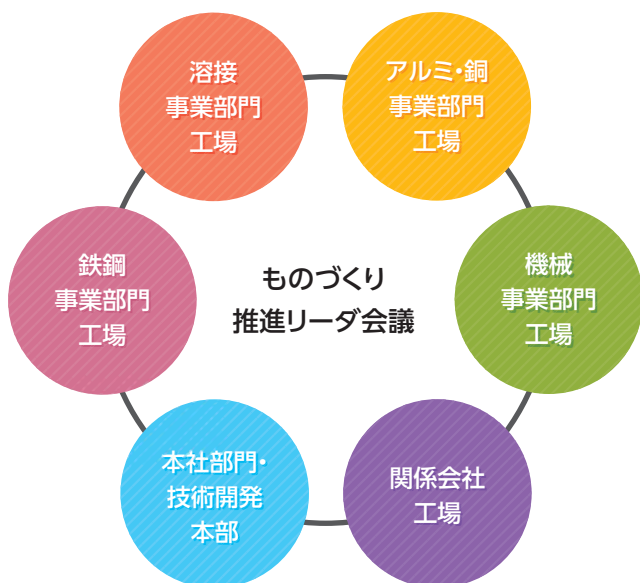
流の場である『生産技術交流会』を通じて、グループ全体での技術レベルの向上を図っています。

## ものづくり推進リーダ会議

神戸製鋼グループでのものづくり推進活動の窓口として各工場に「ものづくり推進リーダ」(工場長、副工場長クラス)を設置し、「ものづくり推進リーダ」が集まる『ものづくり推進リーダ会議』を定期的で開催しています。ここでは、社内外での先進事例の紹介、実施中の施策の推進状況の共有や新たな施策に

関する討議などを行っています。

紹介した事例をそれぞれの工場における改善活動の参考にしてもらい、要望があれば紹介事例の工場との交流会なども個別に企画しています。



▲ 優れた事例の共有



▲ リーダ会議における課題討論

## 生産技術交流会

グループ内で共通性の高い技術分野については、同じ技術分野の技術者同士の交流の場として『生産技術交流会』を設けています。

『生産技術交流会』は、現在、右図に示す7つの技術分野について分科会を設けて活動を行っています。

生産技術交流会の各分科会には事業部門や会社の枠を超えて、その分野の技術者が参加して、「情報共有」「人材育成」「事業貢献」の3つの課題に取り組んでいます。

情報共有は、講演会の開催を通じて行っています。講演会は分科会ごとに年に1~2回程度、関連事業所持ち回りで開催しており、優れた取り組み事例を参加者が相互に紹介しています。

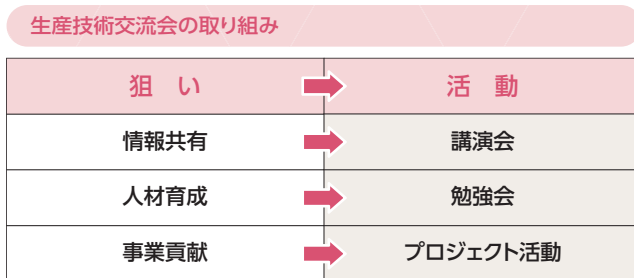
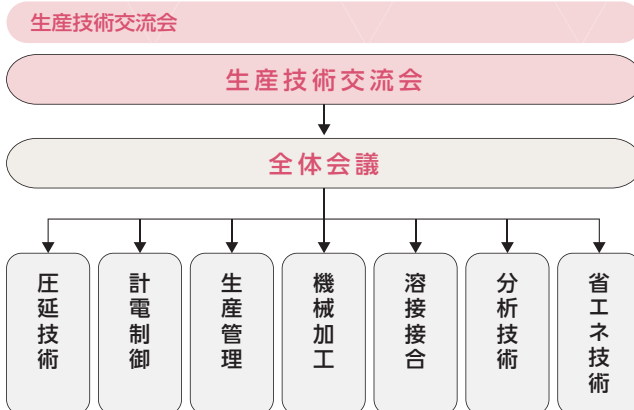
人材育成については、その技術分野で獲得しておくべき要素技術を分科会で整理し、基盤となる技術を習得するための「勉強会」を開催しています。

事業貢献については、技術分野の共通課題に取り組むプロジェクトチームを組み、活動しています。

たとえば、機械加工分科会では、機械事業部門と技術開発本部が共同で開発した「最適加工条件システム」を活用し、機械加工に携わる事業所に対する改善指導を実施しています。従来、事業所単独で取り組んでいた改善活動に、新たな知見を加えることにより、さらに効果的な改善案の立案が可能になっています。



▲ 溶接技能の向上



▲ 機械加工分科会の講演会

## 品質力強化の取り組み

神戸製鋼グループの各事業所はISO9001などの品質マネジメントシステムを採用し、顧客満足度調査を通じた品質向上に取り組んでいます。

たとえば、コベルコ建機では、品質保証部にて、高まるお客様の要求に応えられる品質づくりに取り組んでおり、お客様の評価として顧客満足度調査を実施しています。

### ● 改善観点の優先順位

1.Safety(安全)	安全第一
2.Quality(品質)	安全を確保し、品質改善
3.Delivery(納期)	安全と品質を確保し、生産性改善
4.Cost	安全、品質、生産性を確保し、コストダウン

# 株主・投資家の皆様との関わり

神戸製鋼グループは、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。その中で、株主の皆様への利益還元はもちろんのこと、株主・投資家の皆様をはじめとするあらゆるステークホルダーとのコミュニケーション、経営の透明性の向上を重要課題と認識し、適正かつ迅速な情報開示と、幅広い情報公開を進めていきます。

## 株主還元

神戸製鋼は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、中長期的な視野に立った事業展開を推進することにより、グループ全体での企業価値向上に努めています。

成果の配分につきましては、当社の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮することとし、配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、各期の業績および配当性向などを勘案して決定していきます。

内部留保資金につきましては、将来の成長のために必要な投資などに充てることを通じて、収益力の向上に努めると共に、財務体質の改善・強化を進めていきます。

また、業績に応じた利益配分を考慮する上で、基準とする配当性向につきましては、当面の間、連結純利益の15%から25%程度を目安としています。

剰余金の配当につきましては、会社法第459条第1項および第460条第1項に基づき、取締役会の決議によって定める旨を定款に定めています。

これに基づき、定款に定める基準日である中間期末および期末に、年2回の配当を取締役会決議により実施することを基本としています。それ以外を基準日とする配当を行う場合には、別途取締役会にて基準日を設定した上で行います。

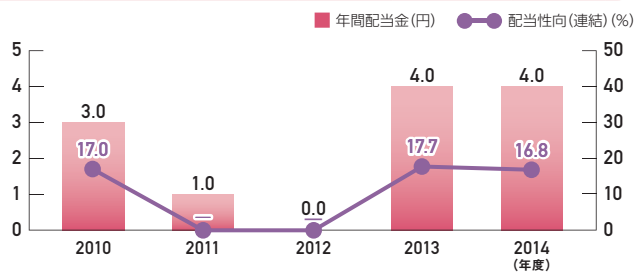
## 情報開示

株主や投資家の皆様へ長期的かつ安定的に信頼・支援いただくために、説明責任の遂行が極めて重要であると考え、企業情報や財務情報の適時・適切な開示に努めています。

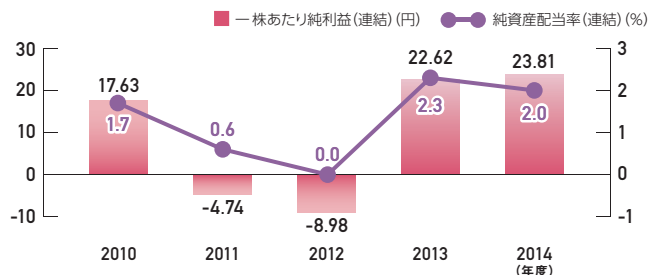
情報開示に関しては、法定開示基準の遵守、証券取引所の定める適時開示に関する規則に則った開示はもちろんのこと、これ以外の情報であっても、投資判断に関わると考えられる開示可能な情報については積極的に、迅速かつ継続的に発信することに努めています。また、海外の株主・投資家の皆様に対し同じ情報が発信できるよう英訳開示にも合わせて取り組んでいます。

こうした取り組みにより神戸製鋼グループの経営状況

### 配当金の推移

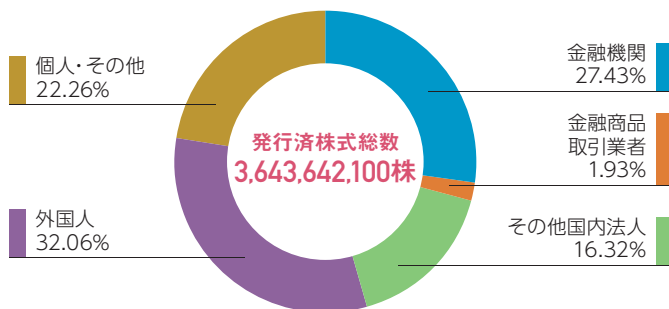


※2011年度の配当性向は、連結純利益が損失のため、「-」で表記しています。  
 ※2012年度の配当は見送りといたしました。



## 株主の状況

所有者別株式分布 (2015年3月31日現在)



や事業活動状況を十分にご理解いただき、適正な企業価値評価を得ることを目指しています。



▲株主の皆様へ



# 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

## 株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会を、株主の皆様と直接コミュニケーションする場としてとらえ、できるだけ多くの方に出席していただくために、招集通知の早期発送、神戸製鋼ホームページへの早期の掲載、海外向けの英文での開示、開催日の集中日回避などの工夫をすると共に、インターネット(携帯電話、議決権行使プラットフォームへの参加含む)を通じて議決権を行使いただける環境を整えています。

また、株主の皆様が多様な事業を営む神戸製鋼グループに対する理解を深めていただく機会として、2007年度より株主の皆様を対象とした見学会を開催しています。これまでに合計15回の開催を数え、4,065名(同伴者様含む)を招待しました。これまでにご覧いただいた事業所は以下の通りです。

- ▶ 加古川製鉄所(鉄鋼:兵庫県加古川市)
- ▶ 神戸製鉄所(鉄鋼:兵庫県神戸市)
- ▶ 高砂製作所(鉄鋼[鑄鍛鋼・チタン]、機械:兵庫県高砂市)
- ▶ 真岡製造所(アルミ[アルミ板]:栃木県真岡市)
- ▶ 神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)
- ▶ コベルコ建機(株)GEC・五日市工場(広島県広島市)

今後も、さまざまな事業所をご覧いただき、理解を深めていただけるよう、見学会を開催していきます。新たな事業所での開催や、開催機会の増加なども検討していきます。

### 株主見学会の様子



▲ 神戸製鉄所



▲ 神戸製鉄所



▲ 神戸製鉄所



▲ 真岡製造所



▲ 真岡製造所



▲ 神戸総合技術研究所

## 機関投資家の皆様とのコミュニケーション

国内の機関投資家や証券アナリストの皆様を対象に、神戸製鋼の経営方針や経営成績および財務状況をご理解いただく機会として、年4回の決算説明会を開催しています。

また、国内外の機関投資家や証券アナリストの皆様との個別面談を行い、継続的なコミュニケーションに努めています。

## 個人投資家の皆様とのコミュニケーション

個人投資家の皆様には、神戸製鋼ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)を通じて、半年に1度株主の皆様へ送付する「株主の皆様へ」などの発行物の他、アニュアルレポートや有価証券報告書、この環境・社会報告書など幅広い情報を提供しています。

2015年に更新したホームページでは、新着ニュースの掲載や、冊子の閲覧だけでなく、神戸製鋼グループの製品・技術をわかりやすく検索いただけるようにレイアウトを構成し、映像による製造現場のご紹介や需要分野から当社グループの製品・技術を見ていただけるページを設けるなど、より深くご理解いただけるような工夫を凝らしています。

また、この他にも、海外の投資家の皆様にも神戸製鋼グループを知っていただけるよう、英語版や中国版のホームページを開設しています。

神戸製鋼グループは、株主・投資家の皆様から末永く信頼されるよう、そして、中長期的な企業価値向上に向けて、今後も情報開示およびコミュニケーションの質的向上に努めていきます。



▲ 神戸製鋼ホームページ

# 社会との共生

神戸製鋼グループでは、それぞれの事業所が、地域の一員としてさまざまな社会貢献活動を行っています。良き企業市民として、社会への責任を果たすこと。そんな心が、それぞれの事業所で働く一人ひとりに息づいています。次世代の育成や地域の方々との交流、清掃活動、地域と協調した環境保全活動など、社会と共に生きる、神戸製鋼グループの活動にふれてください。また、スポーツを通じた社会貢献活動について、P43～44で報告しています。合わせてご覧ください。

## 次世代の育成支援

未来を担う地域の子どもたちの成長をサポートする活動に、2006年度より継続して取り組んでいます。

### コベルコ地域社会貢献基金

#### ● 地域の子どもたちへの支援活動

神戸製鋼は、創立100周年を機に「コベルコ地域社会貢献基金」を設立。2006年度より、未来を担う地域の子どもたち

を対象に、神戸製鋼の事業所やグループ企業が立地する地域の施設や団体の活動を支援しています。



▲ ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー「北九州市立中央図書館へ科学分野の書籍」



▲ 神鋼機器工業「倉吉市内の保育園へ知育玩具や遊具」



▲ 大安工場「いなべ市の子育てセンターへ防災用具や遊具」



▲ 神鋼建材工業「尼崎市内の保育園へ木製の積木」

#### ● 2014年度コベルコ地域社会貢献基金による支援実績

事業所名	支援先	支援内容		
神戸製鋼	神戸本社(兵庫県神戸市)	児童養護施設 児童館	パソコン、テレビ、空気清浄機などの購入費 震災20年プログラムに使用する教材、備品の購入費	
	神戸総合技術研究所(兵庫県神戸市)	青少年育成協議会	青少年フェスティバルの運営費	
	神戸製鉄所(兵庫県神戸市)	子ども会 児童館	イベントで使う工作用具などの購入費 木工用備品の購入費	
	加古川製鉄所(兵庫県加古川市)	子育てサークル ボランティア団体 ソフトボール協会	遊具、イベント用備品などの購入費 清掃活動用備品の購入費 大会運営費	
	高砂製作所(兵庫県高砂市)	母子生活支援施設 子育て支援センター 保育園	絵本、遊具などの購入費 絵本、遊具などの購入費 絵本、遊具などの購入費	
	播磨工場(兵庫県加古郡)	障がい児の社会交流を支援する団体 ボランティア団体	イベントで使う備品の購入費 環境学習用品の購入費	
	藤沢工場(神奈川県藤沢市)	科学少年団	天体観測用望遠鏡の購入費	
	福知山工場(京都府福知山市)	幼稚園	知育玩具、遊具の購入費	
	茨木工場(大阪府茨木市)	待機児童保育室	知育玩具、遊具の購入費	
	西条工場(広島県東広島市)	住民自治組織	飛び出し注意喚起用の看板や誘導棒などの購入費	
	真岡製造所(栃木県真岡市)	小学校・中学校	緑化美化活動用の機材の購入費	
	大安工場(三重県いなべ市)	子育て支援センター	防災用具、遊具などの購入費	
	長府製造所(山口県下関市)	幼稚園・保育園	遊具、絵本などの購入費	
	グループ会社	神鋼ノース(株)(茨城県かすみがうら市)	高等学校	アルミ製足場板の寄贈
		神鋼造機(株)(岐阜県大垣市)	幼稚園・保育園	屋外用大型遊具の購入費
		神鋼建材工業(株)(兵庫県尼崎市)	保育園	木製知育玩具の購入費
コベルコクレーン(株)(兵庫県明石市)		小学校・中学校	運動会などの行事で使うテントの購入費	
神鋼機器工業(株)(鳥取県倉吉市)		幼稚園・保育園	知育玩具、遊具などの購入費	
ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー(株)(福岡県北九州市)	図書館	科学系書籍の購入費		

## 地域交流・地域貢献

各地の事業所では、地域社会の一員として、さまざまな地域交流イベントや社会貢献活動を実施しています。

### 加古川製鉄所 兵庫県

#### ●「第24回神鋼かこがわフェスティバル」を開催

2014年10月26日に、恒例となった「第24回神鋼かこがわフェスティバル」を開催しました。当日は天候に恵まれ、地域住民や従業員の家族など約8万 명이 来場し賑わいをみせました。

当日は、神戸製鋼が支援するカーレースチーム「LEXUS TEAM SARD」によるレーシングカーの試乗会や撮影会、コベルコスティーラーズによる幼児・小学生向けのラグビー教室、ソフトボール教室、熱延工場や厚板工場の見学など、たくさんの催し物を通じて地域の方々とはふれあうことができました。



▲ LEXUS TEAM SARDのレーシングカー試乗会

### 長府製造所 山口県

#### ● 15年目を迎えた「長府フェスタ2014」開催

2000年から開催している「長府フェスタ」は、地域住民も参加するお祭りとして、すっかり定着しています。2014年は、10月19日に14回目として開催。天候にも恵まれ、約4,300 명이 来場しました。

子どもたちによる「玉入れ」や従業員による「綱引き」毎年恒例の豪華賞品が当たる「お楽しみ抽選会」、長府漁協の協力による「マグロの解体ショー」などで盛り上がりを見せました。



▲ 恒例の綱引き大会で大興奮

### コベルコ建機(株) 広島県

#### ● 地域とはふれあう「第3回コベルコ建機感謝祭」

2014年9月28日に、五日市工場で「第3回コベルコ建機感謝祭」を開催し、従業員とその家族、近隣の地域住民など、約2,500 명이 来場しました。

メインステージでのコベルコバンドによるライブや神楽、キッズコーナーでのビッグふわふわドームやショベル体験、神戸製鋼が支援するカーレースチーム「LEXUS TEAM SARD」によるレーシングカーの撮影会など盛りだくさんの内容でした。

屋台などイベントの売上はすべて、広島市土砂災害被災地域に義捐金として寄付しました。



▲ 親子そろってショベル体験

### 藤沢事業所 神奈川県

#### ● 地域に定着した夏のイベント「神鋼祭」

神鋼祭は1973年に地域の盆踊り大会として始まり、今では地域社会にすっかり溶け込んでいます。2014年は8月1日の夕刻から開催し、従業員とその家族、町内会の方々や近隣の子どもたちなど、約1,500 명이 参加しました。

当日は、鏡開きや歌謡ショー、大道芸、お楽しみ抽選会、花の苗の配布などイベントが盛りだくさんで、湘南の夏を彩る賑やかな一夜となりました。



▲ 神鋼祭の屋台は美味しいと評判

### 高砂製作所 兵庫県

#### ● 家族で楽しむ休日「高砂ファミリーホリデー2014」開催

2014年11月1日に、「高砂ファミリーホリデー2014」を開催し、従業員の家族や地域住民など約3,000 명이 来場しました。前日から降り続く雨の影響で、残念ながら、吹奏楽、和太鼓の実演は中止となりましたが、昼には雨もあがり、変身ヒーロー「トッキュウジャー」のショーや、従業員によるバンド演奏、フラダンス、そして恒例となっている大抽選会など、さまざまなイベントで盛り上がりを見せました。



▲ 従業員のバンド演奏が大好評

### 神鋼不動産(株) 兵庫県

#### ● 第3回「未来のまち・夢のわが家子ども絵画コンテスト」を開催

3年前から「未来を担う子どもたちの育成」を中心テーマの一つとしたCSR活動に取り組んでいます。その一環として、2013年より小学生を対象に「未来のまち・夢のわが家」をテーマに子ども絵画コンテストを開催。今回は東京や広島からの応募もあり、応募総数は493点にのびりました。大人には想像がつかないような斬新な作品ばかりで、充実した取り組みとなりました。

参加者からは、「作品だけではなく作成の様子がビデオやパネルで展示されていて良かった」といった感想が寄せられています。



▲ 未来のまち・夢のわが家

## 神鋼造機(株) 岐阜県

● **地元ソフトボールクラブとの親睦バーベキュー大会を開催**  
行政や地域住民が支援する大垣ミナモソフトボールクラブに対し、2014年度より支援を始めました。

2014年5月24日には、選手・スタッフと当社関係者との交流を図る目的で、工場の屋外広場で約50名が参加して親睦バーベキュー大会を開催。クラブ関係者との間で一体感を育むきっかけとなりました。



▲ 地域の活力をバットにのせて

## 神鋼商事(株) 兵庫県

● **暑中見舞い・年賀はがきを神戸市内の小学校へ寄贈**

神戸市内の小学校に対し、2014年7月には暑中見舞いはがき3,000枚を、2014年12月には年賀はがき3,420枚を寄贈しました。昨今パソコンやスマートフォンの普及により文字を書く機会が激減しています。そういった中、はがきを書くという

## 神鋼ケアライフ(株) 兵庫県

● **ゆるやかな地域見守り支援の輪 バラ公園ネットワーク**

岡本・西岡本にお住まいの高齢者や認知症の方を、岡本バラ公園の近くに住む専門職や住民で見守るしくみ「バラ公園ネットワーク」をつくって、2015年で6年目を迎えました。

当初より開催は2~3か月に1回。情報交換・情報発信を行い、メンバーも31名に増えました。

今年度は、バラ公園ネットワークで培った経験を活かして、「自助・互助・近所」をテーマに、地域の介護予防や認知症支援の新しいネットワーク作りに職員一同注力しています。



▲ メンバーの皆さん

体験を通じて、児童に書く喜び・伝えあう喜びを感じてもらい、「手紙」の風習・文化に慣れ親しんでもらうことを目的とする活動に賛同しました。

## 近隣清掃活動

近隣の清掃活動は、地域社会に貢献するための身近な取り組みです。その活動は、事業所周辺だけでなく、街中や自然環境にまで広がっています。

### 九州支店 福岡県

● **毎月、グリーンデーに博多駅前の清掃活動を実施**

2008年4月に発足した「博多まちづくり推進協議会」が主催する博多駅前の清掃活動は7年間にわたり継続し、今では企業や地元の住民団体など約200名が参加する地域の恒例行事として定着しています。九州支店は、毎月第3木曜日をグリーンデーと定め、従業員有志がこの清掃活動に参加しています。



▲ 博多駅周辺が綺麗になると気持ちがいい

### 神鋼物流(株) 兵庫県

● **歩道・グリーンベルトの清掃活動**

関西物流センター尼崎業務室では、毎週月曜日、従業員有志10名程度が集まり、事業所周辺の歩道・グリーンベルトの清掃活動を実施しています。

この活動は、事業所の周辺で吸い殻のポイ捨てやゴミ投棄が多く、美観が損なわれがちであったことから、2008年にスタートしました。



▲ 地域の一員として

### コベルコ シンワ(株) 兵庫県

● **12年続く、事業所周辺の水路の清掃活動**

2003年に事業所を現在の久保へ移転した際、地域への貢献活動として清掃活動を行うことにしました。以来12年間にわたり、平日は毎日、久保事業所周辺の水路の清掃活動を行っています。



▲ 周辺の住民に喜ばれている

### コベルコ マテリアル銅管(株) 神奈川県

● **工場周辺のゴミ拾いと緑化活動**

秦野工場では、週1回のペースで、早朝の30分を工場周辺の清掃や除草などの緑化活動にあてています。この活動は、総務室、資材室、企画部の有志が集まり、10年以上にわたって継続中です。



▲ 地域に愛される工場を目指して

## 沖縄支店 沖縄県

### ● 一日にゴミ2個を拾うニコニコ運動、拡散中

支店の従業員が、加入しているSNSの「沖縄観光の未来を考える会」活動の一環で、地域の清掃活動を推進しています。毎月22日、主に会社周辺で一日にゴミを2個以上拾う活動を「ニコニコ運動」と命名。活動はすでに2年目を迎えました。

SNSを活用し活動を披露しあいながら、今では30名程度が参加しています。



▲ 自宅から会社までのゴミゼロ目指して

## コベルコクレーン(株) 兵庫県

### ● 事業所周辺の清掃活動

大久保事業所では、毎月1回、従業員約20名が事業所周辺の清掃活動を行っています。この活動は、事業所構外周辺でゴミのポイ捨てが散見されるようになったことをきっかけに、地域貢献の一環として美化活動に取り組むことになったもので、2012年にスタート。毎月、事業所の各部から清掃担当部署を割当てし、人事総務部安全環境室の主導のもとゴミ拾いなどを実施しています。



▲ 美しい大久保地区を目指して

## 体験学習

事業所近隣の小中学校への出張授業やスポーツ指導にも力を入れています。ものづくりで培ったスキルや知恵を、次世代に引き継いでいきたいと思っています。

## 神鋼溶接サービス(株) 神奈川県

### ● 全国大会出場を目指し、バレーボールを指導

指導者を派遣するなどして藤沢市バレーボール協会を支援しています。初心者や愛好者などに、週2回のペースでバレーボールの指導を行っており、青年全国大会での優勝も経験しています。



▲ 青年全国大会でみごと優勝

## 関西熱化学(株) 兵庫県

### ● 近隣小学校でものづくり教室を開催

日本の未来を担っていく子どもたちに、ものづくりの楽しさと素晴らしさを体感してもらうために、従業員が講師となってものづくり教室を開催しています。年2回の開催で、2005年から10年間継続。2014年度は尼崎の明城小学校、加古川の別府西小学校で開催し、好評を得ました。



▲ 熱心に取り組む子どもたち

## 環境活動を通じた貢献(KOBELCO GREEN PROJECT)

神戸製鋼グループは、環境の側面からも社会との共生・協調を目指しています。2013年度からは、KOBELCO GREEN PROJECTとして、さまざまな環境貢献活動をグループ全体で推進。グループ従業員による森林整備活動、子どもたちの環境への思いを育む「KOBELCO森の童話大賞」や、児童館への出前エコ教室などを行っています。

### 森林整備活動

神戸製鋼グループは、2011年秋から、従業員のボランティアによる「森林整備活動」を推進しています。

兵庫県内では、「KOBELCOの森」(三木市)、「ECOWAYの森」(神戸市灘区)の2カ所ですべて春と夏の2回、森林整備活動を行っています。定期的な整備活動により、森は着実に明るさを取り戻しています。

茨木工場では、2014年度より茨木市銭原地区において神戸



▲ 茨木市銭原での里山・農地保全活動

製鋼所労働組合溶接支部と合同で里山・農地の保全活動を開始しました。同工場の社員やその家族ら延べ約300名が、ヒノキの間伐や広葉樹林の下草刈などの森林保全、遊休農地での野菜の栽培・収穫などの農地保全活動を定期的実施しています。

### 活動から1年を経過して

銭原自治会 会長 押田 博孝さん



森林と農地の保全と一緒に取り入れた活動は府内で初めての取り組みとのことで、当初不安もありました。行政の方とも協力しながら、従業員の家族と野菜の植え付けや収穫、森林の間伐・除草など楽しく活動ができ、私たちも大変うれしく思っています。

銭原地区は少子・高齢化が進み、地区住民だけで農村景観を守るのは難しくなっていますが、今後もこの活動を発展させ、共にのどかな里山景観を残していければと考えています。

## 第2回 KOBELCO森の童話大賞

さまざまな自然の恵みをもたらす森を大切にしたい気持ち、次代を担う子どもたちに育んでもらいたい。そんな思いから、神戸製鋼グループでは森をテーマにしたおはなしを募集する「KOBELCO森の童話大賞」を2013年度より展開しています。金賞作品については絵本作家の永田萌さん・Rokoさんによる挿絵をつけた絵本とし、地域の学校・公立図書館などに寄贈しています。

2014年度の第2回は、応募総数438件(小学生の部172件、中高生の部266件)の中から、国丸明梨さんの「森のバースデーリース」(小学生の部)と五十嵐深月さんの「森とおばあさん」(中高生の部)が金賞を受賞しました。

また、神戸製鋼では、おはなしづくりのきっかけにできればと、NPOが主催する子どもたちが森や自然とふれあう体験イベントへの支援も行っています。



### 金賞受賞者の声

#### 小学生の部

##### 「森のバースデーリース」

国丸 明梨さん(小学5年生 兵庫県神戸市)写真右

「小さい時から絵本を書くことが好きでした。作家の先生に絵を描いてもらって本になることが、とてもうれしいです。物語や絵からも、森や自然にふれてほしいと思います。」

#### 中高生の部

##### 「森とおばあさん」

五十嵐 深月さん(中学3年生 兵庫県姫路市)写真左

「自分が将来、こんなおばあさんになれたらと思い、楽しんで書きました。それが金賞に選ばれて、とてもうれしく思います。この本をきっかけに、森に興味を持つ人が増えればいいですね。」



▲ 第2回 金賞作品絵本



▲ 絵本贈呈式(神戸市教育委員会 雪村教育長・写真左)



▲ 森とふれあうイベント(KOBELCOの森)

「体験」を通じ、こころ豊かで自立した子どもを育てます。



兵庫県教育委員会 事務局  
義務教育課 課長

西田 健次郎  
さん

兵庫県では「兵庫が育む こころ豊かで自立した人づくり」の基本理念のもと、子どもたちの発達の段階に応じた体系的な兵庫型「体験教育」を推進し、自然や社会、芸術文化にふれる「本物に出会う感動体験」や、地域の人々との関わりを通じた「絆に気づき、感謝する体験」、「ふるさと意識の醸成を図る体験」などに取り組んでいます。

「KOBELCO森の童話大賞」を通じ、次代を担う子どもたちが自然や環境について考え、豊かな心が育まれるよう願っています。

審査員長のコメント



審査員長

永田 萌  
さん

「KOBELCO森の童話大賞」の審査員を務めるようになり、私自身も森の大切さを学ぶ機会を得ていることにとっても感謝しています。

過去において人間の手は開発の名のもとに多くの自然の森を地球上から消し去りましたが、現代はその反省もこめて、人間の手だけがなし得る方法で自然環境を守ろうとしています。応募作品はこうした知識の上に魅力的な創作童話を作り上げた秀作が多く、審査員としても挿絵を担当する画家としても毎回、感嘆しています。完成した絵本が多くの方に届き、この事業が広く賛同を得ていることも嬉しいです。改めて事務局はじめ関係者の皆様に敬意を表します。

## 児童館出前エコ教室

神戸製鋼は、地域の環境貢献活動の一環として、神戸市が主催する「神戸子どもエコチャレンジ21倶楽部」に参画しています。子どもたちが、楽しみながら、体を動かしながら環境の大切さを学ぶことを目的に、2011年より「児童館出前エコ教室」を展開しています。

この活動は、神戸市内の児童館を訪れ、鉄と電気をテーマにした環境教育を行うもので、サイエンスショーやクイズ大会、エコカルタなど遊びを通じて、環境や電気の大切さ、鉄の便利さを学びます。2014年度は3カ所の児童館で開催し、約100名の子どもたちが参加しました。



▲ エコカルタで遊ぶ児童たち(白川台児童館)

## 海外での社会貢献

グローバルに展開する神戸製鋼グループの事業所は、世界各地で、その国・地域の一員として、現地社会に貢献しています。

### Kobe Precision Technology Sdn. Bhd. マレーシア

#### ● 洪水被災地での洗浄清掃活動をサポート

コーベ・プレシジョン・テクノロジー社は、2014年末よりマレーシア各地で頻発している豪雨による洪水被害で、特に被害の大きかった2地区でボランティア活動を展開しています。2015年1月には、被害にあった施設などに出向き、施設内の洗浄清掃（泥かき、家具などの洗浄や片付け）を中心に支援活動を行いました。

洪水の被害を受けた方々の中には従業員の家族もあり、支援活動を通して被災者の負担を少しでも軽減できればと願っています。



▲ 学校での洗浄清掃活動

### 神鋼特殊鋼線(平湖)有限公司 中国

#### ● 安全衛生活動を会社周辺にも展開

神鋼特殊鋼線(平湖)は、事務所スタッフ約30名が、積極的に取り組んでいる安全衛生活動の一環として、隔週で事業所周辺の清掃を実施しています。

2011年から4年にわたって継続しており、地域社会への貢献活動として今後も続けていく予定です。

また、今後は開発区や市政府が主催するボランティア活動などへの参加を検討しています。



▲ 事務所周辺の芝生を美しく

### Kobe CH Wire (Thailand) Co., Ltd. タイ

#### ● サポートを必要とする学校に、社内外より集めた寄付を贈呈

KCH社は、社内の福利厚生委員会を中心とした従業員有志により、年に一度社内外から寄付（スポーツ用品や文房具、寄付金など）を集め、郊外の学校に寄贈しています。2009年の会社設立10年を契機に、従業員が自発的に始めた活動が6年目を迎えました。2014年9月11日には、アユタヤ県ワットスリーパワン学校に赴いて各種物品を寄贈しました。

KCH社のボランティア活動は、国内の恵まれない子どもたちの健全な発育を手助けしようとするものです。寄贈対象の学校は、福利厚生委員会のメンバーがネットなどの情報をもとに、実際に現地を訪問した上で選定しています。



▲ 文房具を受け取る子どもたち

### Kobelco & Materials Copper Tube (Thailand) Co., Ltd. タイ

#### ● 都会から遠く離れた地域の子どもたちへ支援活動を実施

教育や娯楽の機会が少ない田舎や山間部の子どもたちを対象に、コベルコ マテリアル・銅チューブ・タイランド社が、支援を開始しました。従業員が学校を訪れて、清掃や修繕を行い、また、一緒にバレーやサッカーなどのスポーツやレクリエーションに興じたり、お菓子や文具、おもちゃなどを贈呈したりするなどの活動を行っています。

同時に、製造工程や環境保全への取り組みを伝える場として工場見学も実施しています。



▲ プレゼントの品を前に記念撮影

# 社員が働きやすい職場環境

神戸製鋼は、社員の人格・個性・多様性を尊重し、活力あふれた魅力ある職場環境を実現していくために、仕事と生活の両立支援や女性の活躍推進などを図る各種の人事制度や、人材育成制度を展開しています。また、社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊ぶという神戸製鋼グループの企業理念を実現するために、グループ各社とさまざまな形で連携を強めています。

## 人権尊重の取り組み

神戸製鋼は、差別のない健全な職場環境の確保に取り組んでいます。

管理職や新入社員を対象とする全社階層別研修では、当社の「企業倫理綱領」に定めた人権に関する倫理規範や行動基準を周知すると共に、企業活動において人権を尊重し、差別のない健全な職場環境づくりの重要性に関する教育を行っています。

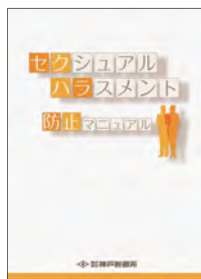
また「社員のための行動手引き」を全従業員に配布し、一人ひとりに人権を尊重して行動することをうながすと共に、各事業所での研修を通じて人権意識の向上を図り、人権問題の未然防止に努めています。

## ハラスメント防止の取り組み

神戸製鋼は、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為を容認しません。問題発生時には、迅速かつ断固たる処置をとります。

当社は、「企業倫理綱領」にハラスメントに関する方針や行動基準を定めると共に、管理監督職に対して、ハラスメント防止をテーマとするe-ラーニングや教育研修を実施し、ハラスメントの起きにくい職場環境づくりに取り組んでいます。

また、職場の一人ひとりがハラスメントについて正しく理解し、問題を見逃すことのないよう、「セクシュアルハラスメント防止マニュアル」などのコンプライアンスマニュアルにより、この問題に関する意識啓発を行っています。また、セクハラ相談のための窓口を全事業所に設置し、窓口担当者には適切に相談に応じるための研修を行うなど、ハラスメントの未然防止や、発生時の早期解決に向けた取り組みを幅広く進めています。



▲セクシュアルハラスメント防止マニュアル

### 企業倫理綱領 企業行動基準

#### 3.人権の尊重とあらゆる差別的取扱いの禁止に関すること

当社は、人種、信条、肌の色、性別、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身地等の理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境を確保します。特に、性的嫌がらせ（セクシュアルハラスメント）やパワーハラスメントなどの職場におけるハラスメント行為について会社として容認しません。問題発生時には、迅速に調査し、被害者の救済と再発防止に向けた断固たる処置をとっていきます。

## ダイバーシティ推進

神戸製鋼は、取り巻く事業環境や社会の変化に柔軟に対応し、継続的な発展と成長を目指すためには、事業運営において多様性（ダイバーシティ）の観点が不可欠であり、ダイバーシティ推進は重要な経営課題の一つであると認識しています。

2014年10月には、この取り組みの強化を目的として人事労政部内にダイバーシティ推進室を新設しました。社員一人ひとりが持つ多様性を尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮し、いきいきと働く職場・会社づくりを目指します。

特に女性の活躍推進においては、採用における女性比率に対する数値目標を設け、より積極的な採用活動を展開します。若手総合職女性には将来にわたる活躍を後押しするような、独自のキャリアアッププランを実施するなど、女性活躍のためのさまざまな取り組みを行っています。

また、ダイバーシティ推進や女性の活躍推進には、男性を含めた会社全体で働き方の見直しが必要と考えており、長時間労働の削減、年次有給休暇の取得率向上や生産性向上などの取り組みを通じ、全従業員にとって「働きやすい職場環境づくり」にも取り組んでいきます。

### 〈主なダイバーシティ推進・女性活躍推進の制度と取り組み〉

- キャリア継続休職制度（配偶者の転勤などに伴う休職制度）
- 再雇用エントリー制度（結婚・育児・介護・配偶者転勤を理由とした退職者の再雇用制度）
- 育休からの早期復帰支援制度（最大60万円）
- ダイバーシティサポートネットの開設
- 早期の能力引き出し支援策（若手女性社員のキャリアアッププラン）
- メンター制度
- 女性社員交流会の開催
- 上位職向けダイバーシティ研修の実施
- 総実労働時間削減・年休取得向上の取り組み



▲女性社員交流会



●従業員の状況

(2015年3月31日現在)

	男性	女性	総計
従業員数	9,881	728	10,609
管理職	1,686	24	1,710
総合職	1,765	110	1,875
基幹職	6,132	544	6,676
医務職	0	15	15
嘱託・受入・出向	298	35	333
採用者数	448	34	482
新卒	295	13	308
キャリア	153	21	174
離職者数	427	25	452
停年/定年/転籍	304	14	318
自己都合	115	9	124
死亡	8	2	10

※採用者数及び離職者数は2014年度の実績

仕事と生活の両立支援

神戸製鋼は、仕事と生活の両立を図るための環境整備に積極的に取り組んでいます。これまでの取り組みが評価され、子育てを積極的にサポートする企業に与えられる次世代認定マーク(愛称『くるみん』)を2度(2012年、2015年)取得しました。



▲くるみんマーク

●次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の策定と実行

●育児・介護に関し法定を上回る制度の整備と拡充

また、女性社員のみならず男性社員も子育てに積極的に参加し、ワーク・ライフ・バランスの充実が図れるよう、社内制度の周知や定着活動も並行して進めています。



▲仕事と育児の両立支援ハンドブック

<主な子育て・介護支援制度と取り組み>

- 育児休業期間の延長(子が満3才に達するまで)
- 育児のための就業時間等配慮期間の拡大(子が小学生まで)
- 在宅勤務日制度(4日/月、妊婦・介護の子が小学生まで拡大)
- 介護休業期間の延長(最大3年間まで)
- 子の看護・家族の介護休暇の有給化
- 仕事と育児の両立支援ハンドブックの配布
- 育児・介護支援提携サービスの提供
- 福利厚生制度における育児メニューのポイント優遇
- 従業員家族の職場見学会

●育児休業取得の状況

	2012年度	2013年度	2014年度
育児休業取得者(内、男性取得者)	14(1)	24(0)	21(1)

※育児休業は、上記期間中に出生した女性社員全員が取得しています。また育児休業からの復職率は、復職見込みを含めると男女ともに100%です。(2015年5月現在)

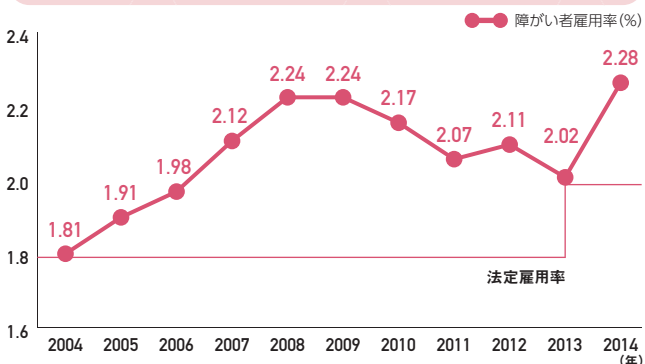
障がい者雇用への取り組み

神戸製鋼グループは、障がい者雇用を積極的に推進すると共に、個々人が持てる能力を十分に発揮でき、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

神戸製鋼では、通年採用を実施し、地元のハローワークや障がい者職業能力開発校との連携、合同就職面接会への参加、近隣の学校訪問など障がい者雇用の拡大に取り組んでいます。

2014年6月1日時点の神戸製鋼の障がい者雇用率は2.28%と法定雇用率(2.0%)を上回っておりますが、引き続き雇用率アップに向けた取り組みを継続していきます。

障がい者雇用率推移(神戸製鋼)



高齢者雇用への取り組み

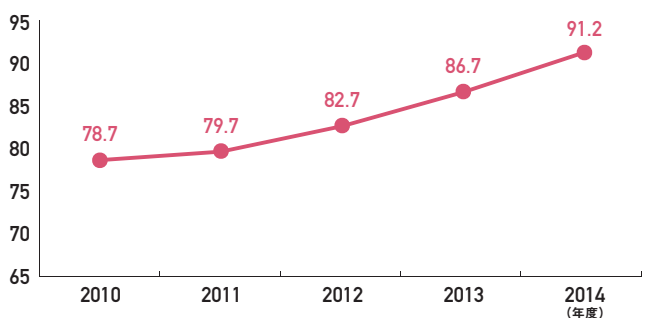
神戸製鋼は、停年退職後の再雇用制度として「熟練社員再雇用制度」を導入しています。グループ会社などでの再雇用者を含め、ベテラン層の有する技術・技能を引き続き活用することで、技能継承の円滑な推進や本人の働き甲斐の実感を通じて、職場活力の維持・向上を図っています。

現在では、停年退職者に占める再雇用者の割合も90%を越え、ほとんどの従業員が60歳の停年退職後も業務に従事している状況にあります。

労務構成の若返りも進む中、こうしたベテラン従業員の技能・技術力の発揮が当社の「ものづくり」を支えていると共に、それを後進に伝承していくことにより、明日の当社の「ものづくり力の礎」となっております。

また、グループ会社においても、同様の取り組みを進めています。

停年退職者に占める再雇用者の割合推移(神戸製鋼)



## 安全衛生管理

### 安全衛生管理方針

「安全衛生は事業経営の基盤であり、全ての事業活動に優先する」という理念のもと、安全で安心して働くことのできる、活気あふれた職場の実現に向け、さまざまな安全衛生活動を行っています。

#### 安全衛生管理計画で目指す姿

法令・社内ルールを正しく理解し、それを確実に遵守できる組織・体質を作り上げる。

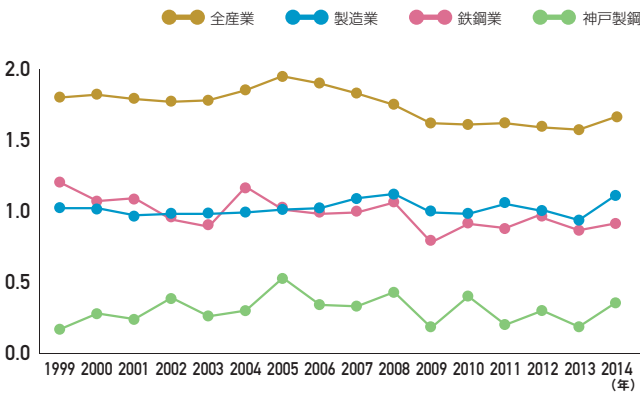
生産・品質・人・組織・環境などに応じた“変化”を見逃すことなく速やかに対応する。

自らはもとより、職場の中間の安全を守り、健康を気遣う風土をつくる。

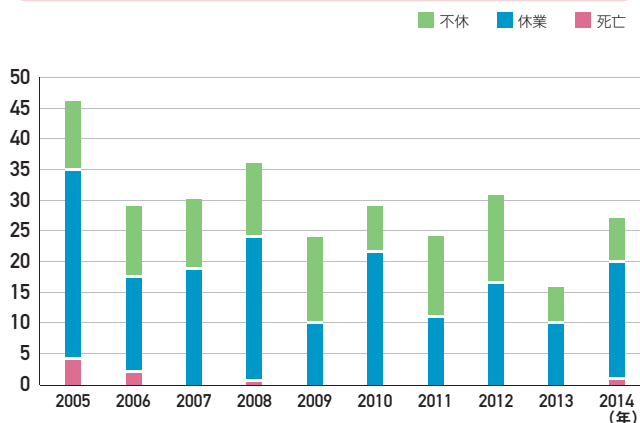
### 安全管理

神戸製鋼は、中長期的な視点で継続して労働災害防止に取り組んできた結果、労働災害は減少し、度数率も低位で推移してきましたが、2014年度は2008年以来となる死亡災害が発生しました。2015年度はその再発防止はもとより、従業員の生命と健康を守ることが企業の社会的責任を果たす上で大前提となるという認識のもと、神鋼グループ・協力会社一体となって人・設備・管理の観点からさらなる安全レベル向上を図っていきます。

#### 休業災害度数率推移



#### 死傷者数推移



### 衛生管理

#### ● 初の「健康経営銘柄」に選定

神戸製鋼は、2014年3月25日に日本再興戦略に位置付けられた「国民の健康寿命の延伸」に対する取り組みの一つである、経済産業省が東京証券取引所と共同で選定する「健康経営銘柄」に選定されました。

「健康経営銘柄」は、経済産業省が東京証券取引所と共同で、従業員の健康管理を経営的な視点から考え、戦略的に取り組んでいる企業を選定するもので、長期的な視点からの企業価値の向上を重視する投資家にとって魅力ある企業として紹介されました。

今回、全国から初めて22社の企業が選定されましたが、当社がその1社として選ばれました。



#### ● 疾病予防への活動強化

神戸製鋼では、基本理念に基づき、健康管理を進めていく上で、「疾病の早期発見・早期対応」「生活習慣の改善(予防)」が重要との認識にたち、『こころ』と『からだ』の両面の管理体制を充実し、“予防”への活動展開を一層強化して取り組むことにしています。

##### (1) 作業関連疾病予防対策の徹底

(14年度:新規職業性発症者数:ゼロ)

##### (2) 疾病の早期発見・早期対応

###### ① 全額会社負担による1日人間ドックの受診

(コベルコメディカルチェック50)

- ・50歳を一つの区切りとして自身の健康状態を把握し、健康管理の意識づけを高めるための取り組みとして、50歳に到達した全従業員を対象にした1日人間ドックの実施
- ・50歳時に夫婦で健康意識を高めてもらう取り組みとして、「夫婦健康チェック50」と名付けた人間ドックのオプション項目(腫瘍マーカー、脳血管疾患など)への費用補助

###### ② ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)への早期対応

(「脳・心臓疾患」、「新生物」等の発症との因果関係が高いといわれるハイリスク肥満の早期対応)

- ・35歳から法的に義務付けられる健康診断の血液検査を20歳、25歳、30歳という節目年齢にも実施し、若年時よりの発見と対応に留意
- ・有所見の従業員への産業医、保健師による保健指導の充実強化

###### ③ がん検診の充実(全額健保負担)

- ・35歳以上を対象に内視鏡を用いた「胃がん検診」「大腸がん検診」の実施
- ・全女性従業員を対象に「子宮がん検診」や「乳がん検診」の実施

###### ④ カウンセリング受診の充実(精神疾患の予防措置)

- ・全事業所にカウンセラーを配置し、社内での異動や昇進昇格時といった業務上の変化に対応したカウンセリング受診、不調者のケア、階層別教育を積極的に実施

##### (3) 生活習慣改善に向けた取り組み(予防対策・健康意識の高揚)

- ・ハイリスク肥満(メタボリックシンドローム)の原因となる食生活、飲酒、運動などの生活習慣が一人ひとり異なるため、以下の支援策の実施
- ・「運動」「禁煙」「減量」などに一定期間取り組む「健康チャレンジ活動」の展開。目標達成者への褒賞を実施

神戸製鋼は、安全で安心して働くことのできる、活気あふれた職場環境の実現に向け、安全衛生活動に取り組んでいきます。

# 人材育成

## ものづくり力を支える人材育成・技能継承活動、QCサークル活動

### 人材育成方針

神戸製鋼は、社員が仕事への誇りと働き甲斐を持つことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、日々成長していくことが重要です。社員自らのたゆみなき研鑽による成長を会社は全面的に支援します。

また、社員一人ひとりが多種多様な価値観を共有し、誇りと意欲を持って日々の仕事をやり遂げることを目指し、「神戸製鋼のあるべき人材像」を以下のとおり定めています。

『私たちは、グローバルに展開するKOBELCOの信頼に貢献する人材でありたいと日々努力します。』

- 【誠実】 事実を真摯に受け止め、誠意を持って行動する人材
- 【協働】 自分の考えを発信し、相手の意見を受信し、切磋琢磨しながら取り組む人材
- 【変革】 現状に満足せず、常に挑戦し変革を目指す人材

### ● 製造現場のものづくり力を支える人材育成

神戸製鋼の技能系社員には、入社後5年間必修の技能教育に加え、技能検定等の資格取得支援や、産業技術短期大学への派遣等を通じ、若手技能者の育成を積極的に進めています。

また、現場監督者層の「マネジメント能力」向上のための監督職任命教育も本社および各事業所において実施しています。その他、品質、生産の管理教育はもちろん、その根底となる安全、環境、コンプライアンス、人権など、管理監督者の職責としての知識に関する教育も充実させています。

### ● 基幹職技能系教育体系図

資格・役職	階層別教育	産短大派遣
係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>新任係長フォロー教育</li> <li>係長任命教育</li> </ul>	産業技術短期大学への派遣
職長	<ul style="list-style-type: none"> <li>新任職長フォロー教育</li> <li>職長任命教育</li> </ul>	
班長	<ul style="list-style-type: none"> <li>新任班長教育</li> </ul>	
リーダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダー育成教育</li> </ul>	
基幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹社員教育</li> </ul>	
入社	<ul style="list-style-type: none"> <li>職種別技能教育 (オペレータ職・保全整備職・加工職 組立職・溶接職・検査分析職)</li> <li>共通技能教育</li> </ul>	

### ● 「技能継承」活動

グループ各工場では、実務を通じた教育訓練(OJT)に加え、「技能道場」と呼ぶ教育訓練場などを活用した教育訓練(OFF-JT)を通して若手のレベルアップを図ると共に、誰がど

のような技能をどのレベルで保有しているかを示す技能マップを用いて計画的な技能継承を進めています。こうした各工場における技能継承活動と、全社教育によって若手技能系社員の技術、技能力向上を図っています。

### ● QCサークル活動

神戸製鋼グループでは、ものづくり力がグローバルな競争の源泉になるという考えの下、現場の改善活動(QCサークル活動)を積極的に推進しています。

特に、年に1回、「KOBELCO QCサークル大会」を開催し、神戸製鋼グループ全体の横串をととした情報共有や啓発を図り、活動レベルの底上げを目指しています。



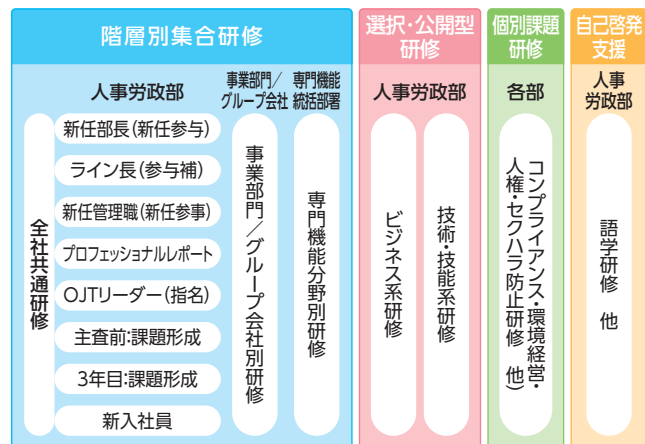
▲KOBELCO QCサークル大会

### キャリア開発・能力開発支援

従業員のキャリア形成のため、上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を、男女問わず管理職、総合職、基幹職全員に設けています。これをもとに、本人の希望と事業上の必要性を勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションを実施しています。また、自律的なキャリア形成を促進するための人材公募制度も導入しています。

社員の能力開発支援として、OJT教育を補完するためのオフライン研修の充実にも重点を置いています。最近では、選択型研修の拡充や若手社員の基礎教育の強化、中堅社員の課題解決力、専門性や語学力の向上を目指した取り組みに力を入れています。

### ● 研修体系図



社員の自己啓発を支援するしくみでは、語学習得のための通信教育の受講料を会社が支援する制度があります。また、カフェテリアプラン(選択型福利厚生制度)では、資格取得費用や書籍購入費、外部の教育機関への通学費用を会社が補助するメニューがあります。

# 防災の取り組み

神戸製鋼グループは、グループを挙げて法令の遵守や設備事故対策、自然災害への備えに努めています。災害時における防災体制の整備、防災訓練などを継続的に実施し、事故の未然防止や災害時の被害の最小化に積極的に取り組んでいます。今後とも従業員一人ひとりの防災意識を高め、グループ全体で防災活動を進めていきます。

## 2014年度 全社防災管理方針

1 設備事故の防止

2 自然災害への備え強化

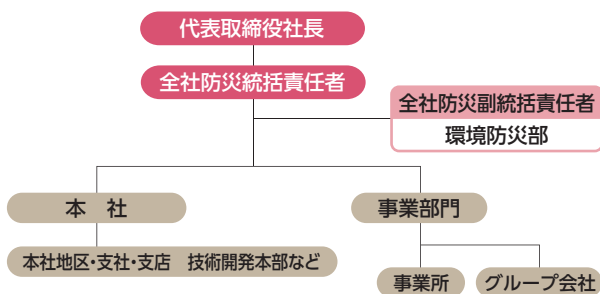
3 法令の遵守

「人命の尊重、企業活動の継続、地域の安心の実現」

### 全社防災管理体制

神戸製鋼グループは、社長、全社防災統括責任者のもと、本社、事業部門、事業所、グループ会社それぞれにおいて、防災管理活動を推進しています。

#### 全社防災管理体制



### 神戸製鋼グループ防災会議

神戸製鋼グループは、防災情報の共有化、災害防止の取り組み強化を目的に、毎年「神戸製鋼グループ防災会議」を開催しています。2014年度は、グループ会社54社を含め130名が参加しました。大規模地震に関する全社事業継続計画（BCP）、津波対応、緊急地震速報、集中豪雨対応などの自然災害対策に加え、他社の事象例などの報告を行いました。

参加者は、改めて自然災害リスクを認識し、対策の必要性を確認しました。



▲ 神戸製鋼グループ防災会議

### 災害時の対応体制

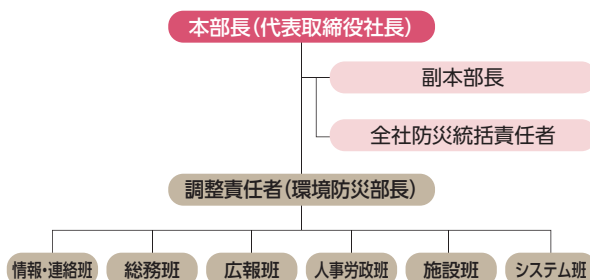
大規模な地震などの緊急時には、東京本社または神戸本社に災害総合対策本部を設置し、救援や復旧などにあたります。

東日本大震災の際は、安否状況の確認や被災事業所を支援する本部を東京本社に設置し、支援物資の手配・輸送など、早期の事業再開をサポートしました。

2015年3月16日には、首都直下地震が発生したという想定で、災害総合対策本部設置訓練を実施しました。今回の訓練では、地震発生直後の初動対応に重点を置きました。

今後も、緊急時によりスムーズに対応できるように、教育・訓練などを継続して行います。

#### 災害総合対策本部組織図



▲ 災害総合対策本部設置訓練

## 事業所の防災対策

神戸製鋼グループは、火災などの事故の未然防止に努めてきましたが、2014年度も火災の発生をなくすことはできませんでした。それぞれについて原因究明を行い、対策を講じています。

今後も、類似事故を含めた再発防止の徹底、社内外の事故情報の共有化、業界団体の自主行動計画と連携した特別活動、災害発生リスクを低減する取り組みなど、グループ全体で事故防止に努めていきます。

### 2014年度の社内各事業所の設備事故発生件数

事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数	事業所名	件数
神戸製鉄所	1	茨木工場	0	真岡製造所	0	播磨工場	0
加古川製鉄所	2	西条工場	0	長府製造所	0	神戸総合技術研究所	0
藤沢事業所*	0	福知山工場	0	大安工場	0	高砂製作所	1

\*藤沢事業所は、生産センター藤沢工場、技術センター、グループ会社拠点の総称

### 2014年度の設備事故

日時・場所	内容
2014年4月 神戸製鉄所	製鋼工場成分調整炉の副生品ピットにて、たまり水に高温物が接触して水蒸気破裂が発生し建屋屋根に引火。
2014年5月 加古川製鉄所	圧延工場の変圧器の故障により、変電所の電源スイッチが損傷し、停電が発生。
2014年6月 加古川製鉄所	空気分離装置の関連工事試運転時、酸素が窒素ラインに混入し、圧延工場焼鈍炉雰囲気ガスと反応し、軸受カバーの一部を焼損。
2015年2月 高砂製作所	鍛造工場焼入槽から油が漏洩し、加熱炉の輻射熱により発火。

## 事業所における防災活動

### 定期的な防災訓練の実施

神戸製鋼グループは、各事業所において定期的な防災訓練を実施しています。

真岡製造所では、地震はいつ発生するかわからないという考えのもと、平日および土日祝日を想定した地震防災訓練をそれぞれ実施しています。2014年度の土日祝日を想定した訓練では、一次避難場所および二次避難場所への避難、情報収集・伝達、負傷者救護、事業所の暫定対策本部設置などを行いました。

また、神戸製鋼では地震による被害を最小化するための対策として、全生産拠点・本社・支社・支店に対して緊急地震速報を配備しています。

従業員の命を守ると共に、周りへの被害を最小限に抑えるため、今後もハード・ソフト両面の対応を強化していきます。



▲ 負傷者救護訓練の様子(真岡製造所)

### 防災確認調査

防災関係法令遵守の確認や設備事故につながるリスク低減を目的に、神戸製鋼の管理部門による事業所の現地防災確認調査を実施しています。

2014年度も引き続き、社内事業所・グループ会社の防災確認調査を実施しました。その結果、重大な法令違反はありませんでしたが、設備の管理面などの不備を是正しました。

今後も神戸製鋼グループ全体の防災管理体制の強化を図っていきます。



▲ 防災確認調査(神鋼メタルプロダクツ(株))

## 地域・社会の皆様から信頼・安心される企業グループを目指し、防災活動に取り組んでいきます。

全社防災統括責任者(執行役員) **山本 浩司**

神戸製鋼グループでは、「設備事故の防止」、「自然災害の備え強化」、「防災関連法令の遵守」を3つの基本方針として、防災管理活動を推進しています。

2014年度は、社内外の事故事例を参考に、災害発生リスクを低減する取り組みを行い、防災力向上に努めてきました。

また、自然災害への備えとして、大規模地震に関する事業継続計画(BCP)や津波対応指針の策定など、防災・減災の取り組みを行ってまいりました。

阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年が経過しました。震災から得た教訓を忘れることなく、今後も一つひとつの活動を確実にを行い、地域・社会の皆様から信頼・安心される災害に強い企業グループを目指してまいります。



# 各事業所の 環境保全への取り組み

神戸製鋼の全事業所および主なグループ会社の事業所における環境保全の取り組みについて、各事業所の責任者よりご報告します。  
一つひとつの現場が常にチャレンジし、  
新たな努力を積み重ねることで、  
神戸製鋼グループの環境保全活動は進歩していきます。

## 1 事業所名・グループ会社名

所在地

TEL

FAX

主要製品

事業所長・環境責任者からのコメント



氏名

### 神戸製鋼の事業所

### グループ会社

#### 鉄鋼事業部門

- 1 加古川製鉄所
- 2 神戸製鉄所
- 3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場
- 4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所
- 5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所
- 6 神鋼特殊鋼管株式会社 本社・下関事業所
- 7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場
- 8 株式会社セラテック 本社・明石工場
- 9 株式会社セラテック 備前工場
- 10 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所
- 11 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所
- 12 関西熱化学株式会社 加古川工場
- 13 神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所
- 14 日本エアロフォーシ株式会社 本社工場

#### アルミ・銅事業部門

- 21 真岡製造所
- 22 長府製造所
- 23 大安工場
- 24 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社・工場
- 25 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場
- 26 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場
- 27 神鋼リードミック株式会社 本社・工場
- 28 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

#### 機械事業部門

- 29 播磨工場
- 30 神鋼造機株式会社 本社

#### 溶接事業部門

- 15 藤沢事業所
- 16 茨木工場
- 17 西条工場
- 18 福知山工場
- 19 神鋼アクテック株式会社 日高工場
- 20 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

#### 本社部門・その他

- 31 高砂製作所
- 32 神戸総合技術研究所
- 33 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部
- 34 コベルコ建機株式会社 広島事業所
- 35 コベルコ建機株式会社 大垣事業所
- 36 コベルコクレーン株式会社 大久保事業所
- 37 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)
- 38 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所
- 39 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所
- 40 神鋼機器工業株式会社 本社




### 1 加古川製鉄所

**所在地** 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町1  
**T E L** 079-436-1111 **F A X** 079-436-1400

**主要製品** 厚板、熱延鋼板、冷延鋼板、表面処理鋼板、線材

「安全・環境・防災」は生産基盤であり、より強固なものとするよう所員一丸となって取り組んでいます。社会環境や事業環境の変化に対応し、省エネルギーの追求、廃棄物の削減に注力するとともに、高品質な特徴ある製品の提供を通じて社会に貢献するよう取り組んでいます。引き続き、環境負荷低減活動や各種コミュニケーションを通じて地域の皆様との共生を図ってまいります。




所長  
柴田 耕一朗

### 2 神戸製鉄所

**所在地** 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2  
**T E L** 078-882-8030 **F A X** 078-882-8290

**主要製品** 線材、棒鋼

神戸に生まれ育った都市に近い製鉄所として、常に地域との共生を意識して環境保全活動に取り組んでいます。人材育成により環境・防災に強い組織をつくり、安全で安心していただける製鉄所を目指しています。




所長  
宮崎 庄司

### 3 神鋼建材工業株式会社 本社・工場

**所在地** 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地  
**T E L** 06-6418-2621 **F A X** 06-6418-6701

**主要製品** ガードフェンス、高欄、グレーチング、アンチスリップ鋼板、アルミ道路資材

2008年よりEMS（環境マネジメントシステム）の「エコアクション21」認証を受け、2012年には全支店・営業所に活動を広げて全社一丸となって取り組んでいます。今後ともこの活動を通じて、環境負荷の低減、安全・安心・快適な国づくりに貢献してまいります。




製造副本部長  
梶原 政徳

### 4 神鋼鋼線工業株式会社 尼崎事業所

**所在地** 〒660-0091 兵庫県尼崎市中浜町10番地1  
**T E L** 06-6411-1071 **F A X** 06-6411-9644

**主要製品** PC鋼材、PC鋼材加工品、めっき鋼線、ばね用鋼線

当所は工場に本社・開発・各営業支店も加え、各職場で省エネルギー活動などを展開しています。具体的な削減対象を数値目標として挙げ、毎月フォローしています。2年連続の電力料金大幅値上げに対し、高効率や省エネルギータイプへの更新を順次進める予定です。




所長  
橋本 力男

### 5 神鋼鋼線工業株式会社 ロープ事業部 尾上事業所

**所在地** 〒675-0027 兵庫県加古川市尾上町今福128番地  
**T E L** 079-424-2681 **F A X** 079-424-2686

**主要製品** 一般ワイヤーロープ、特殊ワイヤーロープ、ロープ加工品、その他線材二次製品

省エネルギー・省資源を社とした環境改善活動の中で、2014年度は歩留り・品質向上活動に加え、事業所内の5S活動にも注力し、環境負荷低減に取り組んでいます。2015年度はこれまでの活動をより一層推し進め、環境保全に貢献する事業所を目指します。




所長  
前田 眞一

### 6 神鋼特殊鋼管株式会社 本社・下関事業所

**所在地** 〒752-0953 山口県下関市長府港町13-1  
**T E L** 083-246-3781 **F A X** 083-245-1092

**主要製品** 継目無ステンレス鋼管、精密細管、特殊管、チタン管

当社は持続可能な発展を目的として資源の効率的な使用・省エネルギーの推進を環境目標に定め、14年度はエネルギー単位の低減を図り効果を上げています。今後も継続的な改善活動に取り組む所存です。




取締役  
廣田 晃一

### 7 神鋼ボルト株式会社 本社・工場

**所在地** 〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17番地  
**T E L** 047-328-6551 **F A X** 047-328-6558

**主要製品** 高力ボルト（トルコン、ハイテン）

2007年の「エコアクション21」認証取得後、引き続き工場、営業所一体の活動を展開しております。社員有志の提案を取り入れ、産業廃棄物の削減のための圧縮装置を自社で製作し、環境負荷削減に一丸で取り組んでいます。




製造部長  
三谷 芳弘

### 8 株式会社セラテック 本社・明石工場

**所在地** 〒673-0037 兵庫県明石市貴崎5丁目11番70号  
**T E L** 078-923-8678 **F A X** 078-923-8397

**主要製品** 耐火レンガ、各種不定形耐火物

省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の使用低減を中心に各職場で「エコアクション21」活動を実施しています。特に省電力、ピーク電力低減に積極的に取り組んでいます。今後も環境負荷低減、地域社会の環境保全を目的に継続的な改善に努めてまいります。




工場長  
多田 秀徳

### 9 株式会社セラテック 備前工場

**所在地** 〒705-0033 岡山県備前市穂浪2835番地の7  
**T E L** 0869-67-0011 **F A X** 0869-67-1346

**主要製品** 耐火レンガ、各種不定形耐火物

「エコアクション21」活動を始めて7年が経過しました。この間に省エネルギー・CO<sub>2</sub>削減・節水では大きな成果を上げることができました。今後は環境負荷低減・生活環境保全のために、産業廃棄物並びに有害物質の削減にも積極的かつ継続的に取り組む所存です。




工場長  
中野 豊

### 10 株式会社テザックワイヤロープ 本社・二色浜製造所

**所在地** 〒597-8501 大阪府貝塚市二色中町11番1  
**T E L** 072-432-9251 **F A X** 072-432-2339

**主要製品** 鋼索、鋼線

当製造所は海が隣接しており、工場排水に最大限の注意を払って管理しております。2014年度は、ボイラーを更新し都市ガスの使用量を削減しました。今後も環境活動を活性化させ、地域に貢献できる製造所を目指します。




取締役  
二色浜製造所長  
瀬田 耕次

### 11 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所

**所在地** 〒934-8502 富山県射水市八幡町3丁目10番15号  
**T E L** 0766-84-3181 **F A X** 0766-84-3468

**主要製品** 特殊鋼鍛鋼品（ダイス鋼・プラスチック金型用鋼・その他精密鍛造材）、特殊鋼圧延鋼材

富山製造所では「安全環境最優先」のスローガンを掲げ、環境保全活動に取り組んでいます。環境負荷低減活動、省エネルギー、副産物最終処分量削減に向けて展開する他、周辺とのコミュニケーションの向上にも努めています。




代表取締役専務  
富山製造所長  
林田 敬一

### 12 関西熱化学株式会社 加古川工場

**所在地** 〒675-0137 兵庫県加古川市金沢町7番地  
**T E L** 079-436-1500 **F A X** 079-435-1626

**主要製品** コークス、コークス炉ガス、化成品

加古川工場は、大気汚染・水質汚濁などの防止はもとより、省エネルギー活動や廃棄物の再生利用など、全従業員が一丸となって環境負荷低減に努めると共に、加古川製鉄所と一体となって地域社会との共生を目指しています。




工場長  
岡井 務

### 13 神鋼神戸発電株式会社 神鋼神戸発電所

**所在地** 〒657-0863 兵庫県神戸市灘区灘浜東町2番地  
**T E L** 078-882-8036 **F A X** 078-882-8037

**主要製品** 電力卸供給事業

美しい神戸の山並と港に囲まれた都市型発電所として、従業員全員で環境保全活動に取り組んでいます。設備保全を徹底して安定稼働を図り、エネルギーの安定供給を通じて、皆様から信頼される発電所を目指しています。




代表取締役社長  
三木 尚司

### 14 日本エアロフォーシ株式会社 本社工場

**所在地** 〒713-8013 岡山県倉敷市玉島乙島宇新湊8264番7  
**T E L** 086-523-0135 **F A X** 086-523-0137

**主要製品** 航空・発電用チタン合金/ニッケル合金大型鍛造品

最先端技術を凝り込んだ世界最大級の大口径油圧鍛造プレス機により、航空機・発電用鍛造部品を製造する事業所です。2013年4月の稼働開始後、発電部品の量産に続き2014年度に航空機機体部品の量産を開始しました。2015年度は残るエンジン部品の認証を得る量産に入る計画です。これまで通り、環境不適合の発生0件/年を継続すると共に、量産ロットの大型化によるエネルギー使用効率の大幅な改善を進めていきます。



代表取締役社長  
岡野 正之

### 15 藤沢事業所

所在地 〒251-8551 神奈川県藤沢市宮前100-1  
TEL 0466-20-3111 FAX 0466-20-3115  
主要製品 フラックス入りワイヤ、溶接ロボットシステム



工場長  
長谷川 章

環境設備の総点検、省エネルギー対策、廃棄物発生量の抑制、化学物質の適正管理など環境リスク低減活動を展開して、EMS(環境マネジメントシステム)に対する従業員の意識向上に努めています。また全員参加による事業所周辺清掃など、地域社会との共生・協調にも引き続き取り組んでまいります。

### 17 西条工場

所在地 〒739-0024 広島県東広島市西条町御園宇6400-1  
TEL 082-423-3311 FAX 082-420-0038  
主要製品 被覆アーク溶接棒



工場長  
池上 浩司

環境マネジメントシステム「エコアクション21」を認証取得して10年が経過しました。継続的改善によるレベルの向上を実感しております。環境負荷低減の一例として、昨年度は有機溶剤などの使用抑制を目的に、溶接棒の識別色塗料の切替を開始しました。

### 19 神鋼アクテック株式会社 日高工場

所在地 〒669-5302 兵庫県豊岡市日高町岩中682  
TEL 0796-42-1212 FAX 0796-42-1218  
主要製品 溶接用裏当て材・高機能材脱炭フィルター



工場長  
村田 忠博

「エコアクション21」認証取得後7年目を迎え、本社・営業所・工場の全社的活動を継続中です。特に、コウノトリの野生復帰を推進し自然環境を重視する豊岡市に所在する日高工場では、「環境に配慮した生産活動」や「社会との共生・協調」を方針に掲げ実践していきます。

### 21 真岡製造所

所在地 〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15(第2工業団地)  
TEL 0285-82-4111 FAX 0285-84-0231  
主要製品 アルミ板・条



所長  
谷川 正樹

2014年度は廃棄物の再資源化を推進し、再資源化率は過去最高となりました。また、溶解炉のエネルギー転換も計画的に進めており、CO<sub>2</sub>排出量削減にも努めています。製品では自動車の軽量化に貢献できるアルミの開発・拡販を推進しており、環境に配慮したもののづくりに取り組んでいます。今後も引き続き地域・社会の皆様との共栄に努めていきます。

### 23 大安工場

所在地 〒511-0284 三重県いなべ市大安町梅戸1100  
TEL 0594-77-0330 FAX 0594-77-2249  
主要製品 アルミ・マグネシウム鋳造品、アルミ・マグネシウム鍛造品



工場長  
沼部 裕次

2014年度は高効率コンプレッサの採用、炉の放散熱量の低減などの省エネルギー活動、環境負荷物質の使用量削減に取り組まれました。製品では、アルミサスペンション部品が自動車の軽量化によるCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。今後も環境に配慮した生産活動と製品での環境への貢献に努めてまいります。

### 25 神鋼アルミ線材株式会社 本社工場

所在地 〒593-8315 大阪府堺市西区菱木2丁目2153番地の1  
TEL 072-271-1481 FAX 072-271-1486  
主要製品 アルミ合金線・棒、アルミ線棒加工品



取締役社長  
杉下 幸男

神鋼アルミ線材の環境改善活動は、省エネルギーを軸に5年間で2割を超える原単位削減を成し遂げました。さらなる改善には現行製造方法の抜本的改善が必須であり、2015年度は製造可能サイズのブレークスルーにチャレンジして省エネルギーのステップアップにトライします。

### 27 神鋼リードミック株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号  
TEL 093-381-1337 FAX 093-381-3352  
主要製品 電子部品・半導体・集積回路部品



代表取締役社長  
員賀 史幸

「地球にやさしい会社」を目指す当社では、全従業員一丸となった積極的な環境保全活動を展開しています。2015年度の活動では、めっき工程で使用する処理液の長寿命化技術を実用化し、特別管理産業廃棄物排出量40%削減を計画しています。

### 16 茨木工場

所在地 〒567-0879 大阪府茨木市東宇野辺町2-19  
TEL 072-621-2111 FAX 072-621-2015  
主要製品 被覆アーク溶接棒、フラックス入りワイヤ、配合溶剤



工場長  
樋田 幸雄

適切な環境設備の導入や、森林整備活動を通じた環境意識の向上など、ハード・ソフト両面での環境活動に取り組んでいきます。また、大規模な地震や局地的豪雨などの自然災害に備え、訓練を継続して行うなど、防災活動も引き続き取り組んでいきます。

### 18 福知山工場

所在地 〒620-0853 京都府福知山市長田野町3-36  
TEL 0773-27-2131 FAX 0773-27-6358  
主要製品 ソリッドワイヤ



工場長  
迫 勝幸

2014年度は、老朽化設備の更新による化学物質漏洩防止対策実施や廃棄物の削減など環境負荷軽減に取り組んできました。今後も、教育・訓練を通じて従業員の環境に対する意識向上に努め、廃棄物の削減、再資源化など環境負荷軽減に取り組んでいきます。

### 20 阪神溶接機材株式会社 岡山工場

所在地 〒709-2105 岡山県岡山市北区御津伊田1028-12  
TEL 086-724-4181 FAX 086-724-4340  
主要製品 サブマージアーク溶接フラックス



代表取締役社長  
山本 英樹

原料系廃棄物の発生源対策と社内での再資源化に取り組んでいます。他業種のリサイクル材、準廃棄物などを原料として使用することも前向きにトライしています。環境に配慮した生産活動は収益力向上にもつながるとの考えで推進してまいります。

### 22 長府製造所

所在地 〒752-0953 山口県下関市長府港町14-1  
TEL 083-246-1211 FAX 083-246-1271  
主要製品 アルミ押出材、アルミ加工品、伸銅板・条



所長  
磯野 誠昭

山口県エコファクトリー認定事業所として、法令を順守し、汚染負荷物質削減や地域との協調・共生を継続的に推進しています。2014年度は全従業員が省エネルギー活動に邁進し原単位を約10%低減しました。

### 24 神鋼メタルプロダクツ株式会社 本社工場

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2丁目2番1号  
TEL 093-381-1331 FAX 093-381-3833  
主要製品 銅合金管、モールド、複合材、熱加工品



取締役工場長  
行壽 啓之

2014年は、省エネルギーを主眼として保全部門を中心に徹底した蒸気漏れ、エア漏れの削減に取り組む、大きな成果を得ることができました。2015年度は、この省エネルギー活動を製造部門に拡大展開して取り組んでまいります。

### 26 神鋼ノース株式会社 本社・霞ヶ浦工場

所在地 〒315-8523 茨城県かすみがうら市上稲吉1758-1  
TEL 0299-59-4111 FAX 0299-59-4597  
主要製品 建設仮設材・自動車部材などアルミ加工品



代表取締役社長  
遠山 茂幸

当社は継続して環境負荷低減活動「①省エネルギー、②省資源、③活人化、④品質歩留、⑤棚卸削減」を推進中。2014年度は工場内動力・電灯のトランス更新、工場屋根の一部にアルミ製換気ガラの設置、防寒ジャンパーの貸与などで消費電力削減を図りました。2015年度はこれらの活動をブラッシュアップすると共に、地域社会との共生にも邁進します。

### 28 株式会社コベルコ マテリアル銅管 秦野工場

所在地 〒257-0015 神奈川県秦野市平沢65番地  
TEL 0463-82-3111 FAX 0463-83-1920  
主要製品 空調用、給水・給湯用銅管および銅合金管



工場長  
田口 昌利

当工場は緑と名水で知られる秦野に立地する銅管トップメーカーとして、高い生産歩留の維持と省エネルギー活動によりエネルギー原単位を向上させると共に、新冷媒対応での高性能小径伝熱管の技術開発などを通じて、環境保全に貢献してまいります。



### 29 播磨工場

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島41  
TEL 079-436-2101 FAX 079-436-2199

主要製品 空気圧縮機、冷凍機および蒸気関連商品

「地球温暖化対策」や「循環型社会の構築」などグローバルな環境課題が多様化する中、環境に配慮した生産活動、製品・技術・サービスでの環境への貢献、地域・社会との共生・調和を実践することで、企業価値を向上し社会に貢献してまいります。



工場長  
中南 政彦

### 30 神鋼造機株式会社 本社

所在地 〒503-8505 岐阜県大垣市本今町1682番地の2  
TEL 0584-89-3121 FAX 0584-87-0020

主要製品 試験機、動力伝達装置、発電装置

総合機械メーカーとして、世界に通じる第一級のQCDC工場を目指し、環境に配慮した生産活動と製品・技術・サービスの提供に取り組むと共に、法令順守、各環境管理活動を実践することで、企業価値の向上に取り組んでいます。



代表取締役社長  
米谷 剛人

### 31 高砂製作所

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2-3-1  
TEL 079-445-7111 FAX 079-445-7231

主要製品 鍛造鋼製品、チタン、鉄粉、産業機械、圧縮機、エネルギー・原子力機器

特色あるオンリーワン製品を世界中に供給することで、社会に貢献しています。組織をより横断的かつ現場に入り込んだ形に見直し、「安全・環境・防災・コンプライアンス」の徹底を確かなものとしながら、今後も環境に配慮したものづくりを行ってまいります。



所長  
竹内 正道

### 32 神戸総合技術研究所

所在地 〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台1丁目5-5  
TEL 078-992-5600 FAX 078-992-5532

主要製品 -

神戸総合技術研究所では、全社環境管理規定並びに環境省が定める「エコアクション21」に沿った環境経営マニュアルを整備し、省エネルギー、省資源、廃棄物削減などに配慮しつつ研究開発活動を進めています。環境負荷軽減に資する新製品・新技術の研究開発を通じて社会に貢献してまいります。



開発業務部 部長  
佐伯 公三

### 33 株式会社コベルコ科研 ターゲット事業本部

所在地 〒676-8670 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号  
TEL 079-445-9020 FAX 079-445-9025

主要製品 スパッタリングターゲット材

当事業本部では、フラットパネルディスプレイ用配線材や酸化半導体材料の製造を行う中で省エネルギー・省資源工程を実現します。また、これらを組み込んだ省エネルギー型の高機能テレビやスマートフォンを通じ社会の環境改善に貢献してまいります。



ターゲット事業本部長  
楠本 栄典

### 34 コベルコ建機株式会社 広島事業所

所在地 〒731-5161 広島県広島市佐伯区五日市港2丁目2番1号  
TEL 082-943-5321 FAX 082-943-5322

主要製品 建設機械

五日市工場では、環境管理の総仕上げを行い、沼田工場はメニュー再編に着手しました。製品ではさらなる燃費の向上と排ガス規制対応を実現する新機種種の開発に着手しました。今年度は、新機種メニューの展開、有機溶剤の削減、省エネルギー設備導入の継続や排水処理設備の新設に取り組んでいきます。



生産本部長  
平山 正史

### 35 コベルコ建機株式会社 大垣事業所

所在地 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番7号  
TEL 0584-89-3104 FAX 0584-87-0014

主要製品 建設機械

2014年度はミニショベルのモデルチェンジを行い、重機ショベル同様の燃費向上と低騒音化を実現し、環境にやさしい製品となりました。また生産面においても、生産性の向上による使用電力の削減、塗着効率の向上による廃塗料の削減に引き続き取り組んでまいります。



事業所長  
秋山 健

### 36 コベルコクレーン株式会社 大久保事業所

所在地 〒674-0063 兵庫県明石市大久保町八木740  
TEL 078-936-1331 FAX 078-936-1390

主要製品 クレーンなど土木建設機械、その他諸機械

当事業所では低燃費・低騒音・軽量化を目指した製品開発に取り組んでいます。2014年度は工場内照明を省エネルギータイプに更新し電力使用量を削減しました。2015年度は、廃棄物発生量の削減活動などを通じて環境負荷低減に努めていきます。



事業所長  
小村 和也

### 37 ジャパンスーパーコンダクタテクノロジー株式会社 門司工場(線材工場)

所在地 〒800-0007 福岡県北九州市門司区小森江2-2-1  
TEL 093-391-2835 FAX 093-391-2847

主要製品 超電導線材

門司工場では次世代の発電方法を開発するITERプロジェクトに使用される超電導線材を生産しています。工場では全従業員が参加し「エコアクション21」の活動を展開しております。2014年度は事務所の照明をLED化しました。



工場長  
倉橋 秀文

### 38 株式会社神鋼環境ソリューション 播磨製作所

所在地 〒675-0155 兵庫県加古郡播磨町新島19番地  
TEL 079-436-2500 FAX 079-436-2506

主要製品 化学・医薬品製造用機器、水素発生装置

環境関連企業として、環境コンプライアンスを重点課題とし、大気および水質管理の徹底に取り組んでいます。2015年度は、焼成炉の最適燃焼状態の管理や工場照明のLED化などによる省エネルギー推進を図ることにより、継続して環境負荷低減に取り組んでまいります。



所長  
今中 照雄

### 39 株式会社神鋼環境ソリューション 技術研究所

所在地 〒651-2241 兵庫県神戸市西区室谷1丁目1番4号  
TEL 078-992-6500 FAX 078-997-0550

主要製品 -

技術研究所では、廃棄物の発生量削減や再資源化量向上の推進に取り組んでいます。また、排水基準遵守は、日常巡回点検などによる適正管理の強化を行うと共に、万が一に備えた所員全員参加の緊急事態対応訓練を実施しています。



センター長  
高橋 正光

### 40 神鋼機器工業株式会社 本社

所在地 〒682-0014 鳥取県倉吉市海田東町112番地  
TEL 0858-26-8111 FAX 0858-48-1077

主要製品 高圧ガス容器などのプレス加工品・製品

海、山に囲まれた倉吉の自然豊かな地域との共存を目指し、特に工場排水に注意を払って管理すると共に、密接した地域の皆様に配慮した操業を心がけております。2015年度もボイラーの燃料転換によるCO<sub>2</sub>排出量削減を計画するなど、環境負荷軽減の取り組みを進めてまいります。



取締役  
泉谷 雅人

# 読者の皆様からの評価

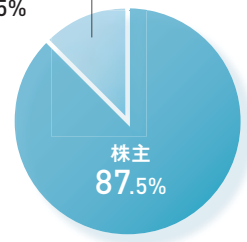
神戸製鋼グループでは、ステークホルダーとのコミュニケーションの一環として、環境・社会報告書の発行にあたり、毎年、読者の皆様にアンケートを実施しています。2014年度版に関して、幅広い皆様から以下のような評価や、ご意見・ご感想をいただきました。今後も、読者の皆様の「声」を誌面に活かした、双方向の環境・社会報告書づくりを進めていきます。

## 2014年度版のアンケート結果

### 回答者のプロフィール

株主の皆様の高い関心がうかがえます。

学生・研究者  
12.5%



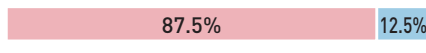
## 2014年度版への評価

■ 評価できる □ 普通 ■ 評価できない

### ▶ わかりやすさ



### ▶ 見やすさ



### ▶ 内容の充実度



### ▶ ページ数



### ▶ [特集:KOBELCO with LIFE]



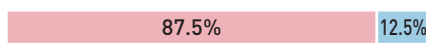
### ▶ 神戸製鋼グループの事業とCSR



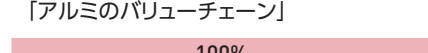
### ▶ コンプライアンスの強化・徹底



### ▶ 環境マネジメント



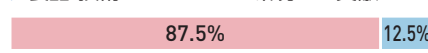
### ▶ 環境活動CLOSE UP



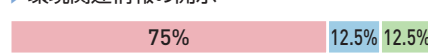
### ▶ あらゆる面で環境に配慮したもののづくりの徹底



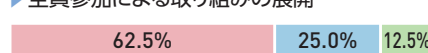
### ▶ 製品・技術・サービスでの環境への貢献



### ▶ 環境関連情報の開示



### ▶ 全員参加による取り組みの展開



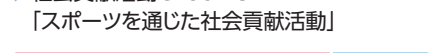
### ▶ リスク管理の徹底



### ▶ 社会貢献活動CLOSE UP1



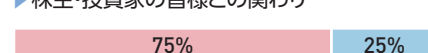
### ▶ 社会貢献活動CLOSE UP2



### ▶ 優れた製品・サービスの提供



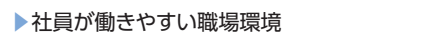
### ▶ 株主・投資家の皆様との関わり



### ▶ 社会との共生



### ▶ 社員が働きやすい職場環境



### ▶ 防災への取り組み



### ▶ 各事業所の環境保全への取り組み



## 読者の皆様からのご意見の一部をご紹介します。

- ▶ どの会社のCSRレポートもほぼ同じ。神戸製鋼グループならではの個性がほしい。
- ▶ 比較的よく活動しているほうだと思う。過去からのCSR活動の変遷が知りたい。
- ▶ 「森の童話大賞」について、これからの子ども達に夢を与える継続した社会貢献を望む。
- ▶ 個々のパフォーマンスと持続可能性との関連について記載してほしい。

- ▶ 透明性、マテリアリティの改善を望む。たとえば従業員の不正防止策などについて明確に記載してほしい。それが透明性に対する信頼感につながる。
- ▶ 海外での社会貢献について、地域清掃や地域社会との交流の話題が目立つが、その国の人権問題に配慮する活動はなかったのでしょうか？地域によっては、取引先が児童労働などの問題に関わっていることもありえます。
- ▶ 事業活動や製品そのものが社会に利益をもたらすCSVの貢献について、もっと積極的にとらえてもいいのでは？

貴重なご意見、ありがとうございました。より良い環境・社会報告書づくりに活かしてまいります。

編集後記  
(株)神戸製鋼所 CSR委員会

「環境・社会報告書2015」の発行にあたっては、製造業ならではの「ものづくり」を通じた環境と社会への貢献活動について、幅広いステークホルダーの皆様にはわかりやすくお伝えすることを意識しました。巻頭特集では今年の1月17日に「阪神・淡路大震災」から20年を迎えたことで、震災時に

どのような行動を取ったのか、震災の教訓をどのように活かしているかを紹介しています。また、事業を通じた「共通価値の創造(CSV: Creating Shared Value)」につながる活動の一つとして、環境報告ページの特集で水素社会に貢献する技術・製品を紹介しています。社会性報告ページの特集

では昨年10周年を迎えた「KOBELCO CUP」をクローズアップしています。写真やグラフなども積極的に掲載し、当社グループの取り組みをご理解いただけるよう努めました。今後も読者の皆様から忌憚のないご意見を賜り、内容の充実に努めてまいります。

# COMMENT

[第三者コメント]



## 神戸製鋼グループ 「環境・社会報告書2015」を読んで

京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長・教授

酒井 伸一

### PROFILE

酒井 伸一(さかい・しんいち)

1984年京都大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。同大学助手、助教授を経て2001年より国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長。2005年より京都大学教授、2010年環境保全センター長、2011年学内改組により現職。廃棄物資源循環学会元会長。中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会専門委員等。著書に『ゴミと化学物質』(岩波新書)など。

神戸製鋼グループは、2010年以降、ものづくりを通じた社会貢献、CSR経営の明確化という方向に明確に舵を切ってこられたことが、最近の環境・社会報告書から読み取ることができます。環境・社会報告書2015の冒頭特集で取り上げられた「阪神・淡路大震災から20年」では、こうした方向への歴史と実績、そして強い意志が伝わってきます。安全防災、BCP(事業継続計画)、社会応援といったポイントに対して、20年前の取り組みが紹介され、そしてその後の企業経営の骨格に据えられていった経緯が的確に述べられています。2011年の東日本大震災や最近の火山爆発といった自然災害は規模と確率が大きくなる周期に入ったことを知らせています。また、気候変動を窺わせる巨大台風が発生と水害被害の頻度がより増えていることから目を逸らすことはできません。多くの社会のステークホルダーの方々と正面から立ち向かった神戸製鋼グループの経験が活かされ、今後の事業展開に結実していくことを予感させます。

最近、神戸製鋼所の発電事業が話題に上ることは多くなってきました。神戸製鉄所高炉跡地に最新鋭の石炭火力発電所2基(130万kW)を新設して関西電力に売電する計画、首都圏でも天然ガスを用いた同規模の発電事業に乗り出すという報道を目にしてきまし

た。関係する発電事業において使用されているエネルギー量や期待される利益との関係から見れば、企業経営的意義は大きい事業のようです。この環境・社会報告書に記載されているエネルギー消費や温室効果ガス発生とは密接不可分な事業であり、将来の事業拡大に向けては再生可能性なども視野に入れた丁寧な説明を待ちたいと思います。

2015年度の報告では、共通価値の創造(CSV: Creating Shared Value)への取り組み事例として、水素社会に貢献する技術・製品を紹介されています。日本政府の水素戦略に足並みに合わせた共通価値として明確な取り組みであることは皆さんが認めるところでしょう。一方、水素社会が共通価値になり得るかどうか、ライフサイクル的な見通しを含めて、冷静な眼も必要かも分かりません。相当にスタディの必要な分野であることは間違いありません。そして、神戸製鋼グループが推進されておられる幅広い素材事業や社会基盤創造に繋がる事業が有する社会的側面をCSVと認識することであっていいと認識しています。何より、企業の持続性と社会の持続性が同じベクトルにのる方向であることが、その企業に関係するすべての方にとって大きな喜びに繋がるという視点を大切にしていきたいと思います。

# KOBELCO

## 株式会社神戸製鋼所

神戸本社 〒651-8585 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2丁目2-4  
東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12

発行:(株)神戸製鋼所 CSR委員会

ホームページでもご覧になれます

[http://www.kobelco.co.jp/about\\_kobelco/csr/](http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/)